

授業科目名	【新カリ】グローバルコミュニケーション		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	半期（前期または後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	和氣 秀文			
科目担当者	和氣 秀文、坂本 彰宏、室伏 由佳、鄧 鵬宇			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツ健康科学に関する専門的知識又は技能をもとに、変容し続ける国際社会の場で活躍できる資質及び国際的視野を身につけることを目指し、グローバル化社会には欠かせない語学力、国際人に求められる幅広い教養とセンス、コミュニケーション能力を涵養する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目はスポーツ健康科学部において「グローバル社会において連携や協働を促進するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流で起こりうる様々なシーンで、会話や文書によるコミュニケーションを取る事ができる。 2. 英語で履歴書(CV)や自己profile(biography)を作成することができる。 3. スポーツ健康科学に関わる国際問題についてディベート(公的な主題について異なる立場に分かれ議論する)を繰り広げ、多角的な観点から解決法や代替案を提示できる。 4. 海外遠征・留学・研修の際に必要な準備や、リスクマネジメントを自主的にすることができる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 履歴書、自己profile、フォーマルレターを英語で作成する事が出来る(レポート) 2. 国際交流に必要なフレーズを英語や中国語で表現することができる(平常点) 3. ディベートでfor/against(賛成/反対)の両意見を述べ理解し、グローバルな解決法や代替案を提示することができる(口頭試験) <p>【成績評価の方法】</p> <p>レポート課題3回(40%)、受講態度を基とする平常点(20%)、口答試験1回(40%)を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし。</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の総出席が2/3を満たさない場合は単位を認定しない。 2. 授業中やディベート試験中での発言が一切無い場合は厳格に評価をする。 <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>後日に授業内で模範解答や評価ポイントを提示し、解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>授業内で担当教員より配布される。授業に関連する資料をインターネットから検索し参考にしても良い(取扱注意)。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当：和氣 秀文 E-mail：hwaki[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：火曜日午後 場所：スポーツ健康医科学研究所3階 生理学系実験室(9304号室)</p> <p>上記の時間帯には予約無しに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性もある為、事前にe-mailで予約をすることが望ましい。</p>				

備考			
<p>【学修時間】 この授業は演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業30時間以上を含む)の学習を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 特になし</p>			
授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容(授業方法を含む)	準備学修(予習・復習)の内容、必要時間(レポート)
1	和氣 坂本 室伏 鄧	<p>【授業内容】 テーマ： ガイダンス</p> <p>【授業方法】 授業の概要や成績評価方法について学ぶ。担当教員からの自己紹介を聞く。</p>	<p>(予習：2時間) 授業形態、内容、成績評価法についてシラバスを熟読する。</p> <p>(復習：1時間) 授業形態、成績評価法、注意事項について理解を深める。</p>
2	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： 英語での挨拶、自己紹介、質問、返答の仕方を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 英語で交流する際のフレーズを学び、学生間で実際にコミュニケーションをとる。</p>	<p>(予習：2時間) 基礎的な英語フレーズについてテキストやインターネットサイトなどで予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 学習した英語フレーズを自ら言える、書ける様にする。</p>
3	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： 英語で文書を作成する(1)。</p> <p>【授業方法】 履歴書(CV)や自己profile(biography)を英語で作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 履歴書作成に必要な情報をリストアップする。自己profileに記載する自身の情報をまとめておく</p> <p>(復習：3時間) 履歴書と自己profileを完成させ、提出に備える。</p>
4	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： 英語で文書を作成する(2)。</p> <p>【授業方法】 フォーマルレターの書き方を学び、英語で作成する。</p>	<p>(予習：2時間) フォーマルレターで使われるフレーズや形式をインターネットサイトで調べておく</p> <p>(復習：3時間) フォーマルレターを完成させ、提出に備える。</p>
5	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： スポーツ健康科学に関する時事問題を知る。</p> <p>【授業方法】 スポーツ健康科学に関する国際的な時事問題をインターネットや既存知識を介してリストアップし、背景と実情を知る。</p>	<p>(予習：3時間) 時事問題が掲載されている記事やインターネットサイトを探す。</p> <p>(復習：2時間) 時事問題の背景と事情への理解を深め、解決策について考える。</p>
6	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： ディベートをする。</p> <p>【授業方法】 スポーツ健康科学の国際的時事問題についてディベートを行う。For/againstの両観点から議論し、意見をまとめる。</p>	<p>(予習：2時間) 時事問題の中で、特に気になる項目を選別し、ディベートに備える。</p> <p>(復習：2時間) 学習したディベート法に従い、他の学生と好きなトピックについてディベートを試みる。</p>

7	鄧	<p>【授業内容】 テーマ： 中国語での挨拶、自己紹介、質問、返答の仕方学ぶ。</p> <p>【授業方法】 中国語で交流する際のフレーズを学び、学生間で実際にコミュニケーションをとる。</p>	<p>(予習：2時間) 基礎的な中国語フレーズについてテキストやインターネットサイトなどで予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 学習した中国語フレーズを自ら言える、書ける様にする。</p>
8	鄧	<p>【授業内容】 テーマ： 中国語を正しく発音する。</p> <p>【授業方法】 中国語のネイティブ発音を学習する。</p>	<p>(予習：2時間) 中国語の発音を調べることが出来るインターネットサイトを見つける。</p> <p>(復習：2時間) 学習した発音が再現できるよう、他の学生と練習する。</p>
9	鄧	<p>【授業内容】 テーマ： 中国語での施設紹介。</p> <p>【授業方法】 中国語圏からのゲスト訪問を想定し、学内施設を中国語で案内する方法を学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) 学内にある施設の中国語名について、インターネットサイトを活用し、予習する。</p> <p>(復習：3時間) 学習した案内用語を使い、他の学生と練習する。</p>
10	室伏	<p>【授業内容】 テーマ： 海外遠征・出張の手順と注意点。</p> <p>【授業方法】 スポーツ遠征や出張で海外に行く際に必要な手順とリスクマネジメントについて学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) 海外で起こりえる事件、事故について調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 海外での国際交流参加を想定し、何が既に出来ていて、何が出来ていないかについてセルフチェックをする。</p>
11	室伏	<p>【授業内容】 テーマ： 海外でのドーピング検査。</p> <p>【授業方法】 ドーピング検査やスポーツ現場で使われる英語フレーズについて学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) 日本で行われるドーピング検査の工程について予習しておく。自身が実際に使ってみたい英語フレーズをリストアップする。</p> <p>(復習：2時間) 学習した英語フレーズについて理解を深め、自身でも発言できる、理解できるようにする。</p>
12	和氣	<p>【授業内容】 テーマ： 海外での研究生生活(1)。</p> <p>【授業方法】 英語圏の大学等における研究体制や研究環境について学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) 米国や英国など、英語圏における大学・大学院制度について調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 学修した他国の研究体制や研究環境に関して、長所や短所、日本との違い等について纏めてみる。</p>
13	和氣	<p>【授業内容】 テーマ： 海外での研究生生活(2)。</p> <p>【授業方法】 英語圏と中国語圏以外の大学等における研究体制や研究環境について学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) 予め指定のあった国の大学・大学院制度について調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 学修した他国の研究体制や研究環境に関して、長所や短所、日本との違い等について纏めてみる。</p>

14	和氣 坂本 室伏 鄧	<p>【授業内容】 口答試験(ディベート)</p> <p>【授業方法】 学習したディベートルールに従い、スポーツ健康科学に関する時事問題について議論し、意見をまとめる。ディベートの内容は成績評価対象となる。</p>	<p>(予習：3時間) スポーツ健康科学に関する国際的時事問題について理解を深め、for/againstどちらの意見もまとめておく。</p> <p>(復習：2時間) 自身の意見と他の学生からの意見を総括し、解決法や代替案について考え、将来に活かす。</p>
		定期試験を実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	通年
対象学年	3	3	単位数	4.0
科目責任者	山崎 一彦			
科目担当者	中村充、原田睦巳、廣瀬伸良、山崎一彦、吉田和人、蔦宗浩二、中嶽誠、中村恭子、仲村明、武田剛、鳥寄佑、竹澤稔裕、高梨雄太、富田洋之、中田学			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。 「剣道のコーチング演習」においては、日本剣道形および木刀による基本技稽古法について、解説書を用いて、その理合いを学び、演武できるようにする。試合審判法については、試合規則・細則ならびに運営要領を理解し、所作を身につけるとともに実際の試合場面に対応できる素養を身につけることを目指す。打突動作について客観的に分析する視点を学ぶなどし、多様な対象者へ指導できる力を身につける。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1.陸上競技における科学的なトレーニング方法が理解できる 2.陸上競技におけるコーチング方法の実際について理解を深めることができる 3.陸上競技におけるパフォーマンス向上のため</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1.パフォーマンス向上のための基礎的な科学的根拠が理解できている。（口頭試問） 2.陸上競技に関する基礎的な動作ができる。（実技試験） 3.陸上競技に関する基礎的なトレーニング方法が理解できている。（口頭試問、実技試験） 4.授業態度・取り組む姿勢が積極的である。（平常点）</p> <p>【成績評価の方法】 課題達成度（50％）、知識の獲得度（20％）、授業態度・取り組む姿勢（30％）を総合的に評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 1年次開講の陸上運動を受講しておくことが望ましい。</p> <p>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題ごとに、口頭試問や実技試験を実施し、フィードバックしながら進めていく。</p> <p>【テキスト・参考書】 授業中に適宜、資料を配布します。</p>			
連絡先とオフィスアワー	山崎一彦（1号館5階1522号室）：木曜日 9:30～11:30 E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp			
備考	<p>【学修時間】 この授業は演習形式による4単位の科目であり、授業60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、資格との関連はない。</p>			

授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	山崎	<p>【授業内容】 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法を受講者が理解する。 また、予習・復習方法についても理解し、実行できるようにする。</p> <p>【授業方法】 講義形式で行い、陸上競技のコーチングに関する興味付けを行う。 陸上競技の歴史について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） シラバスを読み、授業展開を確認しておく。</p> <p>（復習：3時間） 陸上競技のトラックの歴史について調べ、奥深い理論が学べるようにしておく。</p>
2	山崎	<p>【授業内容】 短距離走の歴史とルールについて理解する。</p> <p>【授業方法】 短距離走の歴史について解説し、その背景について受講者は討議する。また短距離走のルールの変遷を解説し、現代におけるルールを理解した上で、背景と対策について討議する。</p>	<p>（予習：2時間） ルールブックより、短距離走のルールについて読んでおく。</p> <p>（復習：3時間） 短距離走のルールと歴史的背景をまとめておく。</p>
3	山崎	<p>【授業内容】 速く走るというメカニズムをエビデンスベースで理解するために講義を中心とした知識を得る。</p> <p>【授業方法】 講義形式で知識を増やしながらか、グループ分けをして、速く走るということを深掘りしていく。</p>	<p>（予習：2時間） 世界一流競技者および日本一流競技者の動作をなるべく多くの動画を見て、速く走るという動作などを整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 速く走るというエビデンスを整理し、更に参考書や文献検索をして理解を深める。</p>
4	山崎	<p>【授業内容】 エナジェティクスな部分と効率といった動作の部分から、速く長く走るということを解説する。</p> <p>【授業方法】 「速く長く走る」というテーマで解説で得た知識をもとに、グループワークでトレーニング方法をデザインする。</p>	<p>（予習：2時間） スポーツ生理学などから運動エネルギー代謝について復習しておく。</p> <p>（復習：3時間） 速く長く走るためのエナジェティクスを本講義で行ったことと自身で調べたことをまとめておく。さらに運動の効率というところは力学的視点から整理しておく。</p>
5	山崎	<p>【授業内容】 スマートフォンおよびタブレット端末を用いて、計測のできる動画撮影方法を学び、実際に撮影する。</p> <p>【授業方法】 身近にあるスマートフォンやタブレット端末を用いて、簡便かつ正確に計測や分析のできる方法を学び、実際にスプリント走の撮影を行う。</p>	<p>（予習：2時間） インターネットやSNS等の一流競技者から一般競技者までのスプリント走を検索しなるべく数多く閲覧しておく。</p> <p>（復習：2時間） 本講義で撮影した自身または他人の動画を講義で学んだ分析方法から、時間分析をしておく。</p>

6	山崎	<p>【授業内容】 スプリント走の時間分析をした結果をグループで集め、それぞれの評価をする。また、そこから、速く走ることの要因について学。</p> <p>【授業方法】 速く走るといふメカニズムをエビデンスを解説し、トップアスリートと本講で撮影した動画を比較しながら、コーチング視点からディスカッションする。</p>	<p>(予習：2時間) 日本剣道形の成立過程について調べる。また、元太刀と仕太刀の意義および呼吸の合わせ方を調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 竹刀と木刀の特性の違いが、動作に与える影響について整理する。</p>
7	山崎	<p>【授業内容】 受講生がグループを作り、疾走動作をし動画撮影を行う。</p> <p>【授業方法】 速く走るといふメカニズムをエビデンスを解説し、トップアスリートと本講で撮影した動画を比較しながら、コーチング視点からディスカッションする。</p>	<p>(予習：2時間) 日本剣道形解説書の、1～3本目について熟読する。</p> <p>(復習：2時間) 日本剣道形1～3本目における自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。</p>
8	山崎	<p>【授業内容】 解説書に基づき、日本剣道形4～7本目の理合いを理解し、木刀にて演武できるようにする。</p> <p>【授業方法】 日本剣道形4～7本目を解説書にしたがって読み合わせるとともに、その解釈について説明する。2人組にて木刀で、日本剣道形1～3本目を復習し、4～7本目を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 日本剣道形解説書の、4～7本目について熟読する。</p> <p>(復習：3時間) 日本剣道形1～7本目における自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。</p>
9	山崎	<p>【授業内容】 小太刀の特性と扱い方について理解する。解説書に基づき、日本剣道形8～10本目の理合いを理解し、木刀にて演武できるようにする。</p> <p>【授業方法】 小太刀の特性と扱い方を解説する。日本剣道形8～10本目を解説書にしたがって読み合わせるとともに、その解釈について説明する。2人組にて小太刀の扱い方と構え方を身につける。日本剣道形1～7本目を復習し、8～10本目を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 日本剣道形解説書の、8～10本目について熟読する。</p> <p>(復習：3時間) 日本剣道形1～10本目における自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。</p>
10	山崎	<p>【授業内容】 刀の扱い方を理解する。模擬刀で日本剣道形10本を行ってみる</p> <p>【授業方法】 刀の扱い方について解説する。昇段審査規則の日本剣道形審査基準について解説する。木刀にて日本剣道形10本を演武し、受講生相互に評価する。模擬刀にて日本剣道形10本を行ってみる。</p>	<p>(予習：2時間) 刀の各部の名称および扱い方を調べる。昇段審査規則の日本剣道形に関わる審査基準を調べる。</p> <p>(復習：2時間) 日本剣道形10本の自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。</p>

11	山崎	<p>【授業内容】 模擬刀を用いて日本剣道形10本を演武できるようにする。</p> <p>【授業方法】 解説書に基づいて木刀にて確認し、模擬刀にて日本剣道形10本の演武を行う。</p>	<p>(予習:2時間) 解説書にて、日本剣道形10本の理合いを再確認する。</p> <p>(復習:2時間) 自己の日本剣道形10本の課題を整理し、竹刀剣道に活用する要点を整理する。</p>
12	山崎	<p>【授業内容】 日本剣道形の指導上の留意点を理解し、指導を実践してみる。</p> <p>【授業方法】 解説書に基づいて日本剣道形の指導上の留意点を解説する。指導の実践を行う。</p>	<p>(予習:2時間) 解説書にて、日本剣道形指導上の留意点を読んでおく。</p> <p>(復習:3時間) クラブ等にて指導の実践を行う。</p>
13	中村	<p>【授業内容】 木刀による剣道基本技稽古法の意義を理解する。木刀による剣道基本技稽古法について、自己動作の確認を行う。</p> <p>【授業方法】 木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づいて、その意義を解説する。2人組で木刀による剣道基本技稽古法を実施し、基本9本を確認する。</p>	<p>(予習:2時間) 木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づき、成立過程を確認する。</p> <p>(復習:2時間) 木刀による剣道基本技稽古法を実施する際の要点を整理する。</p>
14	山崎	<p>【授業内容】 木刀による剣道基本技稽古法について、初心者への指導法を検討する。木刀による剣道基本技稽古法について、指導内容の確認を行う。</p> <p>【授業方法】 木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づいて、指導への活用意義を解説する。2人組で木刀による剣道基本技稽古法を実施し、示範すべき動作確認および初心者指導への具体的な活用内容を確認する。</p>	<p>(予習:2時間) 木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づき、初心者指導の留意点を確認する。</p> <p>(復習:2時間) 木刀による剣道基本技稽古法を指導する際の要点を整理する。</p>
		定期試験は実施しない	
15		<p>【授業内容】 剣道試合・審判規則細則および審判の手引きに基づき、審判員の任務ならびに心構えを理解する。</p> <p>【授業方法】 規則細則第1条ならびに手引きに記述されている、審判員の任務および心構えについて解説する。受講生の過去の試合経験から、審判に関する経験や疑問について意見交換する。</p>	<p>(予習:3時間) 試合・審判規則細則を準備し、一読する。</p> <p>(復習:2時間) 試合が剣道の発展や試合者に寄与する影響力を整理したうえで、審判員の任務・心構えについて再検討する。</p>

16		<p>【授業内容】 審判員の所作を学習し、正しい姿勢での所作を身につける。</p> <p>【授業方法】 試合規則に則った審判員の所作を解説する。審判旗を持ち、鏡あるいは受講者相互で立位姿勢や審判旗表示姿勢を確認し、様々な場面の所作法を身につける。</p>	<p>(予習：2時間) 試合・審判規則細則にて、審判員の所作および旗の表示方法を確認する。</p> <p>(復習：2時間) 規則に示された審判員の所作および旗の表示法を整理し、鏡などを利用して自分の姿を確認する。</p>
17		<p>【授業内容】 運営要領に基づく審判員の入退場の所作、試合時の責任範囲や審判員三者による連携原則を理解する。審判員の試合場への入退場所作、移動時の所作を身につけ、原則に基づく移動や連携ができることを目指す。</p> <p>【授業方法】 審判員の移動範囲、責任範囲、および連携の原則について解説する。受講生が相互に審判員と試合者となり、審判員の入退場や移動、原則に基づく移動や連携を実践する。</p>	<p>(予習：2時間) 試合運営要領を準備し、審判員の責任範囲および連携方法について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 審判員の責任範囲および連携方法について整理し、自己の課題を抽出する。</p>
18		<p>【授業内容】 有効打突の条件に関する理解を深め、有効打突を見極める要件・要素を理解する。</p> <p>【授業方法】 試合規則および運営要領に記述してある有効打突の条件とそれを見極める要件・要素を解説する。受講生同士で審判員と試合者に分かれ、様々な打突を実演しながら有効打突の判定について研究する。</p>	<p>(予習：2時間) 試合規則の有効打突の条件を暗記する。試合運営要領に記載されている有効打突を見極める要件・要素について読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) ビデオ等で、様々な年代やレベルの試合で判定されている有効打突の判定を確認し、自己の判定基準を整理する。</p>
19		<p>【授業内容】 禁止事項・反則事項に関する理解を深め、適切な判断力を身につける。</p> <p>【授業方法】 試合規則および運営要領に記述してある禁止事項・反則事項とそれを見極めや対応法を解説する。受講生同士で審判員と試合者に分かれ、様々な禁止事項・反則事項を実演しながら対応法について研究する。</p>	<p>(予習：2時間) 試合規則に記載されている禁止事項・反則事項を確認する。試合運営要領に記載されている禁止事項・反則事項の解釈や対応法について読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 様々な事例あるいは試合者の年代によって変わる禁止事項・反則事項への対処法について、整理する。</p>

20		<p>【授業内容】 審判員として、試合全般を運営する総合的能力を養う。</p> <p>【授業方法】 受講者が相互に審判員と試合者になり、模擬試合を審判員として運営する。その中で生じた様々な事象に対し、試合規則および運営要領を参照しながら疑問点の解決を図り、適切な対応方法を検討する。</p>	<p>(予習：2時間) 試合規則ならびに運営要領にて、審判員の所作、有効打突の条件、禁止事項。反則事項についてあらためて確認する。</p> <p>(復習：2時間) 模擬試合で発生した課題について、その対応法を整理する。</p>
21		<p>【授業内容】 審判員として、試合全般を運営する総合的能力を養う。</p> <p>【授業方法】 受講者が相互に審判員と試合者になり、模擬試合を審判員として運営する。その中で生じた様々な事象に対し、試合規則および運営要領を参照しながら疑問点の解決を図り、適切な対応方法を検討する。</p>	<p>(予習：2時間) 試合規則ならびに運営要領にて、審判員の所作、有効打突の条件、禁止事項。反則事項についてあらためて確認する。</p> <p>(復習：2時間) 模擬試合で発生した課題について、その対応法を整理する。</p>
22		<p>【授業内容】 段位制度について理解し、審査内容について学習するとともにその要点に沿った立合いを行う。</p> <p>【授業方法】 剣道段位審査規則に基づいて、段位制度およびその審査項目を解説する。2人組となり、審査内容に沿った立合いを実施する。</p>	<p>(予習：2時間) 剣道段位審査規則を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 審査項目について理解を深め、事故の立合いの課題について整理する。</p>
23	山崎	<p>【授業内容】 初心者を指導する際の留意点を理解する。そして年代別の初心者指導法について学習する。</p> <p>【授業方法】 スポーツコーチングにおける初心者指導の基本概念を解説し、剣道が有する伝統的な文化や考え方を初心者に指導する際の留意点を解説する。特に礼法や基本動作について、各年代に応じた指導方法について意見交換しながら効果的な方法を検討する。</p>	<p>(予習：2時間) 剣道指導要領にある初心者指導内容を活用して、主な留意点をまとめておく。</p> <p>(復習：3時間) 初心者指導や幼少年指導で陥りやすい問題点について、課題を整理し発展的な展望を検討する。</p>
24		<p>【授業内容】 学校現場の授業展開において、親しみやすい剣道授業の教材・手法について学習し、指導できる力を身につける。</p> <p>【授業方法】 剣道の導入に使用できるゲームについて、受講者同士で体験し、指導する際の手順について検討する。(道具の不使用あるいは新聞紙やボールなどの一般的道具を使用したゲーム)</p>	<p>(予習：2時間) 剣道具を使用しないで剣道の特性に近づけるゲームについて調べる、あるいは考案する。</p> <p>(復習：2時間) 様々な剣道ゲームをアレンジし、新たなゲームを考案する。</p>

25		<p>【授業内容】 学校現場の授業展開において、親しみやすい剣道授業の教材・手法について学習し、指導できる力を身につける。</p> <p>【授業方法】 剣道の導入に使用できるゲームについて、受講者同士で体験し、指導する際の手順について検討する。（剣道具とその他の道具を使用しながら行えるゲーム）</p>	<p>（予習：2時間） 剣道具を使用して行えるゲームについて調べる、あるいは考案する。</p> <p>（復習：2時間） 様々な剣道ゲームをアレンジし、伝統的な道具の扱いや考え方を損なわないような新たなゲームを考案する。</p>
26		<p>【授業内容】 二刀流の歴史的背景および基本的な技術を学習し、二刀流を体験してみる。</p> <p>【授業方法】 二刀流の歴史的背景、基本的な規則および技術を解説する。受講者同士で二刀流をお互いに体験する。</p>	<p>（予習：2時間） 二刀流の規則について調べる。またインターネット等を活用して実戦映像を視聴する。</p> <p>（復習：2時間） 二刀流の特性を整理し、指導の際の留意点をまとめる。</p>
27		<p>【授業内容】 学校およびコーチング現場でのセッションを想定し、運営・展開する力を養う。</p> <p>【授業方法】 相互に指導者役と競技者・生徒役を行い、指導案にしたがって模擬授業を行う。その後、意見交換を行う。</p>	<p>（予習：3時間） 対象者・実施項目を設定し、30分程度の指導案を考案する。</p> <p>（復習：2時間） 模擬授業を振り返り、良かった点やうまくいかなかった点を整理し、解決策を見出す。</p>
28		<p>【授業内容】 学校およびコーチング現場でのセッションを想定し、運営・展開する力を養う。</p> <p>【授業方法】 相互に指導者役と競技者・生徒役を行い、指導案にしたがって模擬授業を行う。その後、意見交換を行う。</p>	<p>（予習：3時間） 対象者・実施項目を設定し、30分程度の指導案を考案する。</p> <p>（復習：2時間） 模擬授業を振り返り、良かった点やうまくいかなかった点を整理し、解決策を見出す。</p>
		定期試験は実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツリーダーシップ論		授業形態	オムニバス、講義および
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	山崎 一彦			
科目担当者	山崎一彦、吉村雅文、水野基樹、武田剛			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。トップアスリートが成功するためには、競技力及び成績向上を求められるのと同時に、そのスポーツ競技における発信力やリーダーシップ能力が強く求められる。近年は、よりよいスポーツ競技の発展のために、その期待や役割について社会的な影響があるほど大きくなっている。スポーツにおけるリーダーシップについてトップアスリートとして人間形成に必要な知識と方法について理解を深める。また、競技者・チーム組織に関する理念・戦略・方針などの競技者、コーチ、組織間におけるリーダーには何が必要なのか、真のリーダーに求められるものは何かを学ぶ。同時に、組織におけるリーダーシップとフォロワーシップの関係性を理解し、最新のリーダーシップ理論の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式 / 全14回）</p> <p>（15 山崎一彦 / 6回）</p> <p>なぜアスリートがリーダーシップを取っていく必要があるのか理解するとともに、リーダーとしての発信力、発信方法、表現方法及び危機管理について理解を深める。また、スポーツ活動を通じたリーダーシップをとることによって得られるデュアルキャリアを考える。自らがスポーツリーダーとして活躍するために、望まれるリーダーシップと自身が実施できる事項について考える。</p> <p>（1 吉村雅文 / 3回）</p> <p>リーダーの本質を深く理解するとともに、競争を勝ち抜くために必要なリーダーシップとはどのようなものを理解する。球技系コーチング学の観点からみたリーダーシップを理解し、理想のキャプテン像について理解を深める。リーダーに求められる改革とイノベーションについて理解を深める。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツリーダーシップの社会的役割と重要性を具体的に述べるができる（レポート） 2. トップアスリートに求められるリーダーシップ発揮能力をイノベーションすることができる（プレゼンテーション） 3. 授業中の発言やグループワークの取り組み状況によって受講態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】</p> <p>平常点（20%）課題レポート（40%）ならびにプレゼンテーション試験（40%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

<p>【履修要件】 スポーツコーチング論，体力トレーニング論を受講していることが好ましい。授業内はグループディスカッションが頻繁に実施するため、授業前の予習でその材料となる情報収集や資料作成を十分に行うこと。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは翌週の授業で返却し、解説を行う。課題プレゼンテーションは、授業内で講評をする。</p> <p>【テキスト・参考書等】 授業前までに、各担当教員が連絡します。</p> <p>連絡先とオフィスアワー</p> <p>【連絡先】 担当： 山崎一彦 E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 陸上競技研究室：1号館1522号室</p> <p>【オフィスアワー】 火曜日 13時～15時 上記時間帯は予約がなくても対応しますが、予約のあった学生を優先します。できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。</p> <p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 特になし</p> <p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	山崎	<p>【授業内容】 よりよいスポーツ競技の発展のために、なぜアスリートがリーダーシップを取っていく必要があるのか理解し、興味を深める。</p> <p>【授業方法】 グループディスカッションでリーダーシップの必要性を自ら考え、新しい時代にマッチしたリーダーについて解説する。</p>	<p>（予習：2.5時間） 円滑なディスカッションを可能にするため、スポーツにおける現在のリーダーを数名調べ、現時点における自身の理想とするリーダー像を明確にしておく。</p> <p>（復習：1.5時間） ディスカッションで挙げた新しい時代にマッチしたリーダーについて整理する。</p>
2	吉村	<p>【授業内容】 リーダーの本質を深く理解するとともに、競争を勝ち抜くために必要なリーダーシップとはどのようなものかを理解する。</p> <p>【授業方法】 座学とワークを組み合わせながら授業を展開しリーダーシップとはどのようなものかを体感しながら理解を深める。</p>	<p>（予習：2.5時間） リーダーとは？リーダーシップとは？文献等を利用し事前に調べるとともに、自分なりに整理をする。</p> <p>（復習：1.5時間） 座学とワークから得ることのできたことを含めて、リーダーとは何か、リーダーシップとは何かを整理する。</p>
3	吉村	<p>【授業内容】 球技系コーチング学の観点からみたリーダーシップを理解し、理想のキャプテン像について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 サム・ウォーカーの「キャプテンたちの7つのスキル」についてディスカッションを含めて検討する。</p>	<p>（予習：2.5時間） 理想のキャプテンとはどんな人材か、文献等を利用し事前に調べるとともに、自分なりに整理をする。</p> <p>（復習：1.5時間） 「キャプテンたちの7つのスキル」についてのディスカッションを整理する。</p>

4	吉村	<p>【授業内容】 リーダーに求められる改革とイノベーションについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 優れたリーダーの改革に対する行動やマネジメントの実例から、自分自身のリーダーシップの未来について議論する。</p>	<p>(予習：2.5時間)</p> <p>スポーツ強化のために必要なリーダーと企業に必要なリーダーとの違いについて、文献等を利用して事前に調べるとともに、自分なりに整理をする。 (復習：1.5時間) 自分自身のリーダーシップの未来について整理する。</p>
5	水野	<p>【授業内容】 リーダーシップについての神話と真実について、カリスマ論やリーダーシップ開発論などの理論的視座に立脚して解説する。</p> <p>【授業方法】 座学による講義を主体としながらも、組織開発のツールを用いてのワークも実施することにより、リーダーシップという影響力を理解する。</p>	<p>(予習：2.5時間)</p> <p>リーダーシップとマネジメントの概念的な相違点に関して文献等で事前に調べる。 (復習：1.5時間) リーダーシップという影響力は、いつ誰が発揮すべきかについて講義内容を踏まえて整理する。</p>
6	水野	<p>【授業内容】 リーダーシップとフォロワーシップの関係性についての考え方を概観したうえで、最新のリーダーシップ理論(サーバント・リーダーシップ理論、シェアド・リーダーシップ理論、LMX理論など)を理解する。</p> <p>【授業方法】 座学による知識の習得のみならず、VTR視聴によってリーダーシップを発揮する現場(スポーツ、ビジネス、政治など)の臨場感を創出する。</p>	<p>(予習：2.5時間)</p> <p>リーダーシップ論におけるフォロワーシップ概念とは何かについて事前に調べる。また、唯? 最善のリーダーシップ・スタイルが存在するか検討する。 (復習：1.5時間) 組織における影響力発揮の方向性の種類について整理する。そして、どのようにしてリーダーシップ理論が現場で実践に活かされているのか検討する。</p>
7	水野	<p>【授業内容】 組織変革を進めるステップをコッターの組織変? プロセスモデルを用いて解説する。そして、組織変革に成功したスポーツチームの事例について議論する。</p> <p>【授業方法】 基本的な理論的フレームワークを説明した後、ケーススタディ教材を用いてグループディスカッションを実施する。そして、TKJ法によるアイデアの収集および体系化を試みる。</p>	<p>(予習：2.5時間)</p> <p>基本的なKJ法の手続きやプロセスについて調べることで、グループワークが円滑に展開できるように準備する。 (復習：1.5時間) TKJ法によって収斂されたケーススタディ教材の内容を振り返り(内省して)、ほかの組織やチームへの援用可能性やフィージビリティを検討する。</p>
8	武田	<p>【授業内容】 リーダーとしての倫理観および規範意識について理解を深める</p> <p>【授業方法】 講義による情報提供と、事例をもとにしたグループディスカッションで理解を深める。</p>	<p>(予習：2.5時間)</p> <p>倫理、モラル、マナーの言葉の定義を整理し、自身が所属するチーム内や社会からの求められる倫理観や規範意識を考え、授業に備える。 (復習：1.5時間) 人間力と競技力のダブルゴールの追求に必要な取り組みを具体的に考える。</p>

9	武田	<p>【授業内容】 リーダーとしてのインテリジェンスの必要性を理解し、その活用方法について考える</p> <p>【授業方法】 情報および科学的データの活用事例と方法について学んだ後、グループディスカッションの中で整理をしていく</p>	<p>(予習：2.5時間) 自身が深く関わるスポーツにおいて活用される数量データ等の情報を事前ノートに整理して授業に備える。</p> <p>(復習：1.5時間) 授業内容を踏まえ、自身が深く関わるスポーツチームへの科学的データ活用案を作成する。</p>
10	山崎	<p>【授業内容】 パフォーマンスを継続的に発揮させるために、組織、人間関係、サポート体制の周囲環境を整えるコンピテンシーを高めることを理解する</p> <p>【授業方法】 理念、方針、戦略の設定と周囲環境の整備をすることによって、継続的なパフォーマンス向上が目指すことを目的としたグループディスカッションと小プレゼンテーションを行う</p>	<p>(予習：2.5時間) 円滑にディスカッションするために、自身の興味のある競技団体またはスポーツ団体などの理念、方針、戦略を2団体以上調べ、整理をする。</p> <p>(復習：1.5時間) 理念、方針、戦略および周囲環境の整備に関して、継続的なパフォーマンス向上ができる組織に必要なものを整理する。</p>
11	山崎	<p>【授業内容】 リーダーとしての発信力、発信方法、表現方法および危機管理について理解を深める</p> <p>【授業方法】 事例を取り上げ、受講者からの知っている事例に発展させ、グループディスカッションにより好ましい発信と危機管理を共有していく</p>	<p>(予習：2.5時間) 印象に残るリーダーの言葉を複数調べしておく。また、その発信をするための方法や表現方法について、ディスカッションができる様に事前に整理しておく。</p> <p>(復習：1.5時間) 事例をまとめ、好ましい情報発信方法と危機管理について共有したものをまとめる。</p>
12	山崎	<p>【授業内容】 スポーツ活動を通じたリーダーシップを獲ることによって得られるデュアルキャリアを考える</p> <p>【授業方法】 アスリートのデュアルキャリアまたはセカンドキャリアについて事例を挙げ、グループディスカッションでスポーツやその他の分野で活躍するアスリートについて考えていく</p>	<p>(予習：2.5時間) グループディスカッションを円滑に行える様にするため、アスリートのデュアルキャリアまたはセカンドキャリアについての事例を複数整理しておく。</p> <p>(復習：1.5時間) 元アスリート達がスポーツやその他の分野で活躍するためには、どんなことが必要になってくるかを整理する。</p>
13	山崎	<p>【授業内容】 自らがスポーツリーダーとして活躍するために、望まれるリーダーシップと自身が実施できる事項について考える。それらを題材にプレゼンテーション方法(話し方、まとめ方)を理解する</p> <p>【授業方法】 各グループ内でプレゼンテーションを行い、相互評価をしよう</p>	<p>(予習：2.5時間) 授業でプレゼンテーションができるようにするために、自身の望まれるリーダー像をまとめておく。</p> <p>(復習：1.5時間) 相互評価をしあった箇所、気づいたところについて、再度資料追加や調査をしておく。</p>

14	山崎	<p>【授業内容】 本科目で実施した内容をもとに、スポーツリーダーとして重要な要素をまとめ、グループごとにプレゼンテーションを行い、受講者と教員の相互評価をする</p> <p>【授業方法】 グループワークを行い、各グループからプレゼンテーションを展開していく</p>	<p>(予習：2.5時間) 13回までに実施した授業内容を見返し、スポーツリーダーのあり方について整理しておき、プレゼンテーションの準備をしておく。</p> <p>(復習：1.5時間) 本科目での総括をレポートにまとめ提出する。</p>
		定期試験の実施はなし	

授業科目名	【新カリ】セルフコーチング演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	中嶽 誠			
科目担当者				
堀池巧、スポーツ健康科学部教員				
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。競技実践活動を通じて、自身の能力を向上させるためには、コーチや指導者の指示のみではなく「セルフコーチング」が必要である。自分自身でコーチングを行い、主に自問自答形式で行われる。そして、何げなく取り組んでいる行動に質問を繰り返し、深掘りしていくことで自分の思考パターンを理解する。また、小さな成功体験を意識することで、成功の原因と自分の強みを確認することができる。具体的には、特別講義聴講や競技別担当教員とのテーマ別実践演習・ディスカッションを実際に自分自身が取り組んでいる競技活動の中で「セルフコーチング」を実践する。成果を客観的な競技結果や科学的根拠から評価指標を求めることは重要であるが、競技者自身が行動や思考の履歴を蓄積し、その成果や新しい知見を認識できるようになることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 実際に自分自身が取り組んでいる競技活動を利用して、「セルフコーチング」を実践できる。 競技者自身が行動や思考の履歴を蓄積しその成果や新しい知見を認識できる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 自問自答形式で取り組んでいる行動に質問を繰り返し思考パターンが理解できる（演習記録）。 特別講義や担当教員とのディスカッションを通して、セルフコーチングの成果を認識できる（レポート）。</p> <p>【成績評価の方法】 演習記録（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 演習をサポートする担当教員と面談をして、履修の確認が事前にとれていること。 競技スポーツを現在も実践していることが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業中にポイントを解説します。</p> <p>【テキスト・参考書等】 授業中に演習ノートや資料を配布します。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>担当：堀池巧 E-mail：t-horiike[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1529室 サッカー研究室</p>			
備考	<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。</p> <p>【その他】 特にありません。</p>			
授業計画	【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ-	

1	堀池 中嶽	(授業内容) ガイダンス (授業方法) 授業目的及び概要、シラバス、 評価方法等について説明する。	(予習：2時間) セルフコーチングについて調べる。 (復習：2時間) 授業の概要等を確認する。
2	個別担当教員	(授業内容) 自分自身の競技への取り組み (授業方法) 自分自身が取り組んでいる競技 について、体調・身体組成・運 動量・パフォーマンスなどの記 録のために独自の記録ノートを 作成する。	(予習：2時間) 自分自身の競技スポーツの計画や実践内容を確認 する。 (復習：2時間) 記録ノートを各自で作成し、項目内容の履歴を蓄 積できるようにする。
3	堀池 中嶽	(授業内容) 元アスリートの特別講義 (授業方法) 特別講義を聴講し、レポートを 作成する。	(予習：2時間) 指定されたテーマについて調べておく。 (復習：3時間) 講演内容と自分の考えをレポートにまとめる。
4	個別担当教員	(授業内容) 横断的な競技への取り組み (授業方法) 自分自身の競技パフォーマンス を高めるために、他競技の取り 組み方をメールや研究室訪問に て事前学習してから実践する。 例：体操競技 水泳飛び込みで の空中感覚などを学習する。	(予習：2時間) 横断的な競技について事前に調べておく。 (復習：2時間) 他競技の取り組みを実践し、振り返る。
5	個別担当教員	(授業内容) 横断的な競技への取り組み (授業方法) 自分自身の競技パフォーマンス を高めるために、他競技の取り 組み方をメールや研究室訪問に て事前学習してから実践する。 例：サッカーでのスプリント能 力向上 陸上競技の練習方法を 学習する。	(予習：2時間) 横断的な競技について事前に調べておく。 (復習：2時間) 他競技の取り組みを実践し、振り返る。
6	堀池 中嶽	(授業内容) 元アスリートの特別講義 (授業方法) 特別講義を聴講し、レポートを 作成する。	(予習：2時間) 指定されたテーマについて調べておく。 (復習：3時間) 講演内容と自分の考えをレポートにまとめる。
7	個別担当教員	(授業内容) テーマ別による演習の実践 (授業方法) 下記のテーマから1つ選んで、 実践する。 <個人競技> 競技力向上に関する技術・技の 習熟度と他者観察・運動強度の モニタリング方法 <集団競技> 基礎的応用的スキル・切り替え スピード・オープンスキルとク ローズドスキル <武道> 技の習得度と競技力向上・基本 動作と自己評価観点の構築	(予習：2時間) テーマについて調べておく。 (復習：2時間) テーマについて実践したことを振り返る。

8	個別担当教員	<p>授業内容) テーマ別による演習の実践 (授業方法) 下記のテーマから1つ選んで、 実践する。 <個人競技> コンディショニング・主観的疲 労度と練習内容・個人特性を利用 した練習と競技会の評価 <集団競技> トレーニング・ピリオダイゼー ション・フィジカルフィット ネス <武道> 身体組成の変容と競技力向上・ 応用動作の効果的な練習内容</p>	<p>(予習：2時間) テーマについて調べておく。 (復習：2時間) テーマについて実践したことを振り返る。</p>
9	個別担当教員	<p>(授業内容) テーマ別による演習の実践 (授業方法) 下記のテーマから1つ選んで、 実践する。 <個人競技> トレーニング&コンディショニ ング・新技への取り組みと主観 的観察評価・栄養&休養評価と コンディショニング評価 <集団競技> 練習方法の工夫・戦術理解度・ トランジションとセットプレー <武道> 減量における身体組成の変容と 練習内容・試合等への基本練習 のつながり</p>	<p>(予習：2時間) テーマについて調べておく。 (復習：2時間) テーマについて実践したことを振り返る。</p>
10	個別担当教員	<p>(授業内容) テーマ別による演習の実践 (授業方法) 下記のテーマから1つ選んで、 実践する。 <個人競技> 競技におけるマネジメント・減 量による練習への意欲・映像に よる定期観察と技術改善スキ ームの構築 <集団競技> ゲーム分析の方法 <武道> 競技的観点と修業的観点の整理</p>	<p>(予習：2時間) テーマについて調べておく。 (復習：2時間) テーマについて実践したことを振り返る。</p>
11	個別担当教員	<p>(授業内容) テーマ別による演習の実践 (授業方法) 自分自身で設定したテーマを実 践する。</p>	<p>(予習：2時間) テーマについて調べて設定する。 (復習：2時間) テーマについて実践したことを振り返る。</p>
12	個別担当教員	<p>(授業内容) テーマ別による演習の実践 (授業方法) 今までのテーマ別演習をまとめ る。</p>	<p>(予習：2時間) 今までのテーマについてまとめておく。 (復習：2時間) テーマについて実践したことを振り返る。</p>

13	堀池 中嶽	(授業内容) 最終特別講義 (授業方法) 最終特別講義を聴講し、レポートにまとめる。	(予習：2時間) 指定されたテーマについて調べておく。 (復習：3時間) 講演内容と自分の考えをレポートにまとめる。
14	堀池 中嶽	(授業内容) 発表会・まとめ (授業方法) 学習してきたことをグループに分かれて発表する。	(予習：3時間) 発表資料を作成する。 (復習：2時間) 今までの学習内容を振り返る。
		定期試験の実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツコーチング論		授業形態	講義（オムニバス）
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	吉村 雅文			
科目担当者	吉村 雅文、中村 充、武田 剛、川田裕次郎、島寄 佑			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。医・科学的（自然科学的）コーチング・トレーニング理論を学修し、コーチング実践に必要な応用的な知識の理解を深める。コミュニケーションスキルや、個人特性に関する知識（発育発達、老化、性別や心理的特徴）を学修し、多様な対象に対して適切なコーチングを実践できるようになることを目指す。 （オムニバス方式 / 全14回） （1 吉村雅文 / 2回） グットコーチに求められる人間像、プレイヤーセントードなコーチングの目的について理解する。日本スポーツ協会の指導者制度を初めてとして社会からコーチが求められる役割や、これを果たすために必要とするスキルの知識やスキルの全体像を概論として学修する。 （8 中村充 / 3回） 様々なスポーツ種目を分類した上でのスポーツ トレーニングサイクルの構造（パフォーマンス構造論、トレーニングアセスメント論、トレーニング目標論、トレーニング手段・方法論、トレーニング計画論、試合行動論）についての理解を深める。 （42 武田剛 / 3回） 対他者の知識（コミュニケーション、リーダーシップ、プレゼンテーション、ファシリテーション等のスキル）、対自己力の知識（コーチの学びやコーチのセルフマネジメント）について学修する。 （58 島寄佑 / 3回） スキルの獲得とその過</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 1. 社会から求められるコーチの人間像と、パフォーマンスやトレーニングの構造について説明できる。（定期試験）。 2. 対他者・対自己に関する知識を含む、コーチングの知識やスキルの全体像を説明できる（定期試験）。 3. スキルや心のトレーニングについての理論や基本的な方法論について理解できる（定期試験）。 4. 授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する（平常点）。</p>				
<p>【成績評価の方法】 平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。</p>				
履修における留意事項				

<p>【履修要件】 とくになし。</p> <p>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 作成した個人テキストなどの評価やポイントは各授業担当者への質問に回答する形でフィードバックする。</p> <p>【テキスト・参考書】 1. 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者リファレンスブック（日本スポーツ協会） 2. スポーツ・コーチング学（西村書店） 3. コーチング学への招待（大修館書店）</p>															
<p>連絡先とオフィスアワー</p> <p>【連絡先：オフィスアワー】 吉村雅文（1号館5階1528号室）：月曜日 12:00～12:50 E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） 中村 充（1号館5階1505号室）：木曜日 10:00～12:00 E-mail：mtnakamu[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） 武田 剛（1号館5階1507号室）：木曜日14:30～15:30 E-mail：tutakeda[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） 川田裕次郎（1号館2階1215号室）：月曜日13:00～14:30、木曜日14:30～15:30 E-mail：yuukawa[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） 島崎 佑（1号館5階1528号室）：水曜日14:30～16:30 木曜日10:00～12:00 E-mail：yshimasa[at]juntendo.ac.jp（[at]@に変更してください）</p>															
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は講義形式による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPQ（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目 . . . JSPQ（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員</p>															
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>担当</th> <th>授業内容（授業方法を含む）</th> <th>準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>吉村</td> <td> <p>【授業内容】 グッドコーチに求められる人間像、プレイヤーセンタードなコーチングの目的について学習する。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。</p> </td> <td> <p>（予習：2時間） プレイヤーセンタード、アスリートセンタードとは何か、なぜコーチングの分野でそのように表現されるのか調べておく。</p> <p>（復習：2時間） プレイヤーセンタード、アスリートセンタードの考え方について、また、実践するための重要点についてもまとめる。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>吉村</td> <td> <p>【授業内容】 社会からコーチが求められる役割や、これを果たすために必要とするスキルの知識やスキルの全体像を学習する。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。</p> </td> <td> <p>（予習：2時間） グッドコーチに求められる「人間力」とは何か調べておく。</p> <p>（復習：3時間） グッドコーチに求められるコーチングの理念・哲学、対自分力、對他者力、トレーニング科学やスポーツ医・科学についてまとめる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>				授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）	1	吉村	<p>【授業内容】 グッドコーチに求められる人間像、プレイヤーセンタードなコーチングの目的について学習する。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。</p>	<p>（予習：2時間） プレイヤーセンタード、アスリートセンタードとは何か、なぜコーチングの分野でそのように表現されるのか調べておく。</p> <p>（復習：2時間） プレイヤーセンタード、アスリートセンタードの考え方について、また、実践するための重要点についてもまとめる。</p>	2	吉村	<p>【授業内容】 社会からコーチが求められる役割や、これを果たすために必要とするスキルの知識やスキルの全体像を学習する。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。</p>	<p>（予習：2時間） グッドコーチに求められる「人間力」とは何か調べておく。</p> <p>（復習：3時間） グッドコーチに求められるコーチングの理念・哲学、対自分力、對他者力、トレーニング科学やスポーツ医・科学についてまとめる。</p>
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）												
1	吉村	<p>【授業内容】 グッドコーチに求められる人間像、プレイヤーセンタードなコーチングの目的について学習する。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。</p>	<p>（予習：2時間） プレイヤーセンタード、アスリートセンタードとは何か、なぜコーチングの分野でそのように表現されるのか調べておく。</p> <p>（復習：2時間） プレイヤーセンタード、アスリートセンタードの考え方について、また、実践するための重要点についてもまとめる。</p>												
2	吉村	<p>【授業内容】 社会からコーチが求められる役割や、これを果たすために必要とするスキルの知識やスキルの全体像を学習する。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。</p>	<p>（予習：2時間） グッドコーチに求められる「人間力」とは何か調べておく。</p> <p>（復習：3時間） グッドコーチに求められるコーチングの理念・哲学、対自分力、對他者力、トレーニング科学やスポーツ医・科学についてまとめる。</p>												

3	中村	<p>【授業内容】 スポーツトレーニングサイクル、パフォーマンス構造論、トレーニング目標論について学習する。</p> <p>【授業方法】 トレーニングサイクルの思考・行動循環モデルについて解説する。各自の種目におけるパフォーマンス構造モデルを作成し、トレーニング目標を設定する。</p>	<p>(予習：2時間) スポーツトレーニングサイクル、パフォーマンス構造について「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 様々なトレーニング目標を設定し、自己で作成したパフォーマンス構造モデルの適切さを検討する。</p>
4	中村	<p>【授業内容】 トレーニング手段・方法論、トレーニング計画、試合行動論について学習する。</p> <p>【授業方法】 体力トレーニングと技術トレーニングの過程の相違を解説し、各自の種目におけるトレーニング計画の企画を作成する。</p>	<p>(予習：2時間) トレーニング手段・方法論、トレーニング計画について「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 目標設定と各自の種目特性を考慮しながら、作成したトレーニング計画の妥当性を検証する。</p>
5	中村	<p>【授業内容】 トレーニングアセスメント(評価)、トレーニングと栄養のバランス、トレーニング環境整備と効果的遂行の条件について学習する。</p> <p>【授業方法】 トレーニングアセスメントの重要性を解説し、自己の種目を中心として効果的なアセスメントを検討する。</p>	<p>(予習：2時間) トレーニングアセスメントについて「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：3時間) 目標設定、トレーニング計画、トレーニングアセスメントまでを一貫した企画を考案する。</p>
6	武田	<p>【授業内容】 スポーツコーチングにおける対他者の知識の内、コミュニケーションスキルとリーダーシップスキルの概念と実施方法に関する理解を深める。</p> <p>【授業方法】 概念に関する講義を行った上で、ロールプレイによるグループワークを実施する。</p>	<p>(予習：2時間) コミュニケーションとリーダーシップに関して「リファレンスブック」を読んでおく、ビジネスコーチングとの違いを調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業で実施したロールプレイを通じて感じた対他者知識を活用する際に障壁となる要因を整理し、有効な活用に必要なことをまとめる。</p>
7	武田	<p>【授業内容】 スポーツコーチングにおける対他者の知識の内、プレゼンテーションとファシリテーションのスキルの概念と実施方法に関する理解を深める。</p> <p>【授業方法】 プレゼンテーション課題に対するグループワークでファシリテーションスキル実践し、プレゼンテーションの発表会を実施する。</p>	<p>(予習：2時間) コミュニケーションとリーダーシップに関して「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：3時間) 他グループのプレゼンテーションと自グループメンバーのファシリテーションスキルに関するフィードバックを行い、自分に対するフィードバックの振り返りを行う。</p>

8	武田	<p>【授業内容】 他自己力のコーチ自身の学びや、セルフマネジメントや思考・分析方法に関する知識を学習する。</p> <p>【授業方法】 事例紹介を含む講義形式で実施する。</p>	<p>(予習：2時間) 對自己力についてリファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 講義や事例紹介等を得て知識を基に詳細の自身コーチング自己研鑽スキームを考案する。</p>
9	川田	<p>【授業内容】 心のトレーニングに必要となる行動としてのスポーツ、スポーツにおける動機づけ、メンタルマネジメント、他者観察について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 講義(ケーススタディを含む)とグループディスカッションを実施する。</p>	<p>(予習：2時間) 行動としてのスポーツ、スポーツにおける動機づけ、メンタルマネジメント、他者観察について「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 講義とグループディスカッションで学習した内容をコーチングにどのように応用できるかについてまとめる。</p>
10	川田	<p>【授業内容】 心のトレーニングに必要となる個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談、運動感覚(筋感覚・内部感覚)、運動学習、フィードバックについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 講義(運動学習の実験を含む)とグループディスカッションを実施する。</p>	<p>(予習：2時間) 個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談、運動感覚(筋感覚・内部感覚)、運動学習、フィードバックについて「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) 講義とグループディスカッションで学習した内容をコーチングにどのように応用できるかについてまとめる。</p>
11	川田	<p>【授業内容】 心のトレーニングに必要となる心理的サポート、集中力、イメージトレーニング、あがり、プレッシャー、スランプ、性格、自己概念、心理的コンディショニングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 講義(心理テスト含む)とグループディスカッションを実施する。</p>	<p>(予習：2時間) 心理的サポート、集中力、イメージトレーニング、あがり、プレッシャー、スランプ、性格、自己概念、心理的コンディショニングについて「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：3時間) 講義とグループディスカッションで学習した内容をコーチングにどのように応用できるかについてまとめる。</p>
12	島寄	<p>【授業内容】 スポーツパフォーマンスにおけるスキルは、脳を中心とした神経系の能力であり、技術や技能と異なる概念であることを理解する。</p> <p>【授業方法】 パワーポイントや映像を用いた講義及びグループディスカッションにて実施する。</p>	<p>(予習：2時間) スキルトレーニングの概念について「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) スキル、技術、技能のそれぞれの概念を整理し違いをまとめる。</p>
13	島寄	<p>【授業内容】 スキル向上のメカニズム、段階的なスキル獲得過程、パフォーマンス変化、スキルと体力の関連について理解する。</p> <p>【授業方法】 パワーポイントや映像を用いた講義及びグループディスカッションにて実施する。</p>	<p>(予習：2時間) スキル向上に関わる神経回路について「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：2時間) スキルトレーニングによる神経系の変化、段階的な技能の向上についてまとめる。</p>

14	島崎	<p>【授業内容】 適時性、期間、方法、効果などの観点から、スキルを向上させる効果的なトレーニングについて理解する。</p> <p>【授業方法】 パワーポイントや映像を用いた講義及びグループディスカッションにて実施する。</p>	<p>(予習：2時間) スキルトレーニングの種類について「リファレンスブック」を読んでおく。</p> <p>(復習：3時間) スキルトレーニングについて、振り返り、基本的な理論と実践方法についてまとめる。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】スポーツコーチング総合実習		授業形態	実習・オムニバス
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	青木 和浩			
科目担当者	青木和浩 仲村明 鯉川なつえ 富田洋之 河村剛光 高梨雄太 中田学 竹澤稔裕			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。「体力トレーニング論」で学んだ体力向上の基本的概念や意味、トレーニングの原理・原則・実施法について、実際に自らが実践することにより理解を深める。また、体力やトレーニング効果を評価する際に用いられる計測法について学ぶ。この実習を通して「理論」と「実践」の両観点からスポーツ科学の理解と知識を深め、将来的にスポーツ医科学を駆使した指導ができることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.基礎理論または最新の科学的理論に基づくトレーニング指導やフィジカルコンディショニング指導が安全かつ適切に実施できる。 2.各トレーニングの意味・意義・利点・欠点を理解することで、既存のトレーニング実施法を客観的に評価でき、誤りを修正して新たな実施法を考案できる。 3.最大筋力・心拍数・クリティカルパワー・血中乳酸濃度・疾走能力・垂直跳び能力を測定し、そのデータを分析して生理学的・自然科学的な知見を得ることが出来る。 4.トレーニング効果や競技力評価を行う際に生じる身体的・精神的負担を理解し、将来の指導現場では対象者に対して十分な配慮が出来る人材になる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.各実習項目の意味・意図を理解し、適切に実施・計測ができる（実習レポート）。 2.各実習で得られた計測データを正しく分析・解釈でき、課題に対して正確に答えることが出来る（実習レポート） 3.多様に存在するトレーニング法の特色を理解し、利点・欠点について述べる事が出来る（実習レポート、筆記試験）。 4.トレーニング時の筋の収縮様式や関節のアクションについて医科学的専門用語を用いて述べる事が出来る（実習レポート、筆記試験）。 5.循環器系や骨格筋の特性や適応について理解を示すことが出来る（筆記試験）。 <p>【成績評価の方法】</p> <p>実習レポート12回（50%）、筆記試験1回（50%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>体力トレーニング論の授業配布資料、運動生理学・機能解剖学の授業を参考にしながら受講すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.如何なる理由でも、授業の総出席が2/3を満たさない場合は単位を与えない。 2.実習では運動ウエア・シューズを必ず着用する。また、器具や計測器の破損、怪我を防ぐ為、利用規約を厳守すること。 <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>筆記試験と実習レポートに対する模範解答を希望する場合、または実習内容に対する理解が不明確な場合は、担当の先生に自ら質問に伺うこと（アクティブラーニング）。また、実習内で適時積極的に質問をし、その場でフィードバックを得る姿勢を取ること。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>初回のガイダンスで実習ノートを配布する。また必要に応じて実習項目ごとに関連資料を当日配布する。「体力トレーニング論」で配布された授業資料を必ず参考にすること。</p>				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki[at]juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：水曜日12:20から13:10 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレチックトレーナー） JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	青木 坂本 越川 仲村 鯉川 富田 河村 高梨 中田 竹澤	<p>【授業内容】 テーマ： ガイダンス 当該科目における授業の進め方や成績評価方法について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 実習ノートを配布し、授業の概要とレポート作成の注意点を口頭説明する。</p>	<p>（予習：2時間） 授業形態・内容・成績評価法についてシラバスを熟読する。</p> <p>（復習：2時間） 授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。自身が属するグループを確認し、次回からの実習場所や内容を理解する。</p>
2	坂本 竹澤	<p>【授業内容】 テーマ： マシンウェイト・フリーウェイト 関節アクション、骨格筋の特性、マシンウェイトの特性（定滑車・動滑車）、フリーウェイトの特性（トルクの変化）を学び、器具を正しく扱う知識を得る。</p> <p>【授業方法】 トレーニング場にてマシンウェイトとフリーウェイトの扱い方と特性を学び実習レポートを作成する。</p>	<p>（予習：2時間） 基礎的な筋肉・関節の名前が理解できるようにしておく。体力トレーニング論の「レジスタンストレーニング」を熟読しておく。</p> <p>（復習：2時間） マシンウェイトとフリーウェイトの利点・欠点、器具の正しい扱い方、筋の収縮様式と関節アクションを覚える。</p>
3	坂本 竹澤	<p>【授業内容】 テーマ： 負荷 - 最大挙上回数 の関係 ベンチプレスを用いた1RM測定の実施法を学び、最大下負荷で達する最大挙上回数の測定を行う。Failureまで運動を継続する際の留意点を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 トレーニング場にてベンチプレスを様々な負荷で行い、実習レポートを作成する。</p>	<p>（予習：2時間） 体力トレーニング論の「骨格筋の構造と収縮メカニズム」、「筋肉痛の発生メカニズムと対処」を熟読しておく。</p> <p>（復習：2時間） 負荷 - 最大挙上回数 の関係がどのように応用できるかについて理解を深める。実習後に生じる筋肉痛への対処効果や、その他のダメージ症状を実感する。</p>

4	坂本 竹澤	<p>【授業内容】 テーマ： 関節アクションとSSC効果の実演 運動時の関節アクションを覚える。またstretch-shortening cycle (SSC)によるパフォーマンス向上効果を体験し、その効果を最大に引き出すコツを学ぶ。</p> <p>【授業方法】 トレーニング場にて、マシンウエイト・フリーウエイトから種目を任意で選択し、その運動時の関節アクションを実習レポートに解答する。</p>	<p>(予習：2時間) 体カトレーニング論の「レジスタンストレーニング」、「プライオメトリクス」を熟読しておく。</p> <p>(復習：2時間) 全ての関節アクションとSSC効果を最大に引き出す方法を覚える。</p>
5	越川 青木	<p>【授業内容】 テーマ： プライオメトリクス プライオメトリックトレーニングの意義や正しい実施方法を習得する。</p> <p>【授業方法】 陸上競技場、またはコスモホールにてプライオメトリックトレーニングを実践し、実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) パワーの定義とスピード系トレーニングの重要性を調べておく。SSC効果を最大に引き出す方法を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) SSC効果を上手く引き出せた場合と引き出せなかった場合の違いを検討する。</p>
6	青木 高梨	<p>【授業内容】 テーマ： フィールドテスト 様々なフィジカルテスト(コントロールテスト)の方法を理解し、実施方法や評価方法を習得する。</p> <p>【授業方法】 陸上競技場にてコントロールテストを実演し、実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 体力運動能力を測定するテストについて調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 自身のコントロールテスト値を用いて、実施方法と評価を理解する。</p>
7	高梨 竹澤	<p>【授業内容】 テーマ： トレーニング計画の立案と実施 様々なトレーニングの計画方法について理解し、自身の計画に基づいたトレーニング(筋力・パワー・持久力・柔軟性・敏捷性の向上)を実施して、計画から実践までの立案の方法を習得する。</p> <p>【授業方法】 トレーニング場で計画・実践し、実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 各自の目標とするトレーニングを準備しておく。</p> <p>(復習：2時間) 計画と実践によって生じた様々な問題点を整理する。</p>
8	河村 鯉川	<p>【授業内容】 テーマ： 人体測定・体力測定 人体測定や「新体力テスト」(バッテリーテスト)の方法について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 コスモホールにて人体測定と新体力テストを実施する。表計算ソフトを利用して、得られたデータの基本的な統計値を算出し、実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 新体力テストの準備の仕方、測定方法について調べておく。基本的な統計値についてとその関数を調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 表計算ソフトでの関数の使い方、図表の作成方法について復習する。</p>

9	富田 中田	<p>【授業内容】 テーマ： ストレッチング・サーキットトレーニング ストレッチングの効果と実施上の留意点、体力要素の向上を目的としたサーキットトレーニングの実施方法や効果について理解する。 【授業方法】 体操場にてスタティックストレッチング、バスケットボール館にてステーション方式のサーキットを行いレポート作成する。</p>	<p>(予習：2時間) ストレッチングの種類を調べておく。サーキットトレーニングの長所と短所を調べておく。 (復習：2時間) ストレッチングを効果的に使用するための留意点を理解する。実施したサーキットトレーニングの特徴を整理しておく。</p>
10	仲村 鯉川	<p>【授業内容】 テーマ： 心拍数・血中乳酸濃度の測定 ランニング速度の増加に対する心拍数や血中乳酸濃度の変化について学ぶ。また専門種目や競技レベルによってそれらの変化が異なるかについて学習する。 【授業方法】 陸上競技場にて様々な速度でランニングを行い、心拍数や血中乳酸濃度を計測して実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 運動時の心拍応答や乳酸生成のメカニズムについて予習しておく。 (復習：2時間) 心拍数や血中乳酸濃度の変化を他の学生と比較し、なぜ個人間で違いがあるのかについて検討する。</p>
11	坂本 高梨	<p>【授業内容】 テーマ： 最大パワー測定・データ分析 自転車エルゴメータを用いて、ペダリング運動時の最大パワー出力と至適負荷を計測する方法について学ぶ。 【授業方法】 トレーニング場にて、自転車エルゴメータを用いた全力ペダリング運動を数セット行い、得られた数値から最大パワーと至適負荷をエクセル上で算出してレポートを作成する(散布図から直線回帰や曲線回帰を経て回帰式を求める)。</p>	<p>(予習：2時間) 「最大パワー」や最大パワーを引き出す「至適負荷」について予習する。 (復習：2時間) 得られた数値から最大パワーを向上させる為のトレーニングについて、過去の授業を参考に検討してみる。</p>
12	坂本 河村	<p>【授業内容】 テーマ： クリティカルパワーと無酸素作業容量 有酸素性エネルギー供給と無酸素性エネルギー供給の上限容量を推測し、数学的観点から解析・解釈する。 【授業方法】 トレーニング場にて様々な負荷のペダリング運動を行い、クリティカルパワーと無酸素作業容量をエクセル上で計算してレポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 速度、負荷、パワー、時間、仕事量がそれぞれどのように算出されるか予習しておく。 (復習：2時間) クリティカルパワーと無酸素作業容量の算出法と意味を理解する。</p>

13	青木 高梨	<p>【授業内容】 テーマ： スプリント・ジャンプ レーザー装置を用いての疾走能力や、ジャンプマットを用いての垂直跳び能力を計測する。</p> <p>【授業方法】 コスモホールにてスプリント走を行い、走タイムから速度を局面的に算出する。またジャンプマット上で垂直跳びを行い、ソフトウェアの数値からジャンプ高を算出する。得られた数値を用いてレポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) スプリントとジャンプを測定する方法を調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 測定結果から得られた数値をもとに自身のパフォーマンスについて検討してみる。</p>
14	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： 最新のトレーニング科学 これまでのトレーニング法の改善点や、最新のトレーニング理論・実践法について科学的研究成果を踏まえて学ぶ。</p> <p>【授業方法】 トレーニング場にて、最大速度や放物動作を用いるパワートレーニングの実施法を体験する。</p>	<p>(予習：2時間) トレーニングによる筋の適応と、特異性の原則を理解しておく。</p> <p>(復習：6時間) なぜ「放物動作」が重要であるか、力学的観点から理解を深める。 実習ノートや配布資料を再度熟読し、理解する。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	高澤 祐治			
科目担当者	高澤 祐治、窪田 敦之、門屋 悠香、竹内 保男			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。実習を通して身体の構造、機能の面から理解を深め、スポーツ外傷・障害を評価することを目的とする。また、スポーツ現場での救急処置に必要な医学的知識及び迅速な対応方法に関して学ぶ。スポーツ外傷・障害に対する的確な情報収集と評価法、スポーツ現場における救急処置の重要性、基礎知識、評価手順、対処法について学び、救急蘇生法、AEDの使用法を含む実際の救急処置ができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式 / 全28回）</p> <p>（7 高澤祐治，38 窪田敦之 / 2回）（共同）</p> <p>スポーツ外傷・障害発生時の評価及び応急処置からその後に行われるアスレティックリハビリテーションの一連の流れと意義について理解する。救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本的留意点を学び、スポーツ現場における救急処置を学ぶ意義を考えるとともに、事故時の緊急対応計画と評価手順（フローチャート）やスポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順を実践する。</p> <p>（7 高澤祐治，56 門屋悠香 / 4回）（共同）</p> <p>暑熱による傷害（熱中症）、寒冷による傷害、過換気状態、ショック状態やその他スポーツでよくみられる内科的疾患について、その特徴と救急処置の意義・目的を理解し、適切な救急処置の具体的な方法を理解した上で、正しく実践できるようにする。</p> <p>（7 高澤祐治，38 窪田敦之 / 8回）（共同）</p> <p>救急体制の重要性と計画、事故発生時のフ</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急事態の有無を判断する状況を説明できる（定期試験） 2. 心肺蘇生、AEDを用いた除細動が適切な手順で実施できる（実技試験） 3. スポーツ傷害の情報収集に必要な検査・測定・評価項目について説明できる（定期試験） 4. スポーツ傷害について、適切なRICE処置が実施できるか（実技試験） 5. 熱中症のメカニズム、対処法、予防法を説明できる（定期試験） 6. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】</p> <p>課題レポート2回（20%）、実技試験（30%）、定期試験（30%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

【履修要件】

以下の科目を受講していることが望ましい

- (1) 機能解剖学
- (2) スポーツ医学概論
- (3) スポーツの測定評価学
- (4) スポーツ外傷・障害学

【履修上の注意（科目独自のルール）】

1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする
2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする
3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること
4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること
 - (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講
 - (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理
5. 受講までに以下の準備ができること
 - (1) カメラ付きPCまたはタブレット
 - (2) 文書作成ソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。

定期試験については、JUNTENDO PASSPORT

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当： 門屋 悠香

全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。

その他の連絡先は授業内でお知らせします。

【オフィスアワー】

日時：金曜日10：20～12：50

場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）

質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。

その他の連絡先は授業内でお知らせします。

備考

【学修時間】

この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。

【実務経験のある教員による授業】

スポーツドクター、JSP0-ATとしてスポーツ現場等で救急処置を経験を有する教員が実践的な知識・技術を解説する。救急救命士として実務経験を有する者が、心肺蘇生法を担当する。

【その他】

受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。抽選の場合、JSP0-AT資格取得者を優先します。

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。

- ・ JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：6．検査・測定と評価、9．救急処置
- ・ JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー
- ・ 健康・体力づくり財団 健康運動指導士

また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1・2	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 本授業のながれと注意事項を確認する。</p> <p>【授業方法】 オリエンテーションをおこない、授業の目的、意義、授業の進め方などについて解説する。グループ分けを実施する。</p>	<p>（予習：2h） シラバスを確認する</p> <p>（復習：1h） アスレティックリハビリテーションの意義について確認する</p>
3・4	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 救急体制の重要性と計画について理解する。</p> <p>【授業方法】 救急体制の重要性と、計画立案、事故対応フローチャートについて解説する。競技種目を考慮した、競技会の救急体制について、事故発生時のフローチャートを作成する。</p>	<p>（予習：2h） 救急体制について予習</p> <p>（復習：2h） 事故発生時のフローチャートを見直す</p>
5・6	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害に対するRICE処置を体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 RICE処置の重要性、意義、方法などについて解説し、実習をおこなう。RICE処置のリーフレットを作成する。</p>	<p>（予習：2h） 炎症の徴候を調べる RICE処置について確認する</p> <p>（復習：3h） アイシングの効果と注意点について整理する</p>

7・8	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 心肺蘇生法を体験・学習する</p> <p>【授業方法】 心肺蘇生法的重要性、意義、方法、AEDを組み合わせた手順、注意点などについて解説し、実習をおこなう。 ミニテスト：チェックシートを用い、グループで心肺蘇生法からAED使用までの評価をおこなう。</p>	<p>(予習：1h) AEDを組み合わせたCPRについて、最新のガイドラインを調べる</p> <p>(復習：3h) 以下の用語を説明できるようにする ・死戦期呼吸 ・ショック ・生命の徴候</p>
9・10	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 止血法を体験・学習する。 スポーツ外傷・障害における傷病者の運搬方法を体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 創傷の種類と止血法の手順や注意点について解説するとともに、三角巾を用いた止血および固定法について解説し、実習をおこなう。 スポーツ現場での患部の固定方法と運搬について解説するとともに、実習を行う。</p> <p>2クラスに分けて、特定のスポーツ現場に対する止血および運搬手順を作成し、発表する。</p>	<p>(予習：1h) 「止血点」を確認する 固定を必要とする外傷について調べる</p> <p>(復習：3h) 三角巾を用いた止血および固定法を整理する 患部の固定と運搬の際の注意点について整理する</p>
11・12	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 熱中症の対応について体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 暑熱障害、寒冷障害など内科的疾患に対する救急処置について解説する。 熱中症予防のリーフレットを作成する。</p>	<p>(予習：2h) 以下の用語について調べる ・熱中症 ・過換気症候群</p> <p>(復習：3h) 熱中症の予防と対処法を整理する</p>
13・14	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 脳振盪の対応について体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 頭頸部の外傷の概要と救急処置実施時の留意点について解説する。 スポーツによる脳振盪評価ツールを用い、実習をおこなう。</p>	<p>(予習：2h) 以下の用語について調べる ・脳振盪後症候群 ・セカンドインパクト症候群</p> <p>(復習：3h) 携帯型脳振盪認識ツールを整理する</p>

15・16	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (1) 上肢（肩関節、肘関節、手関節）</p> <p>【授業方法】 肩関節・肘関節・手関節の外傷・障害について解説する。 ペアになり、肩関節・肘関節・手関節機能を評価しあう。</p>	<p>(予習：2h) 肩関節・肘関節・手関節の解剖、筋肉について調べる。肩関節・肘関節・手関節の外傷、外傷・障害について調べる。 (復習：3h) 肩関節・肘関節・手関節の外傷、障害について復習する</p>
17・18	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (2) 下肢（股関節、大腿）</p> <p>【授業方法】 股関節・大腿の外傷・障害について解説する。 ペアになり、股関節・大腿の機能を評価しあう。</p>	<p>(予習：2h) 大腿部の筋の名称および起始、停止、機能について調べる 肉離れの病態について調べる (復習：3h) 股関節・大腿の外傷、障害について復習する</p>
19・20	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (3) 下肢（膝関節、足関節、足）</p> <p>【授業方法】 膝関節・足関節・足の外傷・障害について解説する。ペアになり、膝関節・足関節・足の機能を評価しあう。</p>	<p>(予習：2h) 膝関節・足関節・足の解剖、筋肉について調べる 膝関節・足関節・足の外傷、外傷・障害について調べる (復習：3h) 膝関節・足関節・足の外傷、障害について復習する</p>
21・22	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (4) 体幹</p> <p>【授業方法】 体幹、特に腰部の外傷、障害について解説する。 ペアになり、腰部外傷・障害のアスレチックリハビリテーションを実施し評価しあう。</p>	<p>(予習：2h) 体幹筋群の名称およびその機能について調べる 外傷・障害予防のための代表的なエクササイズについて調べる (復習：3h) 体幹を中心とした外傷・障害予防のためのエクササイズのプログラミング、実施上の注意点などについて復習する</p>
23・24	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 特殊な外傷の救急処置について理解する。</p> <p>【授業方法】 筋けいれん、目のトラブルなどの救急処置について解説する。 授業内容に関する小テストを作成し、ペアで回答・採点する。</p>	<p>(予習：2h) 以下の用語について調べる ・エピペン（アドレナリン自己注射薬） ・こむらがえり (復習：2h) 特殊な外傷の救急処置について整理する</p>

25・26	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 メディカルチェックを体験・学習する(1)</p> <p>【授業方法】 整形外科的メディカルチェックの意義、目的、方法について解説する。 グループワーク : 外傷・障害調査、携帯計測を実施し、グループ内でまとめる。</p>	<p>(予習: 2h) 整形外科的メディカルチェックの意義と方法について調べる</p> <p>(復習: 2h) 整形外科的メディカルチェックの具体的な方法について復習する</p>
27・28	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 メディカルチェックを体験・学習する(2)</p> <p>【授業方法】 関節可動域の測定、タイトネステスト、ルーズネステスト、スペシャルテストについて解説する。 自身のメディカルチェックシートを作成する。</p>	<p>(予習: 2h) 自分の関節の動きについて医学用語を用いて学習する</p> <p>(復習: 2h) 各種テストの意義、目的について確認するとともに、実施上の注意点について復習する</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ栄養学演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	鈴木 良雄			
科目担当者	鈴木 良雄			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。基礎的な栄養学の知識を確認しながら、スポーツにおける食事・栄養について演習を通じて深く学んでいく。具体的には、栄養・食事の視点から、アスリートの体組成、からだ作りとウエイトコントロール、トレーニングスケジュール、競技特性、栄養欠陥に基づく疾病と対策、特殊環境下における栄養ケア、サプリメントの利用時の留意点、栄養教育について学修し、アスリート、教員やスポーツ指導者としての基礎的な知識と実践力を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事アセスメントの方法を理解し実践することができる。 2. アスリートの身体組成やウエイトコントロールを理解し説明することができる。 3. トレーニングスケジュールや様々な状況下での食事を理解し説明することができる。 4. 栄養欠陥に起因する疾患とその対策を理解し説明することができる。 5. サプリメントの使用法や栄養教育について理解し説明することができる。 			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事アセスメントの方法を理解し実践することができる（課題、筆記試験）。 2. アスリートの身体組成やウエイトコントロールを理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 3. トレーニングスケジュールや様々な状況下での食事を理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 4. 栄養欠陥に起因する疾患とその対策を理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 5. サプリメントの使用法や栄養教育について理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 <p>【成績評価の方法】 課題14回(60%)・平常点(30%)・筆記試験(10%)によって総合的に評価する。 なお、演習の進行上、ふさわしくないと判断される行為は、減点の対象とします。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題の解答・解説、質問等へのフィードバックは次回の授業で行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（9）スポーツと栄養 その他、授業中に適宜、資料を配布します。。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：鈴木良雄 E-mail：yssuzuki[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：前期間中の月曜日9:00から11:00 場所：1号館2階1223室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業28時間と準備学習32時間の計60時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 本科目は「AT」の必修科目である。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレチックトレーナー）</p> <p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ）
1	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： ガイダンス、食事調査 スポーツにおける栄養や食事調査の意義を理解する。</p> <p>【授業方法】 スポーツにおける栄養や食事調査の意義について解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習：1時間） 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習：1時間） 演習の内容を配布資料と照らし合わせてノートに纏め理解を深める。また、BDHQに回答する。</p>
2	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食事バランスガイド 食事バランスガイドの目的や活用方法を理解する。</p> <p>【授業方法】 食事バランスガイドの目的や活用方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習：1時間） 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習：1時間） 演習で出された課題に取り組む。</p>
3	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食品摂取頻度調査法（BDHQ）（1） BDHQの結果から自分の栄養素摂取状態を理解する。</p> <p>【授業方法】 第1回で回答したBDHQの結果を返却し、その見方を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習：1時間） 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習：1時間） 演習で出された課題に取り組む。</p>

4	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食品摂取頻度調査法 (BDHQ) (2) BDHQ結果を元に、平均的な日本人と自分の食生活を比較する方法を理解する。 【授業方法】 BDHQ結果から各栄養素・食品摂取量を密度法に変換しそれぞれを平均的な日本人の摂取量と比較する方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
5	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食品摂取頻度調査法 (BDHQ) (3) BDHQで測定された集団の各栄養素の摂取状況(不足者の割合)を評価する方法を理解する。 【授業方法】 BDHQの結果から受講者の各栄養素の摂取状況(不足者の割合)の評価方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
6	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： アスリートの身体組成 身体組成とその測定方法を理解する。 【授業方法】 身体組成とその測定方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
7	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： からだ作りとウエイトコントロール アスリートのからだづくり(筋肉、骨)とウエイトコントロールを理解する。 【授業方法】 アスリートのからだづくり(筋肉、骨)とウエイトコントロールを解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。(復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>

8	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：トレーニングスケジュール、競技特性と食事 競技特性、エネルギー消費量、グリコーゲン補給を理解する。 【授業方法】 競技特性、エネルギー消費量、グリコーゲン補給を解説する。 5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
9	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：コンディショニングと栄養摂取、水分補給 コンディショニングと栄養補給、水分補給、食事計画を理解する。 【授業方法】 コンディショニングと栄養補給、水分補給、食事計画を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
10	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：栄養欠陥に基づく疾病と対策 栄養欠陥に基づく疾病と対策を理解する。 【授業方法】 栄養欠陥に基づく疾病と対策を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
11	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：さまざまな状況下における栄養ケア 試合の前、当日、後や遠征時などさまざまな状況下における食事を理解する。 【授業方法】 さまざまな状況下における食事について解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。(復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>

12	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：サプリメントの利用時の留意点 サプリメントの定義、使用実態や、種類、効果を理解する。</p> <p>【授業方法】 サプリメントの定義、使用実態や、種類、効果を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
13	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：アスリートの栄養教育 栄養教育の意義や進め方を理解する。</p> <p>【授業方法】 栄養教育の意義や進め方を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。(復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
14	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ：望ましい栄養サポートとは(課題検討・発表) 望ましい栄養サポートについてまとめて発表する。</p> <p>【授業方法】 望ましい栄養サポートについて各自でプレゼンテーションにまとめて5人程度のグループになり発表し議論する。</p>	<p>(予習：3時間)</p> <p>課題発表する資料を事前に準備すること。 (復習：1時間) 発表で得られた評価を踏まえて発表資料を完成させる提出する。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツコンディショニング実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	門屋 悠香			
科目担当者	門屋 悠香、高澤 祐治、中新井田 敦子			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。コンディショニングについての概念から、その構成要素、種々のトレーニングについて理解する。また、競技種目ごとの特性を考慮したトレーニングプログラム作成に必要な評価方法等について学修し、傷害予防や競技力向上に役立てられるようにする。テーピング、スポーツマッサージ、ストレッチングの基礎についても学修する。</p> <p>（オムニバス方式 / 全28回）</p> <p>（56 門屋悠香 / 16回）</p> <p>コンディショニングの評価と計画の方法について理解し、トレーニング計画の立案、設計ができるようにする。競技力向上、傷害予防、疲労回復のそれぞれを目的としたコンディショニングの手法を学び、冬季競技、格技系競技、記録系競技、球技系競技、採点系競技それぞれの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようにする。</p> <p>（7 高澤祐治, 95 中新井田敦子 / 2回）（共同）</p> <p>疲労回復を目的とした方法であるスポーツマッサージについて、その資格制度と関係する法律、禁忌と適応について学ぶとともに、スポーツマッサージの適切な使用方法及びその実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>（56 門屋悠香, 95 中新井田敦子 / 10回）（共同）</p> <p>テーピングの定義・目的、有効性、注意点、基本テープについて理解した上で、足関節を例にテーピングの基本的な技能を修得する。また、基礎体力、</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンディショニングおよびコンディションの目的を説明できる（定期試験） 2. コンディショニングの3つの構成因子を説明できる（定期試験） 3. コンディショニングの禁忌と適応について説明できる（定期試験） 4. 競技特性を考慮したコンディショニング計画が作成・実演できる（レポート） 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】</p> <p>課題レポート3回（30%）、定期試験（50%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

【履修要件】

「スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習」を受講していることが望ましい。

【履修上の注意（科目独自のルール）】

1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする
2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする
3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること
4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること
 - (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講
 - (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理
5. 受講までに以下の準備ができること
 - (1) カメラ付きPCまたはタブレット
 - (2) 文書作成ソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。
定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS) を使って解説する。

【テキスト・参考書等】

- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
(6) 予防とコンディショニング
- 上記テキストは参考書であり、必ず用意す

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当：門屋 悠香
全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

【オフィスアワー】

日時：金曜日10：20～12：50
場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）

質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

備考**【学修時間】**

この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。
なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。

【実務経験のある教員による授業】

JSP0-ATのうち、鍼灸マッサージ師の国家資格を有する者が、マッサージを担当する。

【その他】

受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。
抽選の場合、JSP0-AT取得者および「スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習」履修者を優先します。

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。

- ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：7. 予防とコンディショニング
- ・JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ-
------	----	---------------	-------------------------

1・2	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) コンディショニングとは (2) コンディショニングの要素(管理と把握) コンディショニングの目的について、理解を深める。 コンディショニングの構成因子について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 コンディショニングの目的について解説する。 コンディショニングを構成する要素(身体的因子・環境的因子・心因的因子)について解説する。 グループワーク: アスリートが望むコンディショニングを挙げ、コンディショニングを因子別に分類する。</p>	<p>(予習: 1h) コンディショニングを構成する因子について調べる</p> <p>(復習: 1h) コンディショニングを構成する3つの因子について整理、復習する</p>
3・4	門屋悠香	<p>【授業内容】 コンディショニングの評価法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 コンディショニングの評価指標とその評価法について解説する。 ワークシート: 設定した競技に必要な評価項目をまとめる。 ペアになり、評価方法の実習をおこなう。</p>	<p>(予習: 1h) コンディショニングの評価指標について調べる</p> <p>(復習: 1h) コンディショニングの評価方法について整理、確認する</p>
5・6	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 トレーニング計画とコンディショニングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 トレーニングの基礎や原則について解説する。 ピリオダイゼーション、トレーニングカテゴリーについて解説する。 ワークシート: 設定した競技のトレーニング計画を作成する。 ペアで実演・評価する。</p>	<p>(予習: 1h) レポート課題 「トレーニングの原則について」</p> <p>(復習: 1h) ピリオダイゼーションについて整理し、スポーツ競技に当てはめて確認する</p>

7・8	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 競技力（パフォーマンス）向上を目的としたコンディショニングの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 筋力トレーニング、エアロビクストレーニング、コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニング、アジリティトレーニングについて概説するとともに、実施上の注意点についても解説する ワークシート：設定した競技のトレーニングメニューを作成する ペアで実演・評価する。</p>	<p>（予習：2h） レポート課題 「コーディネーション、スタビリティ、アジリティについて共通点と相違点をまとめる」</p> <p>（復習：1h） それぞれのトレーニングの特徴、実施上の注意などについて確認する</p>
9・10	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際 ストレッチングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ストレッチングの概略について解説する。 グループワーク：作成したトレーニングメニューを発表し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>（予習：1h） ストレッチングの種類について調べる</p> <p>（復習：1h） ストレッチの原則および実施上の注意点について確認する</p>
11・12	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際 テーピング総論 テーピングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 テーピングの目的、効果、科学的根拠、注意事項などについて解説する。 ペアになり、テーピングの基本的な方法を体験する。</p>	<p>（予習：1h） テーピングの目的、効果について調べる</p> <p>（復習：1h） テーピング全般にわたる注意事項などについて整理する</p>
13・14	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際 テーピング各論 足関節内返し捻挫予防のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 足関節内返し捻挫予防のテーピングについて解説・実演する。 評価シートをもとに、ペアで実施・評価する。</p>	<p>（予習：1h） 足関節捻挫について調べる</p> <p>（復習：1h） 足関節内返し捻挫に対するテーピングを行なう際の注意点およびその方法について確認する</p>

15・16	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際 スポーツマッサージ スポーツマッサージについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 スポーツマッサージの定義、分類、各種手技、注意点について解説する。 ペアになり、マッサージの基本的な手技を体験する。</p>	<p>(予習：1h) スポーツマッサージの分類、各種手技などについて調べる</p> <p>(復習：1h) スポーツマッサージ全般にわたる注意点などについて整理し、確認する</p>
17・18	門屋悠香	<p>【授業内容】 疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際 アイシング、アクアコンディショニングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アクアコンディショニングの概略について解説する。 ワークシート：提示した情報をもとに、競技別アクアコンディショニングメニューを作成する。 ペアで実演・評価する。</p>	<p>(予習：1h) 水の物理的特性、水中での運動の利点について調べる</p> <p>(復習：1h) 水中での運動および実施の際の注意点について整理する</p>
19・20	門屋悠香	<p>【授業内容】 ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義、効果、その方法について解説する。 グループワーク：作成したコンディショニングメニューを発表し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>(予習：1h) ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性について調べる</p> <p>(復習：1h) ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義、効果、その方法について復習する</p>
21・22	門屋悠香	<p>【授業内容】 フィットネス（基礎体力）チェックの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 筋力、筋持久力、筋パワーなどの基礎体力の測定について解説する。 ワークシート：設定した競技のフィジカルテストリストを作成する。 グループで実演・評価する。</p>	<p>(予習：1h) 筋力の測定方法について調べる</p> <p>(復習：2h) 基礎体力全般の測定方法について整理する</p>

23・24	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) フィールド(専門体力)テストの方法と実際について理解を深める。 (2) 身体(組成)測定、柔軟性テストの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 フィールド(専門体力)テスト、身体組成の測定、柔軟性テストなどについて解説する。 ワークシート: 設定した競技のフィールドテストを作成する。グループで実演・評価する。</p>	<p>(予習: 1h) 柔軟性、弛緩性、不安定性の違いを調べる</p> <p>(復習: 1h) 専門体力テストを項目ごとに整理する</p>
25・26	門屋悠香	<p>【授業内容】 競技種目特性とコンディショニング 競技種目特性を考慮したとコンディショニングについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 記録計競技、採点系競技の競技特性と障害要因について解説する。 ワークシート: これまでのワークシートを整理し、大学4年間のコンディショニング計画を作成する。</p>	<p>(予習: 2h) 指定された競技種目からひとつを選択し、レポートを作成するレポート課題 「競技特性と発生するスポーツ外傷・障害」</p> <p>(復習: 1h) 異なる競技の特性の違いを整理し、確認する</p>
27・28	門屋悠香	<p>【授業内容】 競技種目特性とコンディショニング 競技種目特性を考慮したとコンディショニングについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 球技系競技、格技系競技の競技特性と障害要因について解説する。 グループワーク: 大学4年間のコンディショニング計画を発表し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>(予習: 2h) 指定された競技種目からひとつを選択し、レポートを作成するレポート課題 「競技特性と発生するスポーツ外傷・障害」</p> <p>(復習: 1h) 異なる競技の特性とそれに関連するスポーツ外傷・障害の予防方法を確認する</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】アスレティックトレーニング実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	門屋 悠香			
科目担当者	門屋 悠香、高澤 祐治、中新井田 敦子、鹿倉 二郎			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、実習の授業形態で行われる。スポーツコンディショニング実習での学修内容を発展させて、各種スポーツ競技の特性を理解し、傷害予防を目的としたトレーニングプログラムの立案、並びに競技力向上を目指したアスレティックトレーニングの実践を行う。また、主に傷害予防を目的としたテーピングの実践を足関節以外の部位で学ぶ。 （オムニバス方式 / 全28回）</p> <p>（56 門屋悠香 / 16回） Functional movement testなど身体動作のスクリーニング評価を行い、動作時の問題点を抽出し、目的とした動作パターン獲得のためのトレーニングプログラムの立案と実践を行う。また、筋力増強トレーニングのみならず、機能的動作時の筋収縮のタイミングや筋の動員様式を意識したトレーニング方法を学修し、実践する。さらに、疲労からの回復や競技力維持を目的とした全身リカバリーの方法論を学修し、適切なトレーニング指導が実施できるようにする。</p> <p>（7 高澤祐治，56 門屋悠香 / 4回）（共同） リハビリテーションについての理解をより深めるために、アスレティックトレーナー活動に関係する医療行為や医療行為とアスレティックトレーナー活動の境界、注意事項について学ぶ。また、アスレティックリハビリテーションで用いる機能評価や基本的手法（運動療法，物理療法，補装具）の概要について学び、患部のリスク管理について学修する。</p> <p>（54 門屋悠香，95 中新井田敦子，105</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーピングについて、効果、目的、適応と禁忌などが説明できる（定期試験） 2. 指定した目的に合わせたコンディショニングプログラムが作成・実施できる。（実技試験） 3. アスレティックリハビリテーションで用いる方法の禁忌、適応などについて説明できる。（定期試験） 4. 指定したテーピング、エクササイズが適切に実施できる（実技試験） 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】 実技試験（30%）、定期試験（40%）、レポート課題（10%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

【履修要件】

「スポーツコンディショニング実習」を受講していることが望ましい。

【履修上の注意（科目独自のルール）】

1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする
2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする
3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS)での課題提出・授業資料のダウンロードができること
4. 受講までに大学アカウント(ドメイン@stud.juntendo.ac.jp)を用いて以下のアプリが使用できること
 - (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講
 - (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理
5. 受講までに以下の準備ができること
 - (1) カメラ付きPCまたはタブレット
 - (2) 文書作成ソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。
定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS) を使って解説する。

【テキスト・参考書等】

- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
- (6) 予防とコンディショニング

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当：門屋 悠香
全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

【オフィスアワー】

日時：金曜日10：20～12：50
場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）

質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前に JUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

備考**【学修時間】**

この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。
なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。

【その他】

受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。
抽選の場合、JSP0-AT取得者および「スポーツコンディショニング実習」履修者を優先します。

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。

- ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：7. 予防とコンディショニング
- ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：8. アスレティックリハビリテーション
- ・JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（ホー
------	----	---------------	------------------------

1・2	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 (1) コンディショニングの要素 (2) テーピング 足部、下腿部のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 足底腱膜炎、アキレス腱炎について解説するとともに、これらの障害に対するテーピングについて解説・実演する。 ペアになり、テーピングを実施し、互いに評価する。</p>	<p>(予習：1h) コンディショニングの3つの構成因子について調べる 足部、下腿部の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 足底腱膜炎、アキレス腱炎に対するテーピングを行なう際の注意点およびその方法について確認する</p>
3・4	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 テーピング 膝関節、大腿部・股関節のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 膝関節の靭帯損傷、大腿部肉離れについて解説するとともに、これらの外傷に対するテーピングについて解説・実演する。 ペアになりテーピングを実施し、互いに評価する。</p>	<p>(予習：1h) 膝関節および大腿部の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 膝関節内側副靭帯損傷および大腿部肉離れに対するテーピングを行なう際の注意点およびその方法について確認する</p>
5・6	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 テーピング 体幹(腰部、胸部)、肩部(肩鎖関節、肩関節)のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 腰部、胸部、上肢のスポーツ外傷・障害についての外傷、障害について解説するとともに、そのテーピング方法について解説・実演する。 ペアになり、足部・下腿のテーピングを実施し、互いに評価する。</p>	<p>(予習：1h) 上肢、特に肩関節、肩鎖関節、肘関節の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 肩鎖関節捻挫、肩関節反復性脱臼、対するテーピングの行なう際の注意点とその方法について確認する</p>
7・8	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 テーピング 肘関節、手関節、指関節のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 上肢のスポーツ外傷・障害について解説するとともに、そのテーピング方法について解説・実演する。 ペアになり、足部・下腿のテーピングを実施し、互いに評価する。</p>	<p>(予習：1h) 上肢、特に肘関節の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 肘関節内側副靭帯損傷に対するテーピングの行なう際の注意点とその方法について確認する</p>

9・10	門屋悠香	<p>【授業内容】 競技種目特性に対するコンディショニング評価の実際とプログラムの立案</p> <p>【授業方法】 グループワーク：競技種目特性を考慮したコンディショニング計画を作成・実施し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 指定された競技種目の競技力向上を目的としたコンディショニング評価項目一覧と年間プログラムを作成する</p> <p>(復習：1時間) 振り返りシートをもとに、プログラムを修正する</p>
11・12	門屋悠香	<p>【授業内容】 傷害予防に対するコンディショニング評価の実際とプログラムの立案</p> <p>【授業方法】 グループワーク：傷害予防を目的としたコンディショニング計画を作成・実施し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 指定された傷害の予防を目的としたコンディショニング評価項目一覧と年間プログラムを作成する</p> <p>(復習：1時間) 振り返りシートをもとに、プログラムを修正する</p>
13・14	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) アスレティックリハビリテーションの定義 (2) アスレティックリハビリテーションの概要 アスレティックリハビリテーションの考え方について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックリハビリテーションの意義、目的、概要について解説する。 アスレティックトレーナー活動に係る注意事項について解説する。 アスリートの傷害を調査し、競技復帰までの過程をまとめ、発表・評価する。</p>	<p>(予習：1h) シラバスにて授業内容を確認する</p> <p>(復習：1h) メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの違いを整理する アスレティックトレーナー活動に係る医療行為や医療行為とアスレティックトレーナー活動の境界、注意事項を整理する</p>
15・16	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) 物理療法の基礎知識と実践について理解を深め、物理療法を体験・学習する。 (2) 医療用器具について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 物理療法全般について概説するとともに、温熱療法と寒冷療法の意義、目的、効果について解説する。 ペアで温熱療法、寒冷療法を体験する。</p>	<p>(予習：1h) 温熱療法、寒冷療法で用いる機器を調べる</p> <p>(復習：1h) 温熱療法、寒冷療法の適応と禁忌について整理する</p>

17・18	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) 機能評価の考え方について理解を深める。 (2) リスク管理の基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 プログラムの作成方法、期分け、注意点などについて解説する。 。リスク管理の基礎知識について解説する。 スポーツ復帰にあたり確認を要する事項を考え、グループでまとめて発表する。</p>	<p>(予習：1h) アスレティックリハビリテーションに必要な情報とは何かを考える</p> <p>(復習：1h) アスレティックリハビリテーションの流れと留意点について整理する</p>
19・20	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的について理解を深める。 (2) 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 筋力回復、向上エクササイズの概略とその方法について解説する。 ペアになり、筋力エクササイズが禁止される場合を相手に説明する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	<p>(予習：2h) レポート課題 「MMT(徒手筋力検査)について説明し、長所と短所をまとめる」</p> <p>(復習：1h) open kinetic chain(OKC)とclosed kinetic chain(CKC)の特徴について整理する</p>
21・22	門屋悠香	<p>【授業内容】 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 関節可動域回復、向上エクササイズの概略とその方法について解説する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	<p>(予習：1h) 柔軟性と関節弛緩性の違いを調べる</p> <p>(復習：1h) 関節可動域制限の原因について整理する</p>

23・24	門屋悠香	<p>【授業内容】 (2) 神経筋協調性回復、向上エクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。 (1) 全身持久力回復、向上エクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 神経筋協調性および全身持久力の回復、向上エクササイズの概略とその方法について解説する。 運動時間とエネルギー供給、カルボネン法に関する小テストを実施する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	<p>(予習：1h) 運動時間とエネルギー供給、カルボネン法について調べる</p> <p>(復習：1h) 神経筋協調性エクササイズのプログラミングについて、基本的な考え方を整理する</p>
25・26	門屋悠香	<p>【授業内容】 身体組成の管理に用いるエクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 身体組成管理とスポーツ動作に関わるエクササイズについて解説する。 正しい身体組成の管理について、相手に説明する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	<p>(予習：1時間) 立位時の水深と荷重率について調べる</p> <p>(復習：1時間) 身体組成の管理を目的としたエクササイズの特徴と注意点を整理する</p>
27・28	門屋悠香	<p>【授業内容】 再発予防、外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	<p>(予習：1h) knee-in & toe-out、knee-out & toe-inにおける下肢の関節の動きを調べる</p> <p>(復習：2h) レポート課題 「復習テストを作成する」</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】アスレティックトレーナー総論		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	門屋 悠香			
科目担当者	門屋 悠香			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。アスレティックトレーナーの役割とその業務内容、アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景及び諸外国の状況を理解する。アスレティックトレーナーの組織的な活動とその位置づけや運営管理についても学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携を取って選手をサポートしていくかなどアスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を理解する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本スポーツ協会の定義するアスレティックトレーナーの役割が理解できる。 2. アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や世界の状況を理解できるようになる。 3. アスレティックトレーナーの具体的な業務について説明ができる。 4. アスリートをサポートするスタッフの構成と役割が理解できる。 5. 組織の運営及び管理能力を養うことを理解できるようになる。 6. 社会的な秩序や倫理規定を理解できるようになる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本スポーツ協会の定めるアスレティックトレーナーの役割・歴史的背景・世界の状況を説明できる（レポート） 2. アスレティックトレーナーの業務について、日本スポーツ協会の定める7項目に従い詳細を説明できる（定期試験） 3. アスリートをサポートするスタッフの構成と役割について具体的に述べるができる（レポート） 4. アスレティックトレーナーの活動について具体的に述べるができる（レポート） 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】</p> <p>課題レポート4回（40%）、定期試験（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

【履修要件】

「スポーツコンディショニング実習」を受講していることが望ましい。

【履修上の注意（科目独自のルール）】

1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする
2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする
3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること
4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること
 - (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講
 - (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理
5. 受講までに以下の準備ができること
 - (1) カメラ付きPCまたはタブレット
 - (2) 文書作成ソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。
定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS) を使って解説する。

【テキスト・参考書等】

- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
- (1) アスレティックトレーナーの役割

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当：門屋 悠香
全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

【オフィスアワー】

日時：金曜日10：20～12：50
場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）

質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

備考**【学修時間】**

この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

【その他】

受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。
抽選の場合、JSP0-AT取得者および「スポーツコンディショニング実習」履修者を優先します。

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：1. アスレティックトレーナーの役割

また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ-
------	----	---------------	-------------------------

1		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）とは （1）AT制度の歴史について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー制度の設立に至る経緯を解説する。 グループワーク：アスレティックトレーナーに望む資質について、グループ間で意見を出し合う。</p>	<p>（予習：2h） シラバスにて授業内容を確認する</p> <p>（復習：2h） グループワークで挙げた「アスレティックトレーナーに望む資質」についてまとめ、系統化する</p>
2		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）とは （2）わが国におけるATの歴史について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日本におけるアスレティックトレーナーの歴史および日本スポーツ協会のAT制度について解説する。 グループワーク：アスレティックトレーナーに望む資質について、系統化したものをグループ間でまとめ、発表の準備をする。</p>	<p>（予習：2h） 日本スポーツ協会のHPを閲覧し、アスレティックトレーナーについて確認する</p> <p>（復習：2h） 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成カリキュラムの内容について整理する</p>
3		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）とは （3）諸外国のATに相当する制度について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アメリカのNATA、カナダのCATAなど諸外国のトレーナー制度について解説する。 グループワーク：アスレティックトレーナーに望む資質について、グループごとに発表し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>（予習：2h） NATA（National Athletic Trainers' Association） CATA（Canadian Athletic Therapists Association） のHPを閲覧し、その概要を確認する</p> <p>（復習：3h） レポート課題 「日本と海外のアスレティックトレーナー制度の違いをまとめる」</p>
4		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの任務と役割について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日本スポーツ協会の定めるアスレティックトレーナーの7つの役割について解説する。 アスレティックトレーナーの7つの役割について、選手・指導者ほか異なる立場を想定した場合の期待度を考え、まとめる。</p>	<p>（予習：3h） NATAのHPを閲覧し、Athletic Training Education Competenciesについて確認する</p> <p>（復習：2h） アスレティックトレーナーの役割について整理し、確認する</p>

5		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの業務 アスレティックトレーナーが行うべき業務の全体像を理解する。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナーが行うべき業務の総論を解説する。 復習レポート課題作成の説明をおこなう。</p>	<p>(予習：2h) レポート課題 「通常の練習におけるアスレティックトレーナーのタイムスケジュールを作成する」</p> <p>(復習：2h) レポート課題 「JSP0-AT過去試験問題の模範解答を作成する」</p>
6		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの業務 アスレティックトレーナーが行うべき業務について、理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナーが行うべき様々な業務について個別に解説する。 前回作成した模範解答をペアで確認し、評価する。</p>	<p>(予習：2h) JSP0-AT過去試験問題をホームページで確認する</p> <p>(復習：2h) アスレティックトレーナーが行うべき業務について整理し、確認する</p>
7		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの活動 遠征時のアスレティックトレーナーの活動について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 国内および海外における遠征時のアスレティックトレーナーの活動について、概要と注意点を解説する。 グループワーク：アスレティックトレーナー活動を通常練習時と遠征時と比較し、違いをグループでまとめる。</p>	<p>(予習：3h) レポート課題 「遠征時に必要なトレーナーバックの中身のリストを作成する」</p> <p>(復習：2h) 遠征時におけるアスレティックトレーナー活動の注意点を整理する</p>
8		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの活動 競技別アスレティックトレーナーの活動について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 陸上競技、硬式テニス競技におけるアスレティックトレーナーの活動について解説する。 講義内容を「まとめシート」に整理する。</p>	<p>(予習：2h) 陸上競技独特のシステムであるスリーステーション制について調査する テニス競技における、ドクターまたはアスレティックトレーナーの活動に関わるルールについて調査する</p> <p>(復習：2h) 外部講師の場合、講義内容についてのレポートを作成する (外部講師ではない場合、講義内容について整理する)</p>

9		<p>【授業内容】 医科学スタッフとの連携・協力 (1) 医科学スタッフの構成と役割 (2) スポーツドクターとの連携・協力 (3) コーチとの連携・協力 チームスタッフの役割と連携について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 スポーツドクター、コーチ、チーム関係者などとの連携について解説する。 グループワーク : チームスタッフとの間に起こるトラブルを考え、グループで対応策を考える。</p>	<p>(予習: 2h) 以下の資格制度について調査し、まとめる 理学療法士、柔道整復師、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ師</p> <p>(復習: 2h) アスレティックトレーナーに関わる職種について整理する</p>
10		<p>【授業内容】 組織の運営と管理 (1) アスレティックトレーナーの組織と運営について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナー活動の運営計画と安全管理について解説する。 グループワーク : 安全管理において起こるトラブルを考え、グループで対応策を考える。</p>	<p>(予習: 3h) レポート課題 「アスレティックトレーナー活動に必要な用具・用品リストを作成する」</p> <p>(復習: 2h) アスレティックトレーナー活動に必要な予算計画と管理について整理する</p>
11		<p>【授業内容】 組織の運営と管理 (2) 競技者のコンディショニングに関するデータの管理について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナー活動におけるデータの管理について解説する。 グループワーク : データ管理において起こるトラブルを考え、グループで対応策を考える。</p>	<p>(予習: 2h) スポーツ選手に必要なデータの種類を調べる</p> <p>(復習: 2h) データの回収方法、フィードバック方法について整理する</p>
12		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー(AT)と倫理 (1) ATの目的と社会的立場・社会と秩序について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナーの社会的立場について解説する。 グループワーク : 提示する事例をもとに、競技者が理解できる説明方法を考え、発表する。</p>	<p>(予習: 2h) インフォームドコンセントについて調べる</p> <p>(復習: 2h) アスレティックトレーナーの社会的立場の特徴について整理する</p>

13		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）と倫理 （2）ATの倫理について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナー活動を行う上での倫理について解説する。 グループワーク：現場実習でのアスレティックトレーナー実習生の注意事項をペアで確認する。</p>	<p>（予習：2h） スポーツ界でのハラスメントについて調べる</p> <p>（復習：2h） 現場実習でのアスレティックトレーナー実習生の注意事項について整理する</p>
14		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）と倫理 （3）医療関係法規・ATと法的諸問題 について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 スポーツ事故における法的問題について、過去の判例とともに解説する。 グループワーク：過去の判例をもとに、スポーツ事故における対応策をグループごとに発表し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>（予習：2h） 医師、看護師など医療関係者の倫理規定について調べる</p> <p>（復習：2h） 医療関係者の倫理規定について整理するとともに、ATの倫理についても確認する</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】アスレティックリハビリテーション実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	門屋 悠香			
科目担当者	門屋 悠香、高澤 祐治、中新井田 敦子、鹿倉 二郎			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、実習の授業形態で行われる。アスリートに対するリハビリテーションでは、競技特性を理解した上で安全かつ早期の競技復帰は重要な課題であるが、そのためには的確な情報収集と評価に基づくリハビリテーションが必要である。運動とスポーツ傷害の関係を身体の構造、機能の面から学修し、具体的なスポーツ外傷・障害を想定した模擬症例を通して、段階的プロトコールに基づくアスレティックリハビリテーションの実施と指導方法を学ぶ。 （オムニバス方式 / 全28回）</p> <p>（56 門屋悠香 / 4回） アスレティックリハビリテーションの進行に必要な競技種目特性の捉え方を理解する。各競技種目で要する動作の特性、動作の遂行に要する機能的要素、各競技種目で要する体力的な特性、各競技種目における外傷発生機転、各競技種目に復帰するに当たっての機能的、体力的到達目標を対象者に説明できるようにする。</p> <p>（7 高澤祐治，56 門屋悠香 / 4回）（共同） アスレティックリハビリテーションの概要及び物理療法・補装具について解説し、実習を行う。物理療法、温熱療法、寒冷療法、各種電気療法、超音波療法、水治療などについて、その使用目的、各種物理療法の名称及び適応と禁忌を理解する。加えて、補装具や足底挿板、松葉杖の使用目的及び使用に関する適応と禁忌を理解する。</p> <p>（54 門屋悠香，95 中新井田敦子，105 鹿倉二郎 / 20回）（共同） 代表的なスポーツ外傷・障害について、ア</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師から得ておくべき医学的情報を説明できる（定期試験） 2. 医師以外にも可能な情報収集の具体的項目と収集方法について説明できる（定期試験） 3. 特に注意を要する患部のリスク管理について、具体的に述べることができる（レポート） 4. 競技特性を考慮したアスレティックリハビリテーションプログラムが作成できる（レポート） 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】 課題レポート4回（40%）、定期試験（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

【履修要件】

以下の科目を受講していることが望ましい

- (1) スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習
- (2) スポーツコンディショニング実習
- (3) アスレティックトレーニング実習
- (4) アスレティックトレーナー総論

【履修上の注意（科目独自のルール）】

1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする
2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする
3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること
4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること
 - (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講
 - (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理
5. 受講までに以下の準備ができること
 - (1) カメラ付きPCまたはタブレット
 - (2) 文書作成ソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。

定期試験については、JUNTENDO PASSPORT

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当：門屋 悠香

全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。

その他の連絡先は授業内でお知らせします。

【オフィスアワー】

日時：金曜日10：20～12：50

場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）

質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。

その他の連絡先は授業内でお知らせします。

備考**【学修時間】**

この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。

【実務経験のある教員による授業】

JSP0-AT資格を有する者、JSP0-AT資格に加え理学療法士または鍼灸マッサージ師のいずれかの国家資格を有する者が、アスレティックリハビリテーションを担当する。

【その他】

受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。

抽選の場合、JSP0-AT取得者および「履修要件」科目履修者を優先します。

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。

- ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：8. アスレティックリハビリテーション
- ・健康・体力づくり財団 健康運動指導士

また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1・2	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】</p> <p>(1) アスレティックリハビリテーションの概要について理解を深める。</p> <p>(2) 物理療法について理解を深め、物理療法を体験・学習する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>電気刺激療法、超音波療法について概説するとともに、意義、目的、効果について解説する。ペアで物理療法を体験する。</p>	<p>(予習：1h)</p> <p>シラバスにて授業内容を確認する 物理療法で用いる機器を調べる</p> <p>(復習：1h)</p> <p>電気刺激療法、超音波療法の適応と禁忌について整理する</p>
3・4	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】</p> <p>補装具の使用に関する基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。 足底挿板について理解を深める。</p> <p>【授業方法】</p> <p>補装具使用の適応と禁忌、足底挿板について解説する。 固定・免荷をを体験する。</p>	<p>(予習：2h)</p> <p>レポート課題 「スポーツ活動中に使用する補装具と仕様ルールについてまとめる」</p> <p>(復習：1h)</p> <p>医療用装具の適応について整理する</p>
5・6	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】</p> <p>アスレティックリハビリテーションの実践 頸椎捻挫、腰部疾患のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>頸椎捻挫、腰部疾患のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：2h)</p> <p>レポート課題 「腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、筋筋膜性腰痛の違いをまとめる」</p> <p>(復習：1h)</p> <p>腰部疾患のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
7・8	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】</p> <p>アスレティックリハビリテーションの実践 肩関節前方脱臼、投球障害肩のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>肩関節前方脱臼、投球障害肩のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h)</p> <p>肩関節の機能解剖を確認する</p> <p>(復習：1h)</p> <p>肩関節前方脱臼のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>

9・10	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 外傷性肘MCL損傷、その他肘関節傷害のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 外傷性肘MCL損傷、その他肘関節傷害のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) 驚足を構成する機能解剖について調べる</p> <p>(復習：1h) 外傷性肘MCL損傷のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
11・12	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 手関節捻挫 ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 手関節捻挫のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：X時間) 手関節 の圧痛点とランドマークを確認する</p> <p>(復習：1時間) レポート課題 「3回～6回の復習テストを作成する」</p>
13・14	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 足関節捻挫ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 足関節捻挫のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) knee-in & toe-out、knee- out & toe- inにおける下肢の関節の動きを調べる</p> <p>(復習：1h) 足関節内がえし捻挫のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
15・16	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 膝内側側副靭帯損傷ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 膝内側側副靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) 膝関節の圧痛点とランドマークを確認する</p> <p>(復習：1h) 膝内側側副靭帯損傷のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>

17・18	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 膝前十字靭帯損傷 ほか</p> <p>【授業方法】 膝前十字靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) 膝前十字靭帯の機能解剖を確認する</p> <p>(復習：1h) 膝前十字靭帯損傷のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
19・20	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 大腿屈筋肉ばなれ ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 大腿屈筋肉ばなれのアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) ハムストリングスの機能解剖を確認する</p> <p>(復習：1h) 大腿屈筋肉ばなれのリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
21・22	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 扁平足障害（過回内足傷害）、脛骨過労性骨障害のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 扁平足障害（過回内足傷害）、脛骨過労性骨障害のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) ウィンドラス機構について調べる</p> <p>(復習：1h) 扁平足障害のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
23・24	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 鷲足炎、膝蓋大腿関節障害のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 鷲足炎、膝蓋大腿関節障害のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) 鷲足の機能解剖を確認する</p> <p>(復習：1h) 鷲足炎のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>

25・26	門屋悠香	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションのプログラミング 競技種目特性を踏まえたアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 競技種目特性別の前期アスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) 筋の収縮様式を確認する</p> <p>(復習：1h) レポート課題 「7回～12回の復習テストを作成する」</p>
27・28	門屋悠香	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションのプログラミング 競技種目における動作特性と体力特性を踏まえたアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 競技種目特性別の後期アスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	<p>(予習：1h) 柔軟性と関節弛緩性の違いを調べる</p> <p>(復習：1h) 各競技における代表的な外傷発生機転を整理する 各競技における競技種目特性について、体力要素により整理する</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツの生理学・生化学		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	町田 修一			
科目担当者	町田修一、内藤久士、鈴木良雄、吉原利典、福典之、宮本恵里			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツの競技や種目の特性について、主に生理・生化学的な観点から理解を深めることを目的に体系的に講義を行う。まず総論として、スポーツ全般に関わる普遍的な運動生理・生化学的事象について、また各論としてそれぞれの競技種目別の生理学的、生化学的特性や選手の身体的体的特徴などについて説明する。スポーツ健康科学の幅広い知識と教養に基づき、各種スポーツの競技力向上に必要とされるトレーニングやその指導に活用できる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」、「スポーツ指導現場に詳しいスポーツ医科学研究者の育成」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. スポーツの実践や指導に生理・生化学的知識を応用することの意義を理解し、その能力を涵養する。 2. 科学的トレーニングおよびスポーツ指導のための理論的根拠を確立する。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 種々のスポーツを生理学・生化学的側面から正しく理解している（定期試験、課題レポート）。 2. トレーニングや種々のスポーツを生理学・生化学的側面から正しく理解し、知識として身につけているか（小テスト）</p> <p>【成績評価の方法】 小テスト（30%）、課題レポート（10%）、定期試験（60%）を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 この講義はスポーツ医科学コースの必修科目である。講義の単位取得は、教室内での時間の2倍の時間が予習と復習に当てられ、かつ試験に合格することが前提となっているので、予習復習を欠かさないようにしてもらいたい。なお、履修は運動生理学を履修済みであること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 小テストの解答やレポート課題の模範解答については、講義形式で解説を行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 【参考書】 スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識（市村出版）、 健康・体力のための運動生理学（杏林書院） パワーズ運動生理学（メディカル・サイエンス・インターナショナル） ほか、適宜指示する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 内藤 1号館 1階 運動生理学研究室（1117号室） 連絡先：hnaitou@juntendo.ac.jp 町田 1号館 1階 運動生理学研究室（1118号室） 連絡先：machidas@juntendo.ac.jp 鈴木 1号館 2階 1223号室 連絡先：yssuzuki@juntendo.ac.jp 吉原 1号館 1階 運動生理学研究室 連絡先：t-yoshih[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 内藤：月曜日昼（事前にメールなどで予約をすることを推奨します） 町田：月曜日10時から12時（事前にメールなどで予約をすることを推奨します） 鈴木：月曜日昼休み 吉原：月曜日昼休み</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり財団 健康運動指導士</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 ガイダンス：スポーツ生理学を定義するとともに、講義日程、内容、履修上の注意点に触れ、スムーズな単位取得に向けてのガイダンスを行う。また、ビデオ等を用いて今後の講義に対する動機づけを行う。</p> <p>【授業方法】 ビデオやスライド、配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（復習：4時間） 配布資料を熟読しておく。履修登録が確実にされているか再確認しておく。</p>
2	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 トレーニング方法の生理学的根拠：トレーニングの原理・原則を構成する生理学的事実について触れ、トレーニングを科学的立場から理解できるように、代表的なトレーニングの生理学的特徴および根拠を説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
3	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 スポーツと休養・疲労：トレーニングの効果は、「超回復」が時空的に加重された結果である。スポーツやトレーニングにおける休養の意義と疲労回復促進手段としての栄養補給、休養、睡眠、温浴、マッサージなどについて説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
4	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 スポーツと年齢および性：運動に対する生理機能の応答および適応の性・年齢別特徴を明らかにし、発育期および高齢期における正しいトレーニングの方法について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>

5	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 ウォーム・アップの生理学的基礎：ウォーム・アップ（準備運動）の生理学的な意義を理解できるように、ウォーム・アップによって期待されるパフォーマンスの向上、トレーニングの効率化、傷害予防などについて説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
6	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 クール・ダウンの生理学的基礎：クール・ダウン（整理運動）の生理学的な意義を理解できるように、クール・ダウンによって期待される運動やスポーツ後の疲労回復の促進や傷害の危険防止について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
7	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 競技記録の生理学的基礎：競技記録を規定する生理学的因子としての、エネルギー出力、筋力や筋線維組成、神経筋協調能、形態要素としての体格などの因子について例をあげながら説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
8	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 環境とトレーニング：温度、気圧などの環境条件の変化による生理学的応答・適応について説明する。特に、最近注目されている高所トレーニングを題材にし、その理解を深める</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
9	内藤久士 町田修一 鈴木良雄 吉原利典	<p>【授業内容】 陸上競技の生理学1 - 短距離走：短距離走選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、ランニング時のエネルギー供給系などを通して、これらの種目の持つ生理学・生化学的特性の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>

10	内藤久士 町田修一 鈴木良雄 吉原利典	<p>【授業内容】 陸上競技の生理学2 - 中長距離走：中長距離選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、ランニング時のエネルギー供給系などを通して、これらの種目の持つ生理学・生化学的特性の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
11	内藤久士 町田修一 鈴木良雄 吉原利典	<p>【授業内容】 球技の生理学：球技種目選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、ゲーム時のエネルギー供給系などを通して、球技種目の持つ生理学・生化学的特性の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
12	内藤久士 町田修一 鈴木良雄 吉原利典	<p>【授業内容】 自転車競技の生理学：自転車競技選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、競技中のエネルギー供給系などを通して、自転車種目の持つ生理学・生化学的特性の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
13	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 水泳競技の生理学：競泳選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、基本動作の筋電図学的解析などを通して、これらの種目の持つ生理学的特性の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
14	内藤久士 町田修一 吉原利典	<p>【授業内容】 冬季競技の生理学：スケートやスキー競技選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、基本動作の筋電図学的解析などを通して、これらの種目の持つ生理学的特性の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配付資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備しておく。</p>
		定期試験を実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ医科学総合実験実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	内藤 久士			
科目担当者	町田修一、内藤久士、高澤祐治、和氣秀文、福典之、柳谷登志雄、宮本直和、深尾宏祐、坂本彰宏、窪田敦之、山中航、吉原利典、鄧鵬宇、宮本恵里、西尾啓史、黒坂裕香			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、実習の授業形態で行われる。安静時及び運動時の身体諸機能の変化を、生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツバイオメカニクスなどで多用される方法を用いて測定・記録し、評価する作業を通じて、スポーツ医科学に関連する講義内容の理解を総合的に深めることを目標とする。そのため、履修者全員が被験者及び検者を経験し、測定機器の基本的な操作方法や測定原理について学ぶとともに、授業内で行うデータ収集・分析をもとにして取得したデータをレポートとしてまとめ提出する。またそのデータやレポートをもとに、グループディスカッションを行い、得られたデータをスポーツ医科学的な観点から解釈できるようになることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 運動と密接な関係を有する生理学的諸機能が、運動によりいかに変化するのかを正確に記述することができる。 2. 実験実習を通じて、スポーツ医科学に関連する講義で得た知識を説明することができる。 3. 測定器具の使用に習熟し、身体諸機能の測定を行うことができる。 4. 取得したデータを科学的に処理し、それをもとに論理的な討議を行うことができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 運動と密接な関係を有する生理学的諸機能が、運動によりいかに変化するのかを正確に記述することができる(レポート・筆記試験)。 2. 実験実習を通じて、スポーツ医科学に関連する講義で得た知識を説明することができる(レポート・筆記試験)。 3. 測定器具の使用に習熟し、身体諸機能の測定を行うことができる(レポート・平常点)。 4. 取得したデータを科学的に処理し、それをもとに論理的な討議を行うことができる(レポート・平常点)。</p> <p>【成績評価の方法】 課題レポート6回(60%)・平常点(30%)・筆記試験(10%)によって総合的に評価する。 なお、実験実習の進行上、ふさわしくないと判断される行為は、減点の対象とします。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 この実習はスポーツ医科学コースの必修科目である。「スポーツ医科学基礎演習」と「スポーツの生理学・生化学」を履修すること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは翌週の授業で返却する。返却されるレポートには個別に修正すべき点が明記されているので、その内容に沿って、レポートの修正を進める。</p> <p>【テキスト・参考書等】 授業時に、適宜、資料を配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 町田修一：machidas[at]juntendo.ac.jp 内藤久士：hnaito[at]juntendo.ac.jp 和氣秀文：hwaki[at]juntendo.ac.jp 福典之：nfuku[at]juntendo.ac.jp 深尾宏祐：fukao777[at]juntendo.ac.jp 坂本 彰宏：a-sakamo[at]juntendo.ac.jp 山中 航：k-yamana[at]juntendo.ac.jp 吉原利典：t-yoshih[at]juntendo.ac.jp 鄧 鵬宇：deng[at]juntendo.ac.jp 宮本恵理：eri-miyamoto[at]juntendo.ac.jp 黒坂裕香：y-kurosaka[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 内藤久士： 吉原利典： 鄧： 深尾宏祐：月曜日昼休み・研究室 和氣秀文：月曜日昼休み・研究室 町田修一：月曜日昼休み・研究室 福典之：月曜日昼休み・研究室</p>			
<p>備考</p>			
<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の系90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p>			
<p>【その他】 実習への参加にあたっては、毎回必ず予定される実習項目の内容を予習しておくこと。実習後には、すみやかにデータ整理を行い、各自オリジナルのレポートを提出すること。本実習では、毎回の学習が積み上げられることで成果が期待できるため、欠席のないようにするとともに、興味を持って積極的に参加することが望まれる。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	<p>[授業内容] ガイダンス：これから行われる実習日程、実習場所、内容などについての概要を説明する。また実習を安全かつ効率よく進められるように指導する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(復習：2時間) 配布された実習書の内容すべてに目を通しておく。履修登録が確実に行われているか再確認しておく。</p>
2	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	<p>授業内容] レポートの作成方法について説明・指導を行う。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行うとともに、データ処理の方法について演習を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 基本的なレポートの書き方について調べておく。</p> <p>(復習：2時間) レポート作成方法とデータ処理方法について復習する。</p>

3	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 : エネルギー代謝 歩行と走行を例に、運動時のエネルギー代謝の様子を知る上で の基本的な手法にふれる。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり 、測定器具を用いて実習を行う 。</p>	<p>(予習 : 1時間) 酸素摂取量の測定方法について確認する。</p> <p>(復習 : 1時間) 課された課題についてレポートを作成する。</p>
4	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 の発展的な課題に取り組み、 内容への理解を深める。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり 、応用的な課題についてディス カッションを行う。</p>	<p>(予習 : 1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。</p> <p>(復習 : 1時間) 機器の操作方法等について復習し、 まとめておく。</p>
5	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 : 最大負荷テスト 自転車エルゴメータを用いて最大 酸素摂取量の測定と評価を行う。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり 、測定器具を用いて実習を行う 。</p>	<p>(予習 : 1時間) 最大負荷テストの手順について確認する。</p> <p>(復習 : 1時間) 課された課題についてレポートを作成する。</p>
6	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] [授業内容] 実習 の発展的な課題に取り組み、 内容への理解を深める。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり 、応用的な課題についてディス カッションを行う。</p>	<p>(予習 : 1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。</p> <p>(復習 : 1時間) 機器の操作方法等について復習し、 まとめておく。</p>
7	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 : 筋電図 筋電図の記録を行い、筋の活動 状態を知るための手続きを学習 する。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり 、測定器具を用いて実習を行う 。</p>	<p>(予習 : 1時間) 筋電図の測定方法について確認する。</p> <p>(復習 : 1時間) 課された課題についてレポートを作成する。</p>

8	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 の発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。</p>	<p>(予習：1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。</p> <p>(復習：1時間) 機器の操作方法等について復習し、まとめておく。</p>
9	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 ：血圧 安静時および運動時の血圧を測定について学習する。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 血圧の測定方法について確認する。</p> <p>(復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。</p>
10	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 の発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。</p> <p>[授業方法] 8名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。</p>	<p>(予習：2時間) データ解析のために必要なアプリケーションのインストールなど、パソコンの環境整備、基礎的な使用方法の学習をしてくる。</p> <p>復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。</p>
11	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>実習 ：筋力と筋持久力 等速性運動装置を用いた筋力及び筋持久力の測定について学習する。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 筋力と筋持久力の測定方法について確認する。</p> <p>(復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。</p>
12	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 の発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。</p> <p>[授業方法] 16-18名のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。</p>	<p>(予習：1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。</p> <p>(復習：1時間) 機器の操作方法等について復習し、まとめておく。</p>

13	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 : 無酸素パワー/無酸素容量と乳酸 自転車エルゴメータを用いて、無酸素パワーの測定・評価を実施する。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。</p>	<p>(予習: 1時間) 無酸素パワーの測定方法について確認する。</p> <p>(復習: 1時間) 課された課題についてレポートを作成する。</p>
14	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	<p>[授業内容] 実習 の発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。</p> <p>[授業方法] 16-18名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。</p>	<p>(予習: 1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。</p> <p>(復習: 1時間) 機器の操作方法等について復習し、まとめておく。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ医科学基礎演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	鈴木 宏哉			
科目担当者	鈴木 宏哉、河村 剛光、川田 裕次郎、室伏由佳、山中 航、吉原 利典、鄧鵬宇、宮本 恵里、西尾 啓史			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。ヒトを対象としたスポーツ医科学に関する基礎的な実験・調査の実施及び実験・調査によって得られたデータの処理方法と評価に関する演習を行う。具体的には、「ヒトの形態、身体組成、運動機能」の測定と評価、ヒトの運動パフォーマンスに関わる心理的要因の理解であり、これらをレポートにまとめることを通して、スポーツ医科学に関する幅広い基礎知識とスポーツ医科学研究の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 形態、身体組成、運動機能の測定方法について説明することができる。 2. スポーツ心理学の基礎的な調査方法について説明することができる。 3. 数量化されたデータの集計方法について説明することができる。 4. 測定や調査で得られた知見をレポートにまとめ報告することができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 形態、身体組成、運動機能の測定方法について説明することができる。（課題レポート） 2. スポーツ心理学の基礎的な調査方法について説明することができる。（課題レポート） 3. 数量化されたデータの集計方法について説明することができる。（課題レポート） 4. 測定や調査で得られた知見をレポートにまとめ報告することができる。（課題レポート）</p> <p>【成績評価の方法】 課題レポート4回(80%)・平常点(20%)によって総合的に評価する。 なお、実験実習の進行上、ふさわしくないと判断される行為は、減点の対象とします。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 この演習はスポーツ医科学コースの必修科目である。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートのフィードバックは授業中に返却して解説を行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 プリントを授業の時に配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 鈴木宏哉：ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp 河村 剛光：ykoumura[at]juntendo.ac.jp 川田裕次郎：yuukawa[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 鈴木宏哉：木曜日 昼休み（12:00～12:50）研究室 河村 剛光：木曜日 昼休み（12:00～12:50）研究室 川田裕次郎：水曜日 昼休み（12:00～12:50）研究室</p>			
備考				

<p>[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学修30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p>			
<p>[その他]</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	鈴木宏 河村 川田 室伏 山中 吉原 鄧 宮本 黒坂	<p>[授業内容] オリエンテーションを行う。</p> <p>[授業方法] 演習の概要、注意点、進め方などについて説明する。</p>	<p>（予習：1時間） J-PASSにアップした資料をあらかじめ熟読しておく。</p> <p>（復習：1時間） 授業資料にある授業計画を再度読み、実習全体の流れをつかむ。</p>
2	鈴木宏 山中 鄧	<p>[授業内容] データ処理（平均値・標準偏差と棒グラフ）について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 表計算ソフトを利用して、平均値・標準偏差を算出する。それらの解釈と作図表現の基本について説明する。</p>	<p>（予習：1時間） データから集団の特徴を把握する方法にどのようなものがあるか調べておく。</p> <p>（復習：1時間） 表計算ソフトで計算を実行する仕組みと作図方法について整理する。</p>
3	鈴木宏 山中 鄧	<p>[授業内容] データ処理（相関係数と散布図）について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 表計算ソフトを利用して、相関係数を算出する。その解釈と作図表現の基本について説明する。</p>	<p>（予習：1時間） 量的データから関連を検討する方法にどのようなものがあるか調べておく。</p> <p>（復習：1時間） 表計算ソフトで量的データの関連を検討する方法と作図方法について整理する。</p>
4	鈴木宏 山中 鄧	<p>[授業内容] データ処理（比率・クロス集計・帯グラフ）について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 表計算ソフトを利用して、比率を算出する。その解釈と作表・作図表現の基本について説明する。</p>	<p>（予習：1時間） 質的データから関連を検討する方法にどのようなものがあるか調べておく。</p> <p>（復習：1時間） 表計算ソフトで質的データの関連を検討する方法と作表・作図方法について整理する。</p>
5	河村 吉原 宮本	<p>[授業内容] 形態計測について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 長育、周育を測る方法について、専門的な機器等を用い、検者として実際に測定する。</p>	<p>（予習：1時間） 形態計測の方法について調べておく。</p> <p>（復習：1時間） 実習で行った形態計測を習熟するまで練習する。</p>
6	河村 吉原 宮本	<p>[授業内容] 身体組成計測について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 体脂肪率を測る方法について、複数の機器を用い、検者として実際に測定する。</p>	<p>（予習：1時間） 体脂肪率の測定方法について調べておく。</p> <p>（復習：1時間） 実習で行った計測方法を習熟するまで練習する。</p>

7	河村 吉原 宮本	<p>[授業内容] 形態計測と体脂肪率のデータを用いて計測部位・計測方法の違いによる計測値の変化について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 実習で収集したデータを利用して、集計と評価の仕方について解説する。</p>	<p>(予習：1時間) 計測部位や計測方法の違いが計測値に及ぼす影響について調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 計測したデータに基づき、レポートを作成する。</p>
8	川田 室伏 黒坂	<p>[授業内容] 心理テストについて学ぶ。</p> <p>[授業方法] 頻繁に用いられる心理テストとその活用方法について解説する。</p>	<p>(予習：1時間) 既存の心理テストについて調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 実習で学習した心理テストを他者に実践する。</p>
9	川田 室伏 黒坂	<p>[授業内容] 心の状態・特性と関連する要因について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 心の状態・特性と関連要因の調査を実施し、基本的な特徴を確認する。</p>	<p>(予習：1時間) 心理の状態・特性に関連する要因について調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 実習で調査したデータを集計し基本統計量を算出する。</p>
10	川田 室伏 黒坂	<p>[授業内容] 心の状態・特性と関連する要因を検討する方法について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 実習で収集したデータを利用して、集計と評価の仕方について解説する。</p>	<p>(予習：1時間) 関連する要因の分析方法について調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 集計したデータに基づき、レポートを作成する。</p>
11	鈴木宏 河村 川田	<p>[授業内容] 運動機能としてスポーツ庁新体力テスト(血圧測定を含む)について学ぶ。</p> <p>[授業方法] スポーツ庁新体力テスト(成人用)を用い、検者として実際に測定する。</p>	<p>(予習：1時間) スポーツ庁新体力テストマニュアルを事前に読んでおくこと。</p> <p>(復習：1時間) 実習で行った計測方法を習熟するまで練習する。</p>
12	鈴木宏 河村 川田	<p>[授業内容] 運動機能に関する様々なフィールドテストについて学ぶ。</p> <p>[授業方法] フィールドで実施可能な運動機能テストについて、専門的な機器等を用い、検者として実際に測定する。</p>	<p>(予習：1時間) フィールドで実施可能な運動機能テストについて調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 実習で行った計測方法を習熟するまで練習する。</p>
13	鈴木宏 河村 川田	<p>[授業内容] 運動機能に関するテスト項目間の関連性について学ぶ。</p> <p>[授業方法] 実習で収集したデータを利用して、集計と評価の仕方について解説する。</p>	<p>(予習：1時間) 運動機能を計測するテストの中で類似しているテストを調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 計測したデータに基づき、レポートを作成する。</p>

14	鈴木宏 河村 川田 室伏 山中 吉原 鄧 宮本 黒坂	<p>[授業内容] アカデミックプレゼンテーションの基礎について学ぶ。</p> <p>[授業方法] これまでに作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。</p>	<p>(予習 : 3時間) これまでに作成したレポートを整理し、プレゼンテーション資料の準備を行う。</p> <p>(復習 : 1時間) アドバイスを踏まえてプレゼンテーション資料を修正する。</p>
		定期試験は実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツ医科学研究法		授業形態	講義・演習
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	和気 秀文			
科目担当者	和気 秀文、鈴木 良雄、柳谷 登志雄、福嶋 典之、宮本 直和、坂本 彰宏、室伏 由佳、西尾 啓史			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツ医科学系の柱となる専門基礎科目並びに専門展開科目について、より高度な専門書の読解、論文（和文及び英文）の抄読、及びプレゼンテーションやグループディスカッションを通じ、研究方法（研究デザイン、データ解析、結果の表現、考察、及び成果の発表方法）と研究倫理に関する知識の涵養を図る。こうした学修を通して、将来、より高度な医科学的知識を有したスポーツ指導者や、大学や研究機関などで働く研究者になるための基礎力と応用力、さらに国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力を養うことを目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. スポーツ医科学に関する学術論文（和文および英文）を理解し要点をまとめ、他者に説明することができる。 2. スポーツ医科学に関する研究方法（研究デザイン、データ解析、結果の表現、考察、および成果の発表方法）について説明することができる。 3. スポーツ医科学に関する研究倫理について説明することができる。 4. スポーツ医科学に関する最新の話題につ</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. スポーツ医科学に関する学術論文（和文および英文）を理解し要点をまとめ、他者に説明することができる。 2. スポーツ医科学に関する研究方法（研究デザイン、データ解析、結果の表現、考察、および成果の発表方法）について説明することができる。 3. スポーツ医科学に関する研究倫理について説明することができる。 4. スポーツ医科学に関する最新の話題につ</p> <p>【成績評価の方法】 課題レポート(80%)・平常点(20%)により総合的に評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 この科目はスポーツ医科学コースの選択必修科目である。機能解剖学、生理学、運動生理学、スポーツの生理学・生化学、バイオメカニクス、スポーツ医学総論、スポーツ心理学を受講していることが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 各分野の担当教員の指示に従い予習と復習をするように努めること。単位の取得には、授業回数の3分の2以上出席していること、授業態度が良好であること、かつ試験に合格することが前提である。</p> <p>【テキスト・参考書等】 各分野を担当する教員が適宜指示する。</p>			
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 和気秀文：hwaki [at]juntendo.ac.jp 鈴木良雄：yssuzuki [at]juntendo.ac.jp 担当者に記載なし（宮本直和？） 福典之：nfuku [at]juntendo.ac.jp 宮本直和：n-miyamoto[at]juntendo.ac.jp 坂本彰宏：a-sakamo [at]juntendo.ac.jp 室伏由佳：y.murofushi.cc [at]juntendo.ac.jp 西尾啓史：h-nishio [at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 和気秀文：月曜日昼休み・研究室 鈴木良雄：yssuzuki [at]juntendo.ac.jp 担当者に記載なし（宮本直和？） 福典之：月曜日昼休み・研究室 宮本直和：月曜日昼休み・研究室 坂本彰宏：月曜日昼休み・研究室 室伏由佳：月曜日昼休み・研究室 西尾啓史：月曜日昼休み・研究室</p>			
<p>備考</p>			
<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の系90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p>			
<p>【その他】</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	和気 鈴木 福 室伏 山中 西尾	<p>【授業内容】 ガイダンス スポーツ医科学を学ぶことの意義について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業の進め方や注意点などを説明する。また、授業中に提示するスライドや配布した資料に沿ってスポーツ医科学を学ぶ意義について講義する。</p>	<p>(予習：1時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：1時間) 講義の内容を踏まえ、スポーツ医科学の学問体系について整理する。</p>
2	和気 鈴木 福 室伏 山中 西尾	<p>【授業内容】 研究とは何かについて、スポーツ医科学分野の事例を中心に解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究とは何かについて講義する。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究とは何かについて整理する。</p>
3	和気 鈴木 福 室伏 山中 西尾	<p>【授業内容】 研究に取り組む際に、どのような研究の種類を用いて実施することが望ましいかについて多角的観点から解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究の種類について講義する。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究の種類やその長所・短所について整理する。</p>

4	和気 鈴木 福室 伏山 中西	<p>【授業内容】 研究に取り組む際に、その研究の位置づけを知るために重要な文献検索法を解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って文献検索法について講義する。10人程度のグループに別れ、それぞれのグループで設定した研究テーマに関連が深い文献（英文）を検索する。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認する。自身で研究テーマを設定し、それに関連したキーワードを抽出する。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、文献の検索法について整理する。</p>
5	和気 鈴木 福室 伏山 中西	<p>【授業内容】 原著論文や総説といった研究論文の構成や読み方のポイントについて解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究論文の読み方について講義する。また、10人程度のグループに別れ、英文抄録についてポイントをまとめ発表する。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認する。グループで選定した英文抄録を読み概要を理解しておく。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、適切な先行研究の選定方法について整理する。</p>
6	和気 鈴木 福室 伏山 中西	<p>【授業内容】 研究論文のシステムティックレビューについて解説し、エビデンスレベルの高い情報収集法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿ってシステムティックレビューについて講義し、根拠に基づくスポーツ医学の知見についての情報の収集法を学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、エビデンスレベルの高い研究論文の収集法について整理する。</p>
7	和気 鈴木 福室 伏山 中西	<p>【授業内容】 研究の仮説やテーマをどのように立てるかについて解説し、自身に適した研究テーマの設定法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究の仮説や研究のテーマの設定法について講義する。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究の仮説や自身に適した研究テーマの立て方について整理する。</p>

8	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	<p>【授業内容】 研究計画の立て方について解説し、それぞれの研究課題の解決目標に適した研究デザインについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究計画の立て方について講義し、適切な研究デザイン等について討議する。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究計画の立て方について、長所・短所・研究計画の限界について整理する。</p>
9	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	<p>【授業内容】 設定した研究計画をどのように遂行していくかについて解説し、対象者・材料の選別やサンプルサイズ、研究の方法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究計画の遂行の仕方について講義し、研究計画を遂行するにあたり、どのような方法を用いると適切なのかについて学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、適切な研究計画の遂行するための対象者・材料の選別やサンプルサイズ、研究の方法整理する。</p>
10	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	<p>【授業内容】 研究倫理について解説し、研究を遂行するためのルールについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究倫理について講義し、研究計画を遂行するにあたり、どのような倫理的配慮が必要可について学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、適切な研究計画の遂行するための倫理、特にヘルシンキ宣言等について整理する。</p>
11	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	<p>【授業内容】 データ収集・データ解析のポイントについて解析し、統計手法などについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿ってデータ収集。データ解析について講義し、適切なデータ解析の方法について学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、適切なデータ解析について整理する。</p>
12	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	<p>【授業内容】 図表作成のポイントについて解説し、グラフや表の作成について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って図や表の適切な作成方法について学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、適切な図表作成方法について整理する。</p>

13	和気 鈴木 福室 伏山 中西	<p>【授業内容】 得られた結果から考察をどのようにまとめるについて解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って、得られた結果から考察をどのようにまとめるかや考察の基本的な構成について学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、得られた結果から考察へどのように展開・発展させるかについて整理する。</p>
14	和気 鈴木 福室 伏山 中西	<p>【授業内容】 研究発表の種類や方法について解説し、プレゼンテーションスキルについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って、学会等での発表や研究論文としてどのようにまとめるかについて学ぶ。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、発表の種類や方法について調べ、それぞれの違いについて整理する。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】身体機能学演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	宮本 直和			
科目担当者	宮本 直和、窪田 敦之			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツ科学や健康科学系学問分野の基礎知識となる「機能解剖学」で学んだ内容、特に運動器の構造と機能について、理解を深めることを目的とする。具体的には、解剖学アトラス・DVD・人体模型・MRI等の画像データなどを用いて、体幹・上肢・下肢の関節運動と骨格筋の働きについて学び、上肢では主に肩関節・肘関節・手関節の運動、下肢では股関節・膝関節・足関節を対象に学修する。また、機能解剖学に関する書籍や最新文献の抄読や討議を通して、更に理解を深める。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 運動器の構造や機能について十分に理解し、人体模型や解剖アプリを用いて説明できる。 2. MRIや超音波画像で得られた骨・筋・腱・靭帯の名称を正しく理解し、その部位・関節の構造や機能、形態について説明できる。 3. 多種多様な身体運動について、運動器の構造や機能に基づいて説明することができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 運動器の構造および機能を正しく理解し、その説明において人体模型や解剖アプリを活用できる（課題・授業内試験）。 2. MRIや超音波画像から、部位・関節の構造および機能、形態を説明できる（課題・授業内試験）。 3. 運動器の構造や機能を基に、多種多様な身体運動の仕組みを理解している（授業内試験）。 4. 授業中の発言、課題の取組状況によって授業態度を評価する（平常点）。</p> <p>【成績評価の方法】 課題（40%）、授業内試験（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題についてはコメントを付けて返却するか、授業内で解説する。 試験については、要望があれば個別に解説等行なう。</p> <p>【テキスト・参考書等】 課題テキストは配布するが、以下の図書についても用意することを強く薦める。 「身体運動の機能解剖、中村千秋ほか、医道の日本社」</p>			
連絡先とオフィスアワー				

宮本
【連絡先】
 E-mail : n-miyamoto@juntendo.ac.jp
【オフィスアワー】
 日時：授業直後および月～金曜日の昼休み
 場所：1号館5階1514室
 事前連絡・予約がなくとも対応するが、他の者との面談等と重複しないようにするため、事前にE-mailで予約を取ることを望ましい。

窪田
【連絡先】
 E-mail : akubota@juntendo.ac.jp
【オフィスアワー】
 日時：授業直後もしくは木曜日の14時～16時
 場所：スポーツ健康医科学研究所4階 スポーツ医学系実験室1-2
 なるべく事前にe-mail等で連絡するよう心がけてほしい。

備考

【学修時間】
 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

【その他】
 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
 JSP0 (日本スポーツ協会) AT (アスレチックトレーナー)

授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（ホー
1	宮本直 窪田	【授業内容】 ガイダンス 受講する際の注意点やスケジュール等を理解する。 【授業方法】 授業の進め方や注意点などを説明し、グループ分けを行なう。また、機能解剖学について復習する。	（予習：2時間） 機能解剖学で学習した内容を全体的に復習しておく。 （復習：2時間） 授業で行なった機能解剖学の復習と照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
2	宮本直 窪田	【授業内容】 上肢：肩甲帯・肩関節について理解を深める。 【授業方法】 肩甲帯・肩関節の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。	（予習：2時間） 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、肩甲帯・肩関節の構造や機能を復習しておく。 （復習：2時間） 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。
3	宮本直 窪田	【授業内容】 上肢：上腕部・肘関節について理解を深める。 【授業方法】 上腕部・肘関節の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。	（予習：2時間） 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、上腕部・肘関節の構造や機能を復習しておく。 （復習：2時間） 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。

4	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 上肢：前腕部・手関節・手部について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 前腕部・手関節・手部の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、前腕部・手関節・手部の構造や機能を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。</p>
5	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 体幹：頭頸部や胸部、背部について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 頭頸部や胸部・背部の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、頭頸部や胸部・背部の構造や機能を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。</p>
6	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 体幹：腹部・腰部について理解を深める</p> <p>【授業方法】 腹部・腰部の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、腹部・腰部の構造や機能を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。</p>
7	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 下肢：股関節について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 股関節の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、股関節の構造や機能を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。</p>
8	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 下肢：大腿部・膝関節について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 大腿部・膝関節の構造や神経支配、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、大腿部・膝関節の構造や機能を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。</p>
9	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 下肢：下腿部・足関節・足部について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 下腿部・足関節・足部の構造や神経、機能について解剖書やアプリ、模型を用いて学修し、その内容を発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等を見直し、下腿部・足関節・足部の構造や機能を復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り返り、不足している点や不明な点について改めて調べて、整理しておく。</p>

10	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 超音波を用いた運動器の撮像および評価を理解する。</p> <p>【授業方法】 超音波の仕組みや、運動器の撮像・評価について専門書や論文を抄読し、発表する。</p>	<p>(予習：3時間) 超音波を使用して運動器の評価を行なっている論文を調べ、その内容を整理しておく。</p> <p>(復習：2時間) 他者の発表や質疑応答等を通して、不足していた点や新たに気づいた点を整理しておく。</p>
11	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 超音波で得られた運動器の画像データへの理解を深める。</p> <p>【授業方法】 超音波画像を基に、その部位や関節の構造を解剖書やアプリを用いて調べ、発表する。またその部位や関節における超音波を用いた形態や機能の評価について最新の論文を抄読し、発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 各部位・関節の超音波画像を調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業で取り扱った超音波画像および論文等を見直し、不足・不明な点を調べて内容を整理しておく。</p>
12	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 MRIを用いた運動器の撮像および評価を理解する。</p> <p>【授業方法】 MRIの仕組みや、運動器の撮像・評価について専門書や論文を抄読し、発表する。</p>	<p>(予習：3時間) MRIを使用して運動器の評価を行なっている論文を調べ、その内容を整理しておく。</p> <p>(復習：2時間) 他者の発表や質疑応答等を通して、不足していた点や新たに気づいた点を整理しておく。</p>
13	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 MRIで得られた運動器の画像データへの理解を深める。</p> <p>【授業方法】 MRI画像を基に、その部位や関節の構造を解剖書やアプリを用いて調べ、発表する。またその部位や関節における超音波を用いた形態や機能の評価について最新の論文を抄読し、発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 各部位・関節のMRI画像を調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業で取り扱ったMRI画像および論文等を見直し、不足・不明な点を調べて内容を整理しておく。</p>
14	宮本直 窪田	<p>【授業内容】 スポーツ活動時の身体運動についての理解を深める。</p> <p>【授業方法】 これまでに学修した運動器の構造や機能等の知識を基に、スポーツ活動中の一つの身体運動を解説し、全員で討議する。その際に、解剖書やアプリ、模型等を活用する。</p>	<p>(予習：3時間) 興味のあるスポーツ活動時の身体運動を1つ選択し、それに関わる運動器について調べて整理しておく。</p> <p>(復習：3時間) 事前に調べた身体運動以外で、授業を通して気づいた点等を整理し、不明な点については調べておく。</p>
		定期試験は実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツ医科学研究法		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	高澤 祐治			
科目担当者	高澤祐治、深尾宏祐、鈴木宏哉、河村剛光、川田裕次郎、町田修一、柳谷登志雄、吉原利典、内藤久士、和氣秀文、福典之、山中航、吉原利典、鄧鵬宇、宮本恵里、西尾啓史			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。本授業では講義で学修したスポーツ医科学系の科目について研究方法を学んでいく。スポーツ医学、生理学、運動生理学、運動生化学、バイオメカニクス、測定評価、発育発達、スポーツ心理学の研究領域から選択し、それらの理論に関する実験データの取得とデータの解釈に関する考察、ディスカッションを通して研究方法を学修する。将来、スポーツ科学研究者やスポーツ科学スタッフのようにスポーツ科学研究の専門家となっていくために必要な基礎知識と高い思考力、考察力を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と強要、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、および「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. スポーツ動作あるいは身体運動に関する変数を、実験データとして正確に取得・記述することができる。 2. 各分野の講義で得た理論について、実験実習を通して、データを取得し、データを読み取ることができるようになる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 身体諸機能の運動に関わる特性を正確に記述することができる（レポート）。 2. 実験実習を通じて、講義で得た知識を説明することができる（レポート）。 3. 測定機器の使用に習熟し、身体諸機能の測定を行うことができる（レポート、平常点） 4. 取得したデータを科学的に処理し、それをもとに論理的な討論を行うことができる（レポート）</p> <p>【成績評価の方法】 課題レポート（60%）、平常点（30%）、筆記試験（10%）によって総合的に評価する。なお、実験実習や演習の進行上、無気力な行為やふさわしくないと判断される行為は減点の対照とします。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 この科目はスポーツ医科学コースの選択必修科目である。 スポーツ医科学基礎演習、スポーツ医科学総合実験実習、スポーツ医科学研究法 を履修すること。 本授業では、複数の分野から2分野を選択するため、受講生は選択する分野の講義を事前に履修して、基礎知識に関しては有してあること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは授業において返却する。返却されるレポートには個別に修正すべき点を明記するので、その内容に沿ってレポートの修正を求める。</p> <p>【テキスト・参考書等】 各分野を担当する教員により適宜指示する。</p>			
連絡先とオフィスアワー				

【連絡先】

福典之：nfuku [at]juntendo.ac.jp
 柳谷登志雄：tyanagi[at]juntendo.ac.jp
 高澤祐治：ytakaza [at]juntendo.ac.jp
 深尾宏祐：fukao777 [at]juntendo.ac.jp
 鈴木宏哉：ko-suzuki [at]juntendo.ac.jp
 河村剛光：ykoumura [at]juntendo.ac.jp
 和気秀文：hwaki [at]juntendo.ac.jp
 川田裕次郎：yuukawa [at]juntendo.ac.jp
 町田修一：machidas [at]juntendo.ac.jp
 吉原利典：t-yoshih[at]juntendo.ac.jp

【オフィスアワー】

福典之：月曜日昼休み・研究室
 柳谷登志雄：月曜日昼休み・研究室
 高澤祐治：月曜日昼休み・研究室
 深尾宏祐：月曜日昼休み・研究室
 鈴木宏哉：月曜日昼休み・研究室
 河村剛光：月曜日昼休み・研究室
 和気秀文：月曜日昼休み・研究室
 川田裕次郎：月曜日昼休み・研究室
 町田修一：月曜日昼休み・研究室

備考

【学修時間】

この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の系90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

【その他】

受講生は受講期間に10名の担当教員が担当する分野（10分野）から任意の2分野を自由選択して、それらを前半（第2回目から第7回目）と後半（第8回目から13回目）で受講する。なお、前半と後半で同じ分野を選択することは出来ないものとする。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	福 柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 ガイダンス：単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ医科学研究法の各分野に関する知識を深めることがスポーツ健康科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを理解させ、今後の分野選択に対する予備知識と動機づけを行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義形式で行う。</p>	<p>（復習：2時間） 配布資料を熟読しておく。 履修登録が確実にされているか再確認しておく</p>

2	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 選択した1つ目の分野に関する実験・演習課題に関する説明を行う。 実験・演習によりデータを取得する。 その内容は選択した分野により異なる。</p> <p>【授業方法】 教員により測定機器やプログラムを用いて実験・演習の説明をしたのち、受講生により実際に受講生同士を被験者としてデータ収集を行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>前回の授業で配布された資料を熟読し、授業での説明に用いられる専門用語について知る。知らない用語については自ら調べ、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：2時間) 実験演習により取得したデータを確認・整理する。</p>
3	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 前回行った実験・演習によるデータを取得の続きを行いサンプル数を増やす。</p> <p>【授業方法】 測定機器やプログラムを用いて、実際にデータ収集の続きを行う。</p>	<p>(予習：2時間) 前回取得した実験データの確認をする。 関連した内容を説明した書籍や論文を探して眼を通してくる。</p> <p>(復習：2時間) 取得したデータの整理と確認を行う。</p>
4	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 前回授業で行った実験・演習のデータを解析するための理論および方法の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて説明する。受講生は各自のパソコンを用いて、説明に従いデータ処理の手順を学び、データを処理する。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>データ解析のために必要なアプリケーションのインストールなど、パソコンの環境整備、基礎的な使用方法の学習をしてくる。</p> <p>復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理の続きを行う。</p>
5	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 より高度なデータ処理方法を学ぶ。 処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>実験データの確認を行う。 関連した内容についての文献(資料、論文および書籍)に読解してくる。</p> <p>(復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理の続きを行う。 プレゼンテーション用スライドを作成する</p>
6	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 より高度なデータ処理方法を学ぶ。 処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。</p>	<p>予習：2時間)</p> <p>実験データの確認を行う。 関連した内容についての文献(資料、論文および書籍)に読解してくる。</p> <p>(復習：2時間) プレゼンテーション用スライドを作成する</p>

7	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 各受講生が、実験データをもとにプレゼンテーションを行い、受講生同士による質疑応答を行う。</p> <p>【授業方法】 演習形式で行う。各プレゼンテーションのあとに、担当教員からコメントやアドバイスなどをする。</p>	<p>(予習：2時間) プレゼンテーション用スライドを作成する</p> <p>(復習：2時間) プレゼンテーションをもとにレポートを作成する。</p>
8	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 選択した2つ目の分野に関する実験・演習課題に関する説明を行う。 実験・演習によりデータを取得する。 その内容は選択した分野により異なる。</p> <p>【授業方法】 教員により測定機器やプログラムを用いて実験・演習の説明をしたのち、受講生により実際に受講生同士を被験者としてデータ収集を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 前回の授業で配布された資料を熟読し、授業での説明に用いられる専門用語について知る。知らない用語については自ら調べ、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：2時間) 実験演習により取得したデータを確認・整理する。</p>
9	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 前回行った実験・演習によるデータを取得の続きを行いサンプル数を増やす。</p> <p>【授業方法】 測定機器やプログラムを用いて、実際にデータ収集の続きを行う。</p>	<p>(予習：2時間) 前回取得した実験データの確認をする。 関連した内容を説明した書籍や論文を探して眼を通してくる。</p> <p>(復習：2時間) 取得したデータの整理と確認を行う。</p>
10	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 前回授業で行った実験・演習のデータを解析するための理論および方法の説明を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて説明する。受講生は各自のパソコンを用いて、説明に従いデータ処理の手順を学び、データを処理する。</p>	<p>(予習：2時間) データ解析のために必要なアプリケーションのインストールなど、パソコンの環境整備、基礎的な使用方法の学習をしてくる。</p> <p>復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。</p>
11	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 より高度なデータ処理方法を学ぶ。 処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 実験データの確認を行う。 関連した内容についての文献(資料、論文および書籍)に読解してくる。</p> <p>(復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。 プレゼンテーション用スライドを作成する</p>

12	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 より高度なデータ処理方法を学ぶ。 処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>実験データの確認を行う。 関連した内容についての文献(資料、論文および書籍)に読解してくる。 (復習：2時間) プレゼンテーション用スライドを作成する</p>
13	河村	<p>【授業内容】 実習X 測定評価 累加測定、日常的なデータ収集、統計処理</p> <p>【授業方法】 代表的な体力テストバッテリーとして累加測定について学ぶ。特に得られたデータを用いた分析や統計処理を専門的に学び、将来に向けて日常的なデータ収集と活用の実現について議論を行うなど理解を深める。</p>	<p>(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容やスポーツにおける測定と評価について学んだことを確認し、疑問点を調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 取り組んだ内容について整理し、課題についてレポートにまとめる。</p>
14	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	<p>【授業内容】 各分野を専攻する教員あるいは大学院生1名ずつにより、研究内容を紹介したプレゼンテーションを行ってもらい、質疑応答を行う。また、担当教員が、その内容の補足説明や講評を行う。</p> <p>【授業方法】 講義形式により行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>前回のプレゼンテーションをもとに作成したレポートを仕上げる (復習：2時間) 学習した内容についてレポートを作成する。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ教育学演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	荻原 朋子			
科目担当者	長登健、荻原朋子			
授業概要	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。体育とスポーツの違い、体育やスポーツが持つ可能性、スポーツと教育の関係論などの広い視点から考察を深めていく。特に、現代スポーツにおける諸問題（スポーツの持つ教育的可能性、運動部活動の在り方、学校体育の意義、体罰問題等）を題材に考察を行い、それらをグループで討論し、それをまとめて発表することで、スポーツ教育学の理解を深めることを目標とする。</p> <p>[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>[授業の到達目標] 1. 現代スポーツにおける諸問題について理解をより深めることができる。 2. 現代スポーツにおける諸問題の解決策などを具体的に挙げるができる。 3. 現代スポーツにおける諸問題の解決策について論じることができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 現代スポーツにおける諸問題について理解できているか、課題提出で評価する。 2. 現代スポーツにおける諸問題の解決策などを具体的に挙げ、グループで討議ができているか、課題提出で評価する。 3. 現代スポーツにおける諸問題の解決策についてグループで考えたことを発表し、理解を深めることができているかレポートの提出で評価する。</p> <p>【成績評価の方法】 授業態度や取り組む姿勢等50%、課題提出50%にて評価する。 なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上不適切であると判断した場合には減点の対象とするので注意すること。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントについて解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 適宜、配布資料として配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 長登 Email: ttagato@juntendo.ac.jp 荻原 Email: togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 長登：火曜日 12:50～14:30 1号館5階1519号室 荻原：木曜日 11:00～13:00 1号館5階1517号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義・演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>[実務経験のある教員による授業] この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。</p> <p>【その他】</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	長登 萩原	<p>【授業内容】 スポーツ基本法、スポーツ基本計画</p> <p>【授業方法】 スポーツ基本法、スポーツ基本計画を読み解き、その理解を深めるとともに、体育・スポーツを巡る諸課題を抽出する。</p>	<p>（予習：1時間） スポーツ基本法について調べておく。</p> <p>（復習：3時間） 体育・スポーツを巡る課題について、自身の課題と関連させながらまとめる。</p>
2	長登 萩原	<p>【授業内容】 インクルーシブ体育</p> <p>【授業方法】 ゲストティーチャー（特別支援教育）による事例解説を踏まえ、「アダプテッドスポーツ」の意義や活用方法について理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 学校におけるインクルーシブ体育について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 学校におけるインクルーシブ体育について要点をまとめる。</p>
3	長登 萩原	<p>【授業内容】 子どものスポーツ機会の充実</p> <p>【授業方法】 子どもの体力の現状と課題についてゲストティーチャー（運動生理学）による事例解説を踏まえ理解を深めた上で、グループ討議を行う。</p>	<p>（予習：2時間） 子どものスポーツ、運動の機会についてどのような事柄があるのか、調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 子どもの体力の現状について、要点をまとめる。</p>
4	長登 萩原	<p>【授業内容】 子どもの体力向上</p> <p>【授業方法】 体力測定の意義と活用方法についてゲストティーチャー（測定評価）による事例解説を踏まえ理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 子どもの体力の現状について、全国体力・運動能力、運動習慣等調査について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 体力測定の意義と活用方法について、要点をまとめる。</p>
5	長登 萩原	<p>【授業内容】 子どもの体力向上</p> <p>【授業方法】 子どもの体力向上について、学校現場での実践事例をもとに、学校体育の充実の観点から理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 学校における体力向上の取り組みについて調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 学校における体力向上の取り組みかたの工夫を考えて、要点をまとめる。</p>
6	長登 萩原	<p>【授業内容】 運動部活動</p> <p>【授業方法】 運動部活動の現状と課題について、データや資料を持ち寄り、課題に関する理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） これまでの運動部活動の歴史と変遷について概要を調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 運動部活動における諸問題について、自身が体験した課題と関連させながらまとめる。</p>

7	長登 萩原	<p>【授業内容】 運動部活動</p> <p>【授業方法】 運動部活動の指導について、ゲストティーチャー（コーチング）によるコーチング科学の観点からの事例解説を踏まえ理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 運動部活動における指導者のあり方について、先行研究を調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 運動部活動における指導者について、コーチングの観点から要点をまとめる。</p>
8	長登 萩原	<p>【授業内容】 運動部活動</p> <p>【授業方法】 運動部活動の運営について、ゲストティーチャー（スポーツマネジメント）による経営学の観点からの事例解説を踏まえ理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 運動部活動の生徒と指導者の運営方法について、調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 運動部活動の運営について、要点をまとめる。</p>
9	長登 萩原	<p>【授業内容】 スポーツを通じた地域活性化</p> <p>【授業方法】 ゲストティーチャー（スポーツ社会学）によるライフステージに応じたスポーツ活動の推進や地域のスポーツ環境の整備の事例解説を踏まえ、実践に向けての方策についてグループ討議を行う。</p>	<p>（予習：2時間） ライフステージに応じたスポーツ活動のあり方や指導方法について、調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 地域スポーツの振興のあり方やライフステージに応じた指導方法等について、要点をまとめる。</p>
10	長登 萩原	<p>【授業内容】 スポーツを通じた地域活性化</p> <p>【授業方法】 地域住民が主体となって運営する総合型地域スポーツクラブの活動事例や、ゲストティーチャーによる中高年の健康づくりやフレイル対策の事例解説をもとに、現在の地域社会や地域スポーツが抱える課題について理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 総合型地域スポーツクラブについて、調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 地域スポーツの振興のあり方やライフステージに応じた指導方法等について、要点をまとめる。</p>
11	長登 萩原	<p>【授業内容】 保健体育科教師論と教師教育研究</p> <p>【授業方法】 保健体育教師の現場の状況や教育の抱える課題を知り、求められる教師像を総合的に理解する。</p>	<p>（予習：3時間） 保健体育教師の職務について、調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 保健体育教師の職務や現場で生じる問題等に対してどう関わっていくか、自分なりの考えをまとめる。</p>
12	長登 萩原	<p>【授業内容】 体育の学習指導論</p> <p>【授業方法】 体育授業における指導スタイルと学習指導モデルについて、実践例を踏まえながら理解する。</p>	<p>（予習：3時間） 体育授業における指導スタイルや学習指導モデルについて理解を深める。</p> <p>（復習：2時間） 体育授業における学習指導モデルを用いた授業計画を構想する。</p>
13	長登 萩原	<p>【授業内容】 優れた体育授業実践から学ぶ</p> <p>【授業方法】 優れた体育授業のVTRを視聴し、グループで効果的な指導のポイントや効果的な教材・教具についてまとめ、発表する。</p>	<p>（予習：3時間） これまで授業で行った模擬授業を振り返り自身の課題について考察する。</p> <p>（復習：2時間） 自身の課題と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。</p>

14	長登 萩原	<p>【授業内容】 「スポーツの価値」について考える</p> <p>【授業方法】 学校体育を中心として、広く教育事象としてのスポーツの価値について発表し、ディベートを行うとともに、全員で相互評価を行う。</p>	<p>(予習：3時間) これまでの授業内容をまとめ、自身のスポーツの価値について考えをまとめておく。</p> <p>(復習：2時間) 学校教育、競技スポーツなど様々な場面におけるスポーツの価値について、意見を出し合い、議論を深めた結果についてまとめる。</p>
		定期試験は実施しない。	

授業科目名	【新カリ】保健体育科教育法		授業形態	講義、複数・オムニバス
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	長登 健			
科目担当者	長登 健 長岡 知 荻原 朋子			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>この授業では、中学校、高等学校での保健体育の授業を進めるに当たって、保健体育科教員が身に付けていなければならない基本的な指導法の習得を目指す授業である。そのため、本講義では体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、ダンス、体育理論、保健のすべての領域において、運動が苦手な生徒への指導や、補助の仕方など、効果的な学習指導における授業展開について実践的に学ぶ。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域の学習指導に必要な知識と技能を習得し、指導できるようにする。 2. 保健体育科において取り上げる運動や保健領域について、実際の指導法の授業を通して、教材化することができる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. より良い保健体育の授業を実現するための実践的な能力が身に付いているか、毎時の課題提出で評価する。（平常点） 2. 指導法の理解度や教材化の視点ができているか等について、ふり返しシート等の提出物で評価する。（レポート） <p>【成績評価の方法】</p> <p>授業に取り組む姿勢等50%、課題レポート50%にて評価する。なお、授業に取り組む姿勢が授業進行上、不適切であると判断した場合には、減点の対象とするので注意すること。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>本授業は、保健体育科教育法、 、 の授業を履修した学生のみ受講できる。教員を志している学生により多くの模擬授業の機会を与え、実践できる場を提供したい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>保健、体育授業についての情報収集を積極的に行うこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 2. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 3. 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 5. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（教育課程研究センター） 6. 保健科教育法入門（日本保健科教育学会編 大修館書店） 7. 中学、高校時代に使用した「保健体育」教科書（各自準備） 8. 新版体育科教育入門（高橋健夫・岡出美則ほか編著、大修館書店） <p>1～4は教科書として使用するので必ず用意すること。5～8は参考書であり、指導案の作成等に参考になる。その他、適宜、資料を配布する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 長登：Email: tnagato@juntendo.ac.jp 長岡：Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp 荻原 Email: togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 長登：火曜日 12:50～14:30 1号館5階1519号室 長岡：火曜日 12:50～14:30 1号館4階1416号室 荻原：木曜日 11:00～13:00 1号館5階1517号室</p> <p>上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>																			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>[実務経験のある教員による授業] この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p>																			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>担当</th> <th>授業内容（授業方法を含む）</th> <th>準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>長岡</td> <td> 【授業内容】 テーマ：ガイダンス 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について理解する。 【授業方法】 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について解説する。 </td> <td> （予習：1時間） 保健体育科教育法、 での講義内容を復習しておく。 （復習：3時間） 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>長登 荻原</td> <td> 【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技） 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール） 【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。 </td> <td> （予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。 </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>長登 荻原</td> <td> 【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技） 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール） 【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。 </td> <td> （予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。 </td> </tr> </tbody> </table>				授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）	1	長岡	【授業内容】 テーマ：ガイダンス 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について理解する。 【授業方法】 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について解説する。	（予習：1時間） 保健体育科教育法、 での講義内容を復習しておく。 （復習：3時間） 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。	2	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技） 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール） 【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。	3	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技） 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール） 【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）																
1	長岡	【授業内容】 テーマ：ガイダンス 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について理解する。 【授業方法】 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について解説する。	（予習：1時間） 保健体育科教育法、 での講義内容を復習しておく。 （復習：3時間） 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。																
2	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技） 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール） 【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。																
3	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技） 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール） 【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。																

4	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技） グループで作成した教材を実際に実践する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）</p> <p>【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。</p>	<p>（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。</p> <p>（復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。</p>
5	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）</p> <p>各運動領域の特性や指導方法を理解する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）</p> <p>【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。</p>	<p>（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。</p>
6	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技） 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）</p> <p>【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。</p>	<p>（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。</p> <p>（復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。</p>
7	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技） グループで作成した教材を実際に実践する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）</p> <p>【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。</p>	<p>（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。</p> <p>（復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。</p>
8	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）</p> <p>各運動領域の特性や指導方法を理解する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）</p> <p>【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。</p>	<p>（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。</p>

9	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技） 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）</p> <p>【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。</p>	<p>（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。</p> <p>（復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。</p>
10	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技） グループで作成した教材を実際に行う。実践する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）</p> <p>【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。</p>	<p>（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。</p> <p>（復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。</p>
11	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：保健の指導法 保健領域の特性や指導方法を理解する。（健康な生活と疾病の予防1、2、傷害の防止、健康と環境）</p> <p>【授業方法】 各領域の指導法を提示し、実際にプリントやスライドで講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各領域の内容について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 各領域の特性や指導方法についてまとめる。</p>
12	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：保健の教材づくり 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（健康な生活と疾病の予防1、2、傷害の防止、健康と環境）</p> <p>【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。</p>	<p>（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。</p> <p>（復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。</p>
13	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：保健の教材提案 グループで作成した教材を実際に行う。実践する。（健康な生活と疾病の予防1、2、傷害の防止、健康と環境）</p> <p>【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。</p>	<p>（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。</p> <p>（復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。</p>
14	長登 萩原	<p>【授業内容】 テーマ：教材づくりのまとめ 各教材づくりグループワークで学んだことをふり返り、各自の課題や改善点を見出す。</p> <p>【授業方法】 これまでのふり返りシートを見ながら、自分の課題や改善点についてまとめ、発表する。</p>	<p>（復習：2時間） 1単位時間の学習指導案（略案）について再度、検討し修正を加える。</p> <p>（予習：2時間） 模擬授業の実施に向けて、教師役と細案を作成し、授業展開について確認しておく。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】教職実践演習(中・高)		授業形態	演習・クラス分け・複数
英語科目名			開講学期	半期(後期)
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	長登 健			
科目担当者	長登 健 牛尾直行 中嶽 誠 荻原朋子 尾高邦生			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>この授業では、教育実習のふり返り等のグループ討議を中心として、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質、入学の段階からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認する。「履修カルテ」をもとに、入学の段階からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握した上で、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等や教科の指導力について確認する。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を再確認し、教員としての義務や責任を自覚できる。 2. 教員としての職責や義務等の自覚に基づき、目的や状況等に応じた適切な行動をとることができる。 3. これまで教育課程個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能が確実なものとなり、それが教員として実践できる力となる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての使命感や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか。(レポート、平常点) 2. 教員としての義務や責任を自覚し、4年間の履修により習得した専門的な知識・技能をもとに教員として実践することができるようになったか。(レポート、平常点) 3. これまで教育課程個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能が確実なものとなり、それが教員として実践できる力となっているか。(レポート、平常点) <p>【成績評価の方法】</p> <p>授業態度や取り組む姿勢等(40%)、課題レポート(60%)を総合的に評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>保健体育科教諭免許取得に係るすべての科目を履修した後で受講すること。</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示しながら解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>授業中に、適宜、資料を配布する。</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月 文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 総則編(平成30年7月 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編(平成30年7月 文部科学省)</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>長登：Email：tnagato@juntendo.ac.jp</p> <p>荻原：Email：togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>長登：月曜日 11：00～13：00 1号館5階1519号室</p> <p>荻原：月曜日 11：00～13：00 1号館5階1517号室</p> <p>上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメール等でアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>				
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義・演習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>[実務経験のある教員による授業] この科目は、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かして、科目責任者を担当し、教員として最低限必要な資質能力を確認するための指導を行います。</p> <p>【その他】 履修履歴の把握： 学校現場の意見聴取： 受講者数：15～20人（10クラスで実施）</p> <p>中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教育実践に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教職実践演習</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（時）
1	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 ガイダンスとこれまでの学習の振り返り</p> <p>【授業方法】 履修カルテをもとに各自で確認、整理するとともに、教育実習における各自の課題についてグループ討議を行う。</p>	<p>（復習：3時間） 各自で作成した履修カルテを確認し、不足している点についてまとめる。</p>
2	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 保健体育科教員の使命と責任（講話）</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。今日の学校教育における保健体育の重要性、及びそれを担う教員の意義や役割について、再確認する。</p>	<p>（予習：3時間） 保健体育科教員の役割と使命について、情報収集してまとめる。</p> <p>（復習：2時間） 今日の学教育における 体育の重要性、及びそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。</p>
3	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）</p> <p>【授業方法】 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（授業VTR視聴とディスカッション）@グループワーク</p>	<p>（予習：2時間） 教育実習の授業研究で指摘された事柄を整理する。</p> <p>（復習：2時間） 中学体育（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。</p>
4	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）</p> <p>【授業方法】 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（授業VTRの視聴とディスカッション）@グループワーク</p>	<p>（予習：2時間） 教育実習の授業研究で指摘された事柄を整理する。</p> <p>（復習：2時間） 高等学校体育（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。</p>
5	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）</p> <p>【授業方法】 中学校保健体育科（保健分野）及び高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（授業VTRの視聴とディスカッション）@グループワーク</p>	<p>（予習：2時間） 教育実習の授業研究で指摘された事柄を整理する。</p> <p>（復習：2時間） 中学保健体育科（保健分野）及び高等学保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。</p>

6	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 保健体育科教員に求められる教科の指導力 【授業方法】 第3,4回において指摘された場面の指導方法の代替案シナリオを作成・発表する@グループワーク	(予習:3時間) 指摘された場面の指導方法や代替案シナリオを考える。 (復習:2時間) 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。
7	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 保健体育科教員に求められる教科の指導力 【授業方法】 第5回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成,発表する.@グループワーク	(予習:3時間) 指摘された場面の指導方法や代替案シナリオを考える。 (復習:2時間) 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。
8	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 教科外における生徒指導について 【授業方法】 児童・生徒理解にもとづく学級経営・学級集団づくりについての留意点や手法について、ケーススタディーを通じて、討論を行う。	(予習:2時間) 教育実習中に生じた学級経営などでの問題点を整理する。 (復習:2時間) 児童・生徒理解に基づく学級経営や学習集団づくりについて学んだことを整理する。
9	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 教科外における生徒指導について 【授業方法】 人間関係構築力や児童・生徒指導力が求められる場面で、的確に行動できる力を身につけるためケーススタディーを通じて、討論を行う。	(予習:2時間) 教育実習中に生じた生徒指導などでの問題点を整理する。 (復習:2時間) 人間関係構築力や児童・生徒指導力について学んだことを整理する。
10	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 特別活動・部活動から学んだこと 【授業方法】 教育実習において経験した特別活動や部活動指導を通して感じたこと等を、事例を用いながらグループ討論を行う。	(予習:2時間) 教育実習中に生じた特別活動、部活動での問題点を整理する。 (復習:2時間) 教育実習において経験した特別活動や部活動指導を通して感じたことを整理する。
11	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 特別支援教育に関する理解と実践 【授業方法】 特別支援学校の現職教諭を招き、現場での課題や保健体育科教員に求める役割について講演していただく。	(予習:2時間) 教育実習中に生じた特別支援が必要な生徒への対応の問題点を整理する。 (復習:2時間) 特別支援学校の現職教諭を招き、現場での課題や保健体育科教員に求める役割について整理する。
12	長登 牛尾 中嶽 萩原 尾高	【授業内容】 教員の服務と研修,教師としてのライフサイクル 【授業方法】 現職教員を招き,教員の服務と研修について理解を深め,ライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについて準備する.	(予習:3時間) 教員の服務と研修について,調べておく。 (復習:2時間) 教員の服務と研修,教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。

13	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 学校における安全防災教育について</p> <p>【授業方法】 学校における危機管理も含めた安全防災教育の今日的課題を講演していただき、理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) 学校における安全対策について、調べておく。</p> <p>(復習：2時間) 学校における危機管理も含めた安全防災教育の今日的課題について理解を深める。</p>
14	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	<p>【授業内容】 各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価</p> <p>【授業方法】 これまでの発表や討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を行い、それを相互に発表し合い、討論を行う。</p>	<p>(予習：2時間) これまで学習した内容について、整理しまとめておく。</p> <p>(復習：2時間) これまで行なったグループワークにおいて学んだことを整理し、教員としての資質能力(実技・知識・教職の適性)について理解を深める。</p>
		定期試験は実施しない。	

授業科目名	【新カリ】教材開発論演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	長登 健			
科目担当者	長登健、荻原朋子、長岡知			
授業概要	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。中学校、高等学校での保健体育科の授業における教材研究の意義と方法について学ぶ。教材づくりの基本的視点を理解したのち、学習指導要領に示されている各運動領域や、保健領域の指導内容を確認し、教材への理解を深める。典型教材のメリット・デメリットを踏まえ、グループで協議しながらより良い教材の創出できる力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス形式/全14回) (10 長登 健, 36 荻原朋子/11回)(共同) 保健体育科における教材開発の重要性について理解する。そして、体育の教材に係る先行研究を調査し、各運動領域の教材開発に取り組み、その教材を用いた模擬授業を実施する。 (44 長岡 知/3回) 保健の教材に係る先行研究を調査し、各運動領域の教材開発に取り組み、その教材を用いた模擬授業を実施する。</p> <p>[授業の位置づけ(学位授与方針に定められた知識・能力等との関連)] この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>[授業の到達目標] 1. 保健、体育授業の学習指導方略について理解をより深めることができる。 2. 保健、体育授業の教材づくりの視点を持って学習指導案の作成ができる。 3. これまでの保健、体育の教材について理解し、より良い保健、体育授業の創出のための教材を開発することができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 保健、体育授業の学習指導方略について理解できているか、課題提出で評価する。 2. 模擬授業のための単元計画と指導案作成ができているか、課題提出で評価する。 3. 学習場面における具体的な方法を検討し、実践につなげることができたか、模擬授業後のリフレクションシートの提出で評価する。</p> <p>【成績評価の方法】 授業態度や取り組む姿勢等50%、課題提出50%にて評価する。 なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上不適切であると判断した場合に、減点の対象とするので注意すること。</p>			
履修における留意事項				

<p>【履修要件】 教員を志している学生により多くの模擬授業の機会を与え、実践できる場を提供したい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントについて解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 1. 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（保健体育編）（文部科学省） 2. 高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）（文部科学省） 3. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（教育課程研究センター） 4. 保健科教育法入門（日本保健科教育学会編 大修館書店） 5. 中学、高校時代に使用した「保健体育」教科書（各自準備） 6. 新版体育科教育入門（高橋健夫・岡出美則ほか編著、大修館書店） 1と2は教科書として使用するので必ず用意すること。 3、4、5、6は参考書であり、指導案の作成等に参考になる。 その他、適宜、資料を配布する。</p>			
<p>連絡先とオフィスアワー</p> <p>【連絡先】 長登 Email: tnagato@juntendo.ac.jp 長岡 Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp 荻原 Email: togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 長登： 火曜日 12:50～14:30 1号館5階1519号室 長岡： 火曜日 12:50～14:30 1号館4階1416号室 荻原： 木曜日 11:00～13:00 1号館5階1517号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義・演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	荻原 長登	<p>【授業内容】 保健体育科における教材開発の重要性について</p> <p>【授業方法】 本講義の進め方の確認とグループ編成、教材づくりで扱う種目決め</p>	<p>（予習：1時間） 保健体育科教育法、での講義内容を復習しておく。</p> <p>（復習：3時間） 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。</p>
2	荻原 長登	<p>【授業内容】 体育の教材・教具の実際（実践例）</p> <p>【授業方法】 体育館で球技の教材を体験しながら、教材の工夫について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 体育の（球技の）教材について、先行研究を調べる。</p> <p>（復習：2時間） 体験した球技の教材についてルールや行い方をまとめる。</p>

3	荻原 長登	【授業内容】 体育の教材づくりの基本的視点 【授業方法】 体育の教材づくりの内容的視点、方法的視点について学習する。	(予習：2時間) 体育の教材づくりの基本的視点について、保健体育科教育法 で取り扱った内容を復習しておく。 (復習：2時間) 自身で考えた体育の教材をノートにまとめる。
4	荻原 長登	【授業内容】 グループでの教材づくり 【授業方法】 先行研究を調査し、担当する領域の先行教材を検討し、グループで担当する領域(種目)の教材を開発する。	(予習：3時間) グループで指定された教材に関する先行研究を調査する。 (復習：2時間) グループで考えた教材について理解を深める。
5	荻原 長登	【授業内容】 グループでの教材づくり 【授業方法】 教材の発表に向けて、指導案やシナリオを作成する。	(予習：3時間) グループで指定された教材に関する先行研究を調査する。 (復習：2時間) グループで考えた教材について理解を深める。
6	荻原 長登	【授業内容】 教材の発表 (器械運動) 【授業方法】 器械運動(マット運動、跳び箱運動)の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いてふり返しを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。
7	荻原 長登	【授業内容】 教材の発表 (陸上競技) 【授業方法】 陸上競技(リレー、ハードル走)の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いてふり返しを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。
8	荻原 長登	【授業内容】 教材の発表 (球技・ゴール型) 【授業方法】 球技・ゴール型(バスケ、サッカー、ハンドボール)の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いてふり返しを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。
9	荻原 長登	【授業内容】 教材の発表 (球技・ネット型) 【授業方法】 球技・ネット型(バレー、バドミントン)の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いてふり返しを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。

10	荻原 長登	<p>【授業内容】 教材の発表（球技・ベースボール型）</p> <p>【授業方法】 球技・ベースボール型（ソフトボール、Tボール）の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いてふり返りを行う。</p>	<p>（予習：2時間） 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。</p> <p>（復習：2時間） 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふり返り、リフレクションシートに記入する。</p>
11	荻原 長登	<p>【授業内容】 教材発表、模擬授業のふり返り</p> <p>【授業方法】 模擬授業を実施したグループごとに、授業評価、組織的観察法の結果をもとにふり返る。その結果を、模造紙にまとめ発表する。</p>	<p>（予習：3時間） これまで実施された体育の教材についてふり返り、対象者に合った教材のあり方について検討する。</p> <p>（復習：2時間） これまでに提案された教材について、改善点をまとめる。</p>
12	長岡	<p>【授業内容】 保健（科）の教材づくりの基本的視点</p> <p>【授業方法】 保健の教材づくりの内容的視点、方法的視点について学習する。</p>	<p>（予習：3時間） 保健の教材づくりの基本的視点について、保健体育科教育法で取り扱った内容を復習しておく。</p> <p>（復習：2時間） 自身で考えた保健の教材をノートにまとめる。</p>
13	長岡	<p>【授業内容】 グループでの教材づくり</p> <p>【授業方法】 先行研究を調査し、担当する領域の先行教材を検討し、グループで担当する領域の教材を考案し、指導案とシナリオを作成する。</p>	<p>（予習：3時間） グループで指定された教材に関する先行研究を調査する。</p> <p>（復習：2時間） グループで考えた教材について理解を深める。</p>
14	長岡	<p>【授業内容】 教材の発表とふり返り</p> <p>【授業方法】 教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価を用いてふり返りを行う。</p>	<p>（予習：2時間） 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。</p> <p>（復習：2時間） 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふり返り、リフレクションシートに記入する。</p>
		定期試験は実施しない。	

授業科目名	【新カリ】学校体育経営管理学		授業形態	講義・単独
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	長岡 知			
科目担当者	長岡 知			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本授業は、中学校・高等学校における教科「保健体育」を中核に、学校全体の体育・スポーツ振興を企画・運営・実践できる力量の形成を図ることをねらいとする。 本授業では、学校体育における経営管理の考え方を理解し、学校全体における体育・スポーツの推進についての理解を深める。講義を通して保健体育科教員に必要な知識や実践的指導力を身に付けることができるよう、本授業では学習指導要領をはじめとする体育・スポーツ経営学の基礎的な知識や教養を講義にて学び、得られた知識・技能をもとに、学校体育経営に必要な応用力、表現力を身に付けることを目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1．学校体育経営についての基礎的な知識、考え方を理解できる。 2．生徒の実態に即して体育事業をどのように進めたらよいかを学校現場の事例に学び、説明することができる。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 1．学習指導要領総則に示されている目標や内容等を理解し、学校体育経営に関する基本的な考え方と進め方について理解できているか、毎時の課題提出で評価する。（平常点） 2．学校現場の事例から、実践的な企画・運営・実践について具体的に理解できているか、適宜、課題レポートの提出で評価する。（レポート） 3．ディベート、ディスカッション等のグループワークに主体的・対話的に参加しているか、授業中の発言やワークシート、予習・復習の取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）</p> <p>【成績評価の方法】 授業態度や取り組む姿勢等50%、課題提出15%、グループワークへの積極的参加20%、まとめ課題レポート15%にて評価する。なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上、不適切であると判断した場合には、減点の対象とするので注意すること。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 将来、教員になるに相応しい態度、姿勢で積極的に授業、予習・復習に取り組むこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により変更することがある。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業にて返却し、評価のポイントを提示しながら解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 1．中学校学習指導要領（平成29年7月 文部科学省） 2．中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 3．高等学校学習指導要領（平成30年7月 文部科学省） 4．高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 5．学校体育経営管理学講義 宇土正彦 著 大修館書店 1981年11月1日 6．体育・スポーツ経営学講義 八代勉・中村平 編著 大修館書店 2002年4月1日 7．学校体育経営ハンドブック 宇土正彦 編著 大修館書店 1994年11月1日 5.6.7は参考書であり、1～4は保健体育教員にとって必須となる。その他、適宜、資料を配布する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】 担当：長岡 知 E-mail：tm-nagaoka@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 長岡：水曜日12：50～14：30 1号館4階1416号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>				

備考			
<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>[実務経験のある教員による授業] 高等学校において保健体育教員として教科体育及び学校全体の体育活動の運営業務にあっていた経験を生かし、学校現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	長岡	<p>【授業内容】（ガイダンス） ・授業のねらい、到達目標について理解し、見通しを持つ。</p> <p>（授業方法） ・授業目的及び概要、評価方法等について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） ・学校での体育・スポーツについて自分にとって記憶に残る部活動、行事について振り返り、自分なりの課題を見だし、受講の心構えを確認する。</p> <p>（復習：3時間） ・学校体育経営の意義を踏まえ、今後の学習の見通しを立て、学習内容について概観し、整理する。</p>
2	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：経営学的視点とその意義 ・学校体育の現状を把握し、経営学的視点の意義について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 グループ・ディスカッションを通じて、経営学的視点の意義について意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・学校体育の現状、子供の体力・健康課題について、情報、資料を収集する。</p> <p>（復習：1時間） ・学校体育における経営学的視点の意義と役割、その重要性についてまとめる</p>
3	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：体育・スポーツ経営管理の概念とその構造 ・学校体育経営管理の概念と構造について概説し、理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ・グループ・ディスカッションを通じて、学校体育の組織や在り方について意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・学校体育の経営管理について、学校現場の組織構造等について資料、情報を収集し、現状について調べる。</p> <p>（復習：1時間） ・学校体育の組織や在り方について自分なりの考えを整理する。</p>
4	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：運動・スポーツ実践者の生活・行動 ・運動・スポーツ実践者（児童・生徒）の生活・行動について解説し理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ・グループワークを通して各学校種の児童・生徒の体力の現状、運動習慣等について、参考資料を調べ、理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・各校種の児童・生徒の体力の現状、運動習慣等の情報を収集し、現状について調べる。</p> <p>（復習：1時間） ・各校種の児童・生徒の体力の現状、運動習慣等の現状を踏まえ、経営学的視点から改善策を整理する。</p>

5	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：体育・スポーツ事業の進め方（エリア・サービス） ・エリア・サービスの考え方とその実際について解説し理解を深める。 【授業方法】 ・グループ・ディスカッションを通じて、学校体育や地域スポーツ振興について、エリア・サービスの視点から現状、課題について意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・学校体育・地域スポーツ振興について、現場の体育・スポーツ事業の取組みについて調べておく。 （復習：1時間） 学校体育や地域スポーツ振興について、エリア・サービスの視点から現状、課題を踏まえ、経営学的視点から改善策を整理する。</p>
6	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：体育・スポーツ事業の進め方（プログラム・サービス） ・プログラム・サービスの考え方とその実際について、体育授業、業間体育等について解説し理解を深める。 【授業方法】 ・グループ・ディスカッションを通じて、学校体育（体育授業、業間体育等）についての意義やねらいについて意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・学校体育・地域スポーツ振興について、現場の体育・スポーツ事業の取組みについて調べておく。 （復習：1時間） ・学校体育をより効果的に実践するために必要なプログラム・サービスの考え方について整理し、具体的な実践例を調べておく。</p>
7	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：体育・スポーツ事業の進め方（クラブ・サービス） ・クラブ・サービスの考え方とその実際について、民間スポーツクラブ・総合型地域スポーツクラブ、運動部活動等について解説し理解を深める。 【授業方法】 ・グループ・ディスカッションを通じて、クラブ・サービス現状や特性を調べ、意義やねらいについて意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・各校種の学習指導要領解説を読み、部活動の位置づけや意義・ねらいについて確認しておく。 （復習：1時間） ・学校・民間・地域スポーツクラブの効果的・適正なクラブ運営について、どのような配慮・工夫がなされているか、クラブ・サービスの考え方を踏まえ、整理し、理解を深めまとめる。</p>
8	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：学校体育経営（部活動運営・学校体育関係団体） ・適切な運動部活動運営について、事例をもとに、運営、指導上の留意点について解説し、理解を深める。 【授業方法】 ・ディベートを通じて、適正な運動部活動の運営、現代的課題についての意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・運動部活動の運営上の問題点、現代的な課題について調べておく。 （復習：1時間） ・適正な運動部活動の運営や指導上の留意点について整理し、理解を深めまとめる。</p>

9	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：学校体育経営（部活動運営・学校体育関係団体） ・適切な運動部活動運営について、事例をもとに、運営、指導上の留意点について解説し、理解を深める。 【授業方法】 ・ディベートを通じて、適正な運動部活動の運営、現代的課題についての意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・運動部活動の運営上の問題点、現代的な課題について調べておく。 （復習：1時間） ・適正な運動部活動の運営や指導上の留意点について整理し、理解を深めまとめる。</p>
10	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：学校体育経営（体育行事の企画・運営【体育祭等】） ・体育行事の意義・ねらいを確認し、企画・運営における留意点について解説し、理解を深める。 【授業方法】 ・グループ・ディスカッションを通じて、安全で効率的な体育行事の企画・運営について意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・自分が体験した体育行事について、振り返り、運営上の課題等についてまとめておく。 （復習：1時間） ・安全で効率的な体育行事の企画・運営について整理し、理解を深めまとめる。</p>
11	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：学校体育経営（特別活動の企画・運営【野外活動的行事】） ・特別活動（野外活動的行事）の意義・ねらいを確認し、企画・運営における留意点について解説し、理解を深める。 【授業方法】 ・グループ・ワークを通じて、安全で効率的な野外活動的行事の企画・運営について意見交換し理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・野外活動的行事における最近の事故等について、その背景、原因について調べ、理解を深めておく。 （復習：1時間） ・安全で効率的な野外活動的行事の企画・運営について整理し、理解を深めまとめる。</p>
12	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：学校体育経営（事事故事例とその予防） ・学校における事故の現状を把握し、安全な体育授業、運動部活の指導について解説し、理解を深める。 【授業方法】 ・DVD視聴を通じて、学校での事故の現状、事故防止に向けての取組みについての理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・学校現場におけるヒヤリ・ハット体験について振り返り、その原因等について調べておく。 （復習：2時間） ・学校（組織体）での事故防止に向けて、どのような取組みが行われているか、整理し、理解を深める。</p>

13	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：学校体育経営（事 故事例とその予防） ・具体的な事故事例や裁判判例 から安全な体育授業や運動部活 動の指導・運営について解説し 、理解を深める。 【授業方法】 ・グループ・ワークを通じて、 具体的な事例から原因や背景に ついて、分析し、事故防止のた めの対策について意見交換し理 解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・学校における事故事例を調べ、その原因につい てどのような要因があるのか、分析しておく。 （復習：2時間） ・事故発生時の対応や事故防止への取組みに向け て、具体的に整理し、理解を深める。</p>
14	長岡	<p>【授業内容】 テーマ：まとめ（レポート作成 ） ・学校体育経営管理における具 体的な課題等について、学習を 振り返り、理解を深める。 【授業方法】 ・テーマを設定し、課題レポ ートを作成し、グループ討議、授 業内で解説し、理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） ・授業実施後の課題等を整理しておく。 （復習：2時間） ・課題テーマについて、更に疑問点等について調 べておく。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】教育課程及び教育方法の理論と実践		授業形態	講義、複数・オムニバス
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	長登 健			
科目担当者	長登 健 牛尾 直行 松田 充			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>この授業では、教育課程とは何か、学習指導要領の歴史的展開、教材づくり、学習指導案の作成などについて扱うことによって、学校教育における教育課程の重要性について理解する。また、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3. 学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。 4. 情報機器を活用した効果的な授業や教材の作成・活用に関する基本的な能力を身に付ける。 5. 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 到達目標に基づき、様々な教育学的・体育学的な知識・技術を教授能力に変換することができる。（平常点・課題レポート・定期試験） 2. 情報機器を活用した効果的な授業づくりや生徒たちの情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法を理解している。（平常点・課題レポート・定期試験） 3. 学習評価の基礎的な考え方を理解し、学習指導案の作成に活かすことができる。（平常点・課題レポート） <p>【成績評価の方法】</p> <p>到達目標へ向けての学習状況を確認するための、定期試験（50%）、課題レポート（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合的に評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>本科目は、教育実習に行く前に履修することが望ましい。また、教職概論、教育原理、教育心理学、保健体育科教育法、保健体育科教育法の5科目の履修が修了していることが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>課題レポートは優秀なレポートを選択して、受講者全員で共有する。定期試験後は要望があれば個別に解説や指導を行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 2. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 3. 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 5. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料：保健体育（教育課程研究センター） 6. 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（スポーツ庁） <p>1. 2. 3. 4は教科書として使用するので必ず用意すること。5. 6は参考資料であり、レポート作成の際に参考となる。その他、授業中に、適宜、資料を配布します。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当：長登 健 E-mail：tnagato@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：前期の月曜日 14：00～16：00 場所：1号館5F、1519号室</p>				
備考				

【学修時間】
 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。

[実務経験のある教員による授業]
 この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。

【その他】
 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目
 科目：教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）
 施行規則に定める科目区分又は事項等：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（時）
1	牛尾	【授業内容】 テーマ：学習指導の原理と形態 進歩主義の指導原理、本質主義の指導原理について学ぶと共に、一斉授業、個別授業といった学習形態について考察することにより、現代の学校カリキュラム経営で求められているカリキュラム・マネジメントの意義・重要性とその評価についての基礎的な知見を学ぶ。 【授業方法】 講義	（予習：2時間） これまでの教育課程科目の学修内容についてふり返る。 （復習：2時間） 今回の学習内容に応じた課題を提示する。
2	長登 松田	【授業内容】 テーマ：教育哲学と教育方法 教師の仕事は単に教えることではない。大切なことは、子どもたちの学びをサポートすること、子どもたちがより豊かに、より幸せに生きるために彼らの自己受容を助けることである。学びの具体的な支援方法を考えていく。 【授業方法】 講義	（予習：2時間） 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 （復習：3時間） 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
3	長登 松田	【授業内容】 テーマ：教育方法研究の史的展開 近代から現代の公教育学校において、どのような教育方法が研究・実践されてきたのか、世界的な潮流を理解して教授理論やカリキュラム類型を解説する。具体的にはペスタロッチの直感教授、ヘルバルトの教育的教授、ツィラーの5段階教授法、シュテンツェルらの範例方式などを取り上げ、それらの教授法研究の課題を考察する。 【授業方法】 講義	（予習：2時間） 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 （復習：3時間） 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。

4	松田	<p>【授業内容】 テーマ：様々な授業研究、日本の教育課程の変遷 近代から現代日本の公教育学校において、どのような教育方法が研究・実践されてきたのか、その理論と実例を広く学び、自らの教育実践に役立てる。具体的には、板倉の仮説実験授業による発見学習の試み、遠山の水道方式などを取り上げ、日本における教育方法改革の課題を考察する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：3時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。</p>
5	長登 松田	<p>【授業内容】 テーマ：学習意欲を創る 内発的動機付けを高めることは体育教師にとって重要な課題である。望ましい動機付けの雰囲気をつくる授業の計画と準備について考察する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。</p>
6	長登 松田	<p>【授業内容】 テーマ：教材と授業の実際、教材研究の方法 体育の授業づくりに向けた教師の中心的な仕事の一つである教材・教具づくりについて解説する。体育授業における教材・教具とは何か、それらの構成・開発の際に求められる基本的な条件や視点について考察する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。</p>
7	松田	<p>【授業内容】 テーマ：単元計画と指導案の実際 単元計画とは、どのようなものであるかを述べることができ、その計画を作成することができるよう、単元計画に準じて、1単位時間の学習指導案を作成する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。</p>
8	長登 松田	<p>【授業内容】 テーマ：指導案のふり返し、保健体育科教員と部活動の実際 日本の運動部活動の現状と課題についてゲストティーチャーより学び理解を深める。実際の学校現場で授業を行う立場の教師として、計画作成上の留意点や、運動部活動の指導上の課題とされることについて考察する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) ゲストティーチャーより学んだ内容についてふり返し、レポートを作成すること。</p>

9	松田	<p>【授業内容】 テーマ：教育におけるICT活用 の実際、情報モラル教育の実際 グローバル社会で求められる能 力と教育方法について知り、実 際の授業の中で使われているIC T機器を示し、その特徴や活用 する場面、その教育的効果につ いて考察する。 【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成する こと。</p>
10	松田	<p>【授業内容】 テーマ：ICTを活用した授業の 実際 デジタル社会の情報リテラシー と教育用コンテンツの利活用に ついて知るとともに、そのため の活用方法の実際を学ぶ。 【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：1時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：3時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成する こと。</p>
11	松田	<p>【授業内容】 テーマ：ICT活用の課題レポ ートのふり返り、特別支援教育に おける保健体育授業の実際 特別支援教育の基礎知識の解説 から、支援を必要とする子ども たちについて知る。特別支援学 級における保体授業の準備段階 や実践段階で必要な配慮につ いて考察する。 【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成する こと。</p>
12	長登 松田	<p>【授業内容】 テーマ：主体的・対話的で深い 学びを実現する授業 アクティブ・ラーニングと新し い学力観 次期学習指導要領に 向けて、主体的・対話で深い学 びを目指す(「アクティブ・ラ ーニング」)について理解し、 取り組みを通して、その方法に ついて学ぶ。 【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：3時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成する こと。</p>
13	松田	<p>【授業内容】 テーマ：様々な教育評価、評価 の実際 「評価と評定」、「評価規準と 基準」、「絶対評価と相対評価 」、「形成的評価」、「自己評 価」等、様々な教育評価につ いて理解する。 【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 (復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成する こと。</p>

14	松田	<p>【授業内容】 テーマ：指導案中の評価規準の作成 体育授業における目標に準拠した評価と観点別評価について、その意味を理解する。学習指導案中に評価を位置付け、その具体的な評価方法を考える。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。</p> <p>(復習：2時間) 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】生徒・進路指導論		授業形態	講義・単独
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	村山 憲男			
科目担当者	村山 憲男			
授業概要	<p>【授業全体の内容】</p> <p>生徒指導とは、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものにするための諸活動であり、学校教育活動全般に通じるものである。進路指導とは、その中でも将来の職業選択に関わる教育活動のことである。現在、学校現場では、生徒指導・進路指導上、いかなる課題が生じていて、いかにその課題に取り組んでいるのか具体的な事例を示しながら生徒指導・進路指導についての理解を深める。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義と原理（位置づけや指導原理など）を理解し説明できる。 2. 児童生徒全体への生徒指導の進め方を理解し説明できる。 3. 個別の課題を抱える個々の児童生徒への具体的な対応や連携を理解し説明できる。 4. 進路指導・キャリア教育の意義や原理について説明できる。 5. 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方について説明できる。 6. 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を説明できる。 			
成績評価	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義と原理（位置づけや指導原理など）を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 2. 児童生徒全体への生徒指導の進め方を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 3. 個別の課題を抱える個々の児童生徒への具体的な対応や連携を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 4. 進路指導とキャリア教育について、理論や具体的な指導を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 5. 授業中の発言や予習・復習の取組状況によって受講態度を評価する。（平常点） <p>【成績評価の方法】</p> <p>定期試験（70％）、授業内試験・レポート・平常点（30％）。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】</p> <p>特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <p>ノートを必ず持参すること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業で解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 中学校キャリア教育の手引き（文部科学省） 高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省） 生徒指導提要（平成22年 文部科学省）</p> <p>上記を参考書として指定する。本科目に関わらず、定期試験やレポート、卒後の活動などで役立つため、可能な限り入手しておくことが望ましい。また、ノートを必ず持参すること。 その他の資料等は必要に応じて適宜配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：村山憲男 E-mail：n-murayama@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：月曜日12:10から12:45 場所：授業内で伝達する。 他の学生の相談時間と重複しないようにするため、できるだけ前週までにE-mailで予約すること。</p>			
<p>備考</p>			
<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p>			
<p>【実務経験のある教員による授業科目】 臨床心理士・公認心理師として、総合病院や精神科クリニックにて、15年程度の実務経験がある。また、現在は学生相談なども担当している。授業では、これらで得られた生きた知見を紹介する。</p>			
<p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等： 生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	村山	<p>【授業内容】 オリエンテーションとして、授業の目的と概要、成績評価、履修上の注意について説明する。また、生徒指導の全体像について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(復習：2時間) 生徒指導の全体像について、学んだ知識を整理しておく。</p>
2	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要として、生徒指導・進路指導の意義と原理について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 生徒指導・進路指導の意義と原理について、学んだ知識を整理しておく。</p>
3	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要として、教職課程における生徒指導について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 教職課程における生徒指導について、学んだ知識を整理しておく。</p>
4	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要として、問題行動と生徒指導体制（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携） 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 問題行動と生徒指導体制について、学んだ知識を整理しておく。</p>

5	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要として、生徒指導の具体的な進め方と指導方法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 教職課程における生徒指導について、学んだ知識を整理しておく。</p>
6	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要として、現在の様々な問題行動の実態およびその指導法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 問題行動の実態およびその指導法について、学んだ知識を整理しておく。</p>
7	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要として、生徒指導に関する法的制度等について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 教職課程における生徒指導について、学んだ知識を整理しておく。</p>
8	村山	<p>【授業内容】 生徒指導に役立つ心理学 「対人コミュニケーションの特徴」及び小テスト</p> <p>【授業方法】 第1～7回目までの内容に関する授業内試験・レポートを行い、この授業内で解説する。</p>	<p>(予習：4時間)</p> <p>これまでの内容を体系的に整理するとともに、授業内試験・レポートに向けて知識を確実にしておく。</p> <p>(復習：3時間) 間違えた内容を中心に、理解・記憶を確実にする。</p>
9	村山	<p>【授業内容】 生徒指導に役立つ心理学 「認知的不協和理論や均衡理論、リーダーシップ論」について解説</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 生徒指導に役立つ心理学について、学んだ知識を整理しておく。</p>
10	村山	<p>【授業内容】 生徒指導に役立つ心理学 「同調行動や偏見、傍観者行動」について解説</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 生徒指導に役立つ心理学について、学んだ知識を整理しておく。</p>
11	村山	<p>【授業内容】 「進路指導・キャリア教育の意義や原理」について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 生徒指導に役立つ心理学について、学んだ知識を整理しておく。</p>
12	村山	<p>【授業内容】 「進路指導・キャリア教育における今日の課題」について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 進路指導とキャリア教育について、学んだ知識を整理しておく。</p>

13	村山	<p>【授業内容】 「ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育及び個別の生徒に対応したキャリア・カウンセリングの進め方や留意点」について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 進路指導とキャリア教育について、学んだ知識を整理しておく。</p>
14	村山	<p>【授業内容】 「進路指導における事例テーマに関するグループワーク」及び「小テスト」</p> <p>【授業方法】 第9～13回目までの内容に関する授業内試験・レポートを行い、この授業内で解説する。</p>	<p>(予習：4時間) これまでの内容を体系的に整理するとともに、授業内試験・レポートに向けて知識を確実にしておく。</p> <p>(復習：3時間) 間違えた内容を中心に、理解・記憶を確実にする。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】知的障害者指導法		授業形態	講義・オムニバス
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	尾高 邦生			
科目担当者	尾高 邦生 渡邊 貴裕			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目では、知的障害及び自閉症等のある 幼児児童生徒の学習上、生活上の課題について学び、教育内容・方法 に独自の特徴をもつ知的障害教育の位置づけや実践の在り方について 考える。知的障害教育における各教科別の指導、生活単元学習、作業 学習、日常生活の指導、遊びの指導等の具体的実践について事例をもとに解説し、理解を深める。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1．知的障害及び自閉症等のある幼児児童生徒の学習上、生活上の課題について理解できる。 2．特別支援学校（知的障害）の教育課程について理解できる。 3．知的障害のある幼児児童生徒への専門的指導技法について理解できる。 4．特別支援学校の学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1．知的障害及び自閉症等のある幼児児童生徒の学習上、生活上の課題について理解する（定期試験、レポート）。 2．特別支援学校（知的障害）の教育課程について理解する（定期試験、レポート）。 3．知的障害のある幼児児童生徒への専門的指導技法について理解する（定期試験、レポート）。 4．特別支援学校の学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。（レポート）。</p> <p>【成績評価の方法】 ・平常点（グループワーク参加状況を含む）（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 ・「特別支援教育論」「障害者教育総論」「障害者の進路支援」を受講していることが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 ・定期試験や課題レポートで成績評価を行うが、講義内容が反映されていない場合には個別に解説や指導を行う</p> <p>【テキスト・参考書等】 1．肥後祥治 他 編：特別支援教育の学習指導案と授業研究 子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり、ジアース教育新社2015 2．名古屋恒彦 他 編：豊かな生活が切り拓く新しい知的障害教育の授業づくり 各教科等を合わせた指導、東洋館出版社、2018 3．特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省） 4．特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（平成30年3月 文部科学省） 5．特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省） 6．特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省） 7．特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省）</p> <p>参考書であり、授業中は適宜参考資料を配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：尾高 邦生 E-mail：k.odaka.ow@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 前期・後期：火曜日13:00～15:00 木曜日10:00～15:00 1号館2F 1217室（心身障害教育学研究室） 出張などで不在にすることもありますので、できれば事前にご連絡をお願いします。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する1回の授業時間は100分とする。</p> <p>[実務経験のある教員による授業] 特別支援学校教諭としての勤務経験に基づき、障害を持つ人への指導に関する実践的な知識をわかりやすく解説する。</p> <p>【その他】 特別支援学校教諭一種免許状取得のための必修科目 科目：特別支援教育領域に関する科目 施行規則に定める科目区分又は事項等：心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：肢・病）</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：知的障害の教育課程 特別支援学校の学習指導要領と教育課程の特徴について理解する。 【授業方法】 特別支援学校のVTRを視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う。</p>	<p>（予習：2時間） 学習指導要領の役割について事前に調べる。 （復習：2時間） 特別支援学校の教育課程の特徴について小レポートにまとめる。</p>
2	渡邊	<p>【授業内容】 特別支援学校学習指導要領 特別支援学校の学習指導要領の改訂のポイントについて理解する。 【授業方法】 特別支援学校の教育課程に関して、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う。</p>	<p>（予習：2時間） 特別支援学校学習指導要領の改訂年度について調べておく。 （復習：2時間） 特別支援学校学習指導要領の改訂とそのポイントについて整理し、表にまとめる。</p>
3	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：自立活動 特別支援学校の自立活動について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。 【授業方法】 仮想事例をもとに各自指導計画を作成し、小グループ内で発表する。</p>	<p>（予習：2時間） 特別支援学校における自立活動の指導内容の項目について調べる。 （復習：2時間） 自立活動「身体の動き」に関する指導の意義について小レポートにまとめる。</p>
4	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：日常生活の指導 特別支援学校の日常生活の指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。 【授業方法】 仮想事例をもとに各自指導計画を作成し、小グループ内で発表する。</p>	<p>（予習：2時間） 日常生活の指導内容の項目について調べる。 （復習：2時間） 日常生活の指導の意義について小レポートにまとめる。</p>

5	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：生活単元学習 特別支援学校の生活単元学習の指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。</p> <p>【授業方法】 仮想事例をもとに各自指導計画を作成し、小グループ内で発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 生活単元学習を導入した背景について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 生活単元学習の意義について小レポートにまとめる。</p>
6	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：遊びの指導 特別支援学校の遊びの指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。</p> <p>【授業方法】 仮想事例をもとに各自指導計画を作成し、小グループ内で発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 「幼児期の遊び」に関する資料を読み、その内容について理解しておく。</p> <p>(復習：2時間) 遊びの指導の意義について小レポートにまとめる。</p>
7	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：作業学習 特別支援学校の作業学習について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。</p> <p>【授業方法】 仮想事例をもとに各自指導計画を作成し、小グループ内で発表する。</p>	<p>(予習：2時間) 「作業学習」に関する資料を読み、その内容について理解しておく。</p> <p>(復習：2時間) 作業学習の意義について小レポートにまとめる。</p>
8	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：チームティーチング 特別支援学校の授業（VTR）を見て、チームティーチングの方法について理解する。</p> <p>【授業方法】 メイン・ティーチャーとサブ・ティーチャーの役割について、関連した質問を小グループで話し合う。</p>	<p>(予習：2時間) 「チームティーチング」という言葉について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 教員間の連携とその意義について小レポートにまとめる。</p>
9	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：授業づくり 特別支援学校の授業（VTR）を見て、効果的な教示について理解する。</p> <p>【授業方法】 教員の教示方法について、ひとりずつ順番に自分の考えを話す。</p>	<p>(予習：2時間) 知的障害児への教示方法を調べる。</p> <p>(復習：2時間) 絵本の読み聞かせのポイントについて小レポートにまとめる。</p>
10	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：個に応じた教材 特別支援学校の授業（VTR）を見て、効果的な教材・教具について理解する。</p> <p>【授業方法】 教材・教具の意義について、ひとりずつ順番に自分の考えを話す。</p>	<p>(予習：2時間) 教材と教具の違いについて調べる。</p> <p>(復習：2時間) 指定された材料を用いて教材を作成する。</p>

11	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：学習指導案 特別支援学校の学習指導案の作成手順について理解する。 【授業方法】 仮想事例をもとに小グループで学習指導案を作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 学習指導案を作成する意義について調べる。 (復習：3時間) 指定されたテーマで実際の指導案(略案)を作成する。</p>
12	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：知的障害の教科学習 特別支援学校の教科別、領域別の指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。 【授業方法】 仮想事例を基に、学習課題を踏まえた指導内容を考える。</p>	<p>(予習：2時間) 教科学習と教科領域を合わせた指導の違いについて調べる。 (復習：3時間) 指定されたテーマで実際の指導案(略案)を作成する。</p>
13	尾高	<p>【授業内容】 テーマ：個別の指導計画 特別支援学校の個別の指導計画の作成手順について理解する。 【授業方法】 仮想事例をもとに小グループで個別の指導計画を作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 「アセスメント」という言葉と発達検査の種類及び内容について調べる。 (復習：3時間) 指定された事例に対して、個別の指導計画を作成する。</p>
14	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：個に応じたアプローチ 教育技法について理解する。 【授業方法】 授業内容に関連した質問を小グループで話し合う。</p>	<p>(予習：2時間) 知的障害児への教育技法についてインターネットをもとにまとめておく。 (復習：3時間) 知的障害児へのコミュニケーション支援について教育技法と関連させて整理する。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】スポーツによる健康サポートの科学		授業形態	
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	黄田 常嘉			
科目担当者	黄田 常嘉			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。子供から高齢者まで、健常者又は疾病を抱えた人々も含めて、「人」の多様性を理解し、これまでの健康サポートのエビデンスを理解する。特に、疫学的視点から運動・スポーツがどのように人に影響を与えるのかについて広く見識を深め、運動・スポーツの有用性を理解し、その背景にある科学的メカニズムを学修する。大規模疫学的研究については、グループ討議を通じて、様々な観点からそのエビデンスを考証する。将来的に健康科学の分野で、医療、介護、福祉の現場で、それぞれの分野の専門職と一緒に社会的活動、研究活動などが行える知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 子供から超高齢者までの発達段階毎に、運動・スポーツがどのように影響するかについて正しい知識を修得する。 2. 運動・スポーツの有用性ならびにリスクについて理解し、その背景にある科学的メカニズムを学修する。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 子供から超高齢者まで運動やスポーツの健康に及ぼす影響に関する基礎的教養が修得できている。（単位認定試験）</p> <p>【成績評価の方法】 評価は、授業中の学習状況やレポート提出、試験の評点により行う。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 40分以上の遅刻や早退2回を以て欠席1回とカウントされる。教育実習で2/3以上の出席ができない場合は、個別にレポート課題を課する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 指定教科書はない。講義資料をJuntendo Passportで配信する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】 担当：黄田常嘉 / 山口慎史 内線 331 / 9401 E-mail : ota@juntendo.ac.jp / s.yamaguchi.rt@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 木曜日1～2限他、適宜。 場所：1号館2階 1216号室。 健康管理室業務や医学部業務で不在のこともあるため、事前にメールか内線に連絡をすること。</p>				
備考				
<p>【学修時間】 この授業は、オムニバス形式の講義による半期2単位の科目である。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】</p>				
授業計画	【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ-	

1	内藤	<p>【授業内容】 疫学研究が示すスポーツとからだ</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
2	黄田	<p>【授業内容】 疫学研究が示すスポーツとこころ</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習時間：1時間) 心身相関、スポーツと心の相互作用について考えてみる。自律神経、HPA axis、バイオフィードバックについて調べておく。</p> <p>(復習時間：1時間) 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>
3	町田	<p>【授業内容】 疫学研究が示す運動と寿命</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義、グループ討議</p>	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
4	吉原	<p>【授業内容】 疫学研究が示す体力と健康</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
5	町田	<p>【授業内容】 疫学研究が示す不活動の弊害</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義、グループ討議</p>	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
6	鄧	<p>【授業内容】 幼児期、学童期の身体活動・運動・遊び</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。。</p>
7	鈴木宏哉	<p>【授業内容】 成長期のスポーツと体力</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間) 子どものスポーツと体力・健康の関わりについてインターネット記事をいくつか調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 子どもにおけるスポーツと体力・健康の関係について 授業で紹介した文献資料を用いて理解を深める。</p>
8	黄田	<p>【授業内容】 成人期の運動不足と生活習慣病 肥満症、高脂血症、糖尿病、インスリン抵抗性などについて学ぶ。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義、</p>	<p>(予習時間：1時間) 自身の取り組む運動の種類と量の観点から、自身の直近の健康診断の検査データを検討してみること。羸瘦を呈する疾患についても想起しておく。</p> <p>(復習時間：1時間) 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>

9	大久保	<p>【授業内容】 高齢期のスポーツ（ロコモ）、 妊娠・出産・育児期とスポーツ</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義、グループ討議</p>	<p>（予習時間：1時間） ロコモティブシンドロームについて文献やインターネットを用いて調べる。</p> <p>（復習時間：1時間） 高齢期のスポーツについて授業で習得したことをまとめ、理解を深める。</p>
10	柴田	<p>【授業内容】 認知症予防のためのスポーツ</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義</p>	<p>（予習時間：1時間） アルツハイマー病は、主に薬物治療と非薬物療法が行われている。その治療は限界があるが、運動を中心とした非薬物療法についても多くのエビデンスがある。代表的な非薬物療法について調べてくる。</p> <p>（復習時間：1時間） 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>
11	尾高	<p>【授業内容】 障がい者のスポーツ さまざまな障がいに応じて開発されたスポーツや障がい者にとつてのスポーツの意味や意義を知る。</p> <p>【授業方法】 各障害に応じたスポーツの動画をみて、小グループごとにディスカッションをしながら各障害特性とスポーツ種目の関係について理解する。</p>	<p>（予習：2時間） 障害者スポーツやパラリンピック種目について内容や実施方法を調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 各障害特性を踏まえたスポーツ実施上の留意点についてまとめておく。</p>
12	深尾	<p>【授業内容】 治療としてのスポーツ（循環） 運動療法や心臓リハビリテーションにおけるスポーツについて実際の状況を紹介する。</p> <p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>（予習：1時間） 心臓リハビリテーションについてシステムを調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 治療としてのスポーツのリスクと運動処方について理解する。</p>
13	黄田	<p>【授業内容】 治療としての運動（メンタル）</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義</p>	<p>（予習時間：1時間） 運動がメンタルヘルスにどのように寄与するか検索調査しておくこと。治療法としての行動活性化、呼吸法、歩く瞑想、動作法、ダンスムーブメントセラピーについて調べてみる。</p> <p>（復習時間：1時間） 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>
14	黄田	<p>【授業内容】 総括</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義、グループ討議</p>	<p>（予習時間：1時間） 1～13回の講義内容を振り返り、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>（復習時間：1時間） 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】健康運動指導論		授業形態	
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	涌井 佐和子			
科目担当者	涌井 佐和子			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。子供から高齢者、男性と女性、健常者から障害者などを対象に、健康づくりのための身体活動支援及び運動指導方法の基礎的な知識を習得する。特に、健康づくり施策、健康づくりのための身体活動基準、健康日本21（第二次）における社会環境の整備、身体活動量の定量法とその実際、運動プログラム作成の基本などについて理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」、「健康についての専門的知識と実践的技能の取得」、「健康支援についての専門的知識と実践的技能の習得」、の学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解する。 2.健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導ができる。 3.健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について説明できる。 4.エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量について説明できる。 5.運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる。 6.運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる。 7.特定健康診査の検査項目の基準値について 			
成績評価				

<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解する（試験）。 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導ができる（試験）。 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について説明できる（試験）。 エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量について説明できる（試験）（レポート）。 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる（試験）（レポート）。 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる（試験）（レポート）。 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導班定値、受診勧奨値を説明できる（試験）。 運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、メディカルチェックの内容が説明できるようになる（試験）。 生活習慣病罹患患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響を理解し、運動プログラム内容を調整できるようになる（試験）。 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について説明できる（試験）。 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について説明できる（試験）。 成果をもたらすためには行動の継続が重 						
<p>履修における留意事項</p> <p>【履修要件】 なし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 この授業科目は、健康運動指導士受験資格取得に必要な科目であるため、試験範囲に対応した内容を扱う。扱う範囲が広いので能動的に取り組むこと。 30分以上の遅刻・早退は3回で1回の欠席扱いとします。 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。</p> <p>【テキスト・参考書等】 財団法人健康運動指導士養成講習テキスト（上・下）。購入方法については教務課へ確認ください。</p>						
<p>連絡先とオフィスアワー</p> <p>【連絡先】 担当： 涌井 佐和子 E-mail：swakui[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください）</p> <p>【オフィスアワー】 <さくらキャンパス> 日時： 前期水曜日 12:00～12:50 場所： 1号館4階1402室 できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。</p>						
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり財団 健康運動指導士</p>						
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p> <table border="1"> <tr> <td>授業回数</td> <td>担当</td> <td>授業内容（授業方法を含む）</td> <td>準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（ホ-</td> </tr> </table>			授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（ホ-
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（ホ-			

1	涌井	<p>【授業内容】 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業のねらいやスケジュールについて解説する。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見通しを持つ。</p> <p>(復習：2時間) シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見通しを再確認する。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割についての資料を読み返し、整理する。</p>
2	涌井	<p>【授業内容】 健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割についての資料を読み返し、整理する。</p> <p>【授業方法】 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導についての資料を読み、概要を把握する。</p> <p>(復習：2時間) 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導についての資料を整理する。</p>
3	涌井	<p>【授業内容】 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について理解する。</p> <p>【授業方法】 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境についての資料を読み、概要を把握する。</p> <p>(復習：2時間) 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境についての資料を整理する。</p>
4	涌井	<p>【授業内容】 身体活動量の定量法とその実際について理解する。</p> <p>【授業方法】 身体活動量の定量法とその実際について解説する。身近な事例についてまとめる。</p>	<p>(予習：2時間) エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量についての資料の概要を把握する。</p> <p>(復習：2時間) エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量についての資料を整理する。</p>
5	涌井	<p>【授業内容】 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持続性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムの作成法について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持続性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラム作成について解説する。身近な事例について討議する。練習課題に取り組む。</p>	<p>(予習：2時間) 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持続性運動）の資料の内容を把握する。</p> <p>(復習：2時間) 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持続性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムの資料の内容を整理する。</p>

6	涌井	<p>【授業内容】 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムについて理解する。</p> <p>【授業方法】 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）について解説する。身近な事例について調べる。</p>	<p>（予習：2時間） 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムについての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）についての資料を整理する。</p>
7	涌井	<p>【授業内容】 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値について解説する。</p> <p>【授業方法】 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値の資料を読み、内容を把握する。</p> <p>（復習：2時間） 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値の資料を整理する。</p>
8	涌井	<p>【授業内容】 運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解する。</p> <p>【授業方法】 運動のための内科的メディカルチェックの重要性やメディカルチェックの内容を解説する。身近な事例について調べる。練習問題を行う。</p>	<p>（予習：2時間） 運動のための内科的メディカルチェックの重要性やメディカルチェックの内容に関する資料を読み、把握する。</p> <p>（復習：2時間） 運動のための内科的メディカルチェックの重要性やメディカルチェックの内容についての資料を整理する。</p>
9	涌井	<p>【授業内容】 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や運動プログラム内容の調整について理解する。</p> <p>【授業方法】 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や運動プログラム内容の調整法について解説する。身近な事例について調べる。練習問題を行う。</p>	<p>（予習：2時間） 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や運動プログラム内容の調整法についての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や、運動プログラム内容の調整法についての資料を整理する。</p>
10	涌井	<p>【授業内容】 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について理解する。</p> <p>【授業方法】 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を整理する。</p>

11	涌井	<p>【授業内容】 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について理解する。</p> <p>【授業方法】 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について解説する。身近な事例について調べる。</p>	<p>(予習：2時間) 青少年期の成長、発育の特徴、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を読んで把握する。</p> <p>(復習：2時間) 青少年期の成長、発育の特徴、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を整理する。</p>
12	涌井	<p>【授業内容】 行動変容の理論：成果をもたらすためには行動の継続が重要であることを理解し、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得する。</p> <p>【授業方法】 成果をもたらすためには行動の継続が重要であること、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法について解説する。自身の状態について調べる。</p>	<p>(予習：3時間) 行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての資料を読んで、把握する。</p> <p>(復習：3時間) 行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての資料を整理する。</p>
13	涌井	<p>【授業内容】 行動変容理論の実践的適用：対象者の特徴、ニーズおよび文脈（場面、状況など）を探り、それらの情報を反映させて、行動変容理論・モデルおよび技法を適用する方法を理解する。</p> <p>【授業方法】 対象者の特徴、ニーズおよび文脈（場面、状況など）を探り、それらの情報を反映させて、行動変容理論・モデルおよび技法を適用する方法を解説し、自己管理の方法について討議する。</p>	<p>(予習：3時間) 対象者の特徴、ニーズおよび文脈（場面、状況など）を探り、それらの情報を反映させて、行動変容理論・モデルおよび技法を適用する方法の資料を読み、把握する。</p> <p>(復習：3時間) 対象者の特徴、ニーズおよび文脈（場面、状況など）を探り、それらの情報を反映させて、行動変容理論・モデルおよび技法を適用する方法の資料を整理する。</p>
14	涌井	<p>【授業内容】 実習：行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングの基本的事項を理解する。</p> <p>【授業方法】 行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングについて解説する。カウンセリングの基本的事項について事例をまとめる。</p>	<p>(予習：3時間) 行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングについての資料を読み、把握する。</p> <p>(復習：3時間) カウンセリングの基本的事項についての資料を整理する。</p>
		<p>定期試験は実施しない。授業内試験とする。</p>	

授業科目名	【新カリ】健康運動指導実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	涌井 佐和子			
科目担当者	涌井佐和子 飯嶋正博 村上祐介			
授業概要	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。健康運動指導論で学修した基礎知識をもとに、運動強度を考慮したウォーキングの指導法、コンディショニング指導法、用具を使った運動指導法を体験し、実際に指導練習を行う。また、子供から中・高年者を対象とした各種模擬プログラムを企画・実践を行い、プログラム評価を行う。また、運動習慣づくりのための行動変容に依拠したカウンセリングについても体験する。</p> <p>(オムニバス方式 / 28回)</p> <p>(32 涌井佐和子 / 22回)</p> <p>子供から高齢者、男性と女性、健常者から障害者などを対象にした健康レベルを向上させる運動に関する指導方法の基礎を身に付けることを目的とする。運動強度を考慮したウォーキングの指導法、コンディショニング指導法を体験し、実際に指導練習を行う。また、子供から中・高年者を対象とした各種模擬プログラムを企画・実践を行い、プログラム評価を行う。また、運動習慣づくりのための行動変容に依拠した運動指導計画の立て方について学ぶ。</p> <p>(22 飯嶋正博 / 6回)</p> <p>身体への動作に働きかけることによって、身体の慢性的な緊張に気づき、無駄な力を抜くための指導技法の理論を学び、実践的な指導の基礎を身に付ける。特に、高齢者、障害者、アスリートへの指導現場で適用されている指導方法についての実習を行う。また、健康づくり運動指導現場で活用されている様々な用具の教材としての活用事例についての知識を高め、その適用方法やプログラムの展開についての実習を通して、個人指導や集団指導の基本を身に付ける。</p>			
成績評価				

<p>【成績評価の基準】</p> <p>1.ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従った指導ができる（平常点、レポート）。</p> <p>2.ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、基本的な指導方法を身に着ける。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解できる（平常点、レポート）。</p> <p>3.用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方を理解し、指導法を身に着ける（平常点、レポート）。</p> <p>4.有酸素運動としてのウォーキングやジョギングの理論と実践方法を理解し、指導ができる（平常点、レポート）。</p> <p>5.健康づくりのためのリズムウォーキングの指導方法を理解し、運動強度や安全を考慮した指導ができる（平常点、レポート）。</p> <p>6.体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに効果的なプログラムを作成できる（平常点、レポート）。</p> <p>7.対象者の特徴に応じた健康づくり運動プログラムを立案し、指導ができる（平常点、レポート）。</p> <p>8.運動習慣づくりのための行動変容に依拠した運動指導計画の立て方についてまとめることができる（レポート）。</p> <p>【成績評価の方法】 授業態度・取り組む姿勢：実習内容、出席カードへの授業コメントによりA（20点）、B（15点）、C（10点）、D（5点）判定を行う。 小レポート課題：1課題についてA（20点）</p>			
<p>履修における留意事項</p> <p>【履修要件】 事前に健康運動指導論を履修していることが望ましい。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 課題は後日出席カードに挟んで返却します。 【テキスト・参考書等】 財団法人健康運動指導士養成講習テキスト（上・下） 購入方法については教務課へ確認ください。</p>			
<p>連絡先とオフィスアワー</p> <p>【連絡先】 担当：涌井 佐和子 E-mail: swakui[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） 【オフィスアワー】 <さくらキャンパス> 日時：後期水曜日 12:00～12:40 場所：1号館4階1402室 できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学修30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業は健康運動指導士受験資格取得のための必須科目です。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士 対応領域 9-2. ストレッチングと柔軟体操の実際（実習 90分・1コマ） 9-6. レジスタンス運動（実習90分・1コマ） 9-7. 介護予防と運動（1）（2）（実習180分・2コマ）</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）

1・2	涌井	<p>【授業内容】 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従った指導を行う。ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、基本的な指導方法を身に着ける。</p> <p>【授業方法】 授業のねらいやスケジュールについて解説する。ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を解説する。主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従って指導する。ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に解説する。健康づくりのために適した方法を対象者の特徴や環境に応じて選択しての指導方法を体験する。</p>	<p>(予習：1時間) シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見通しを持つ。</p> <p>(復習：1時間) シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見通しを再確認する。 ウォームアップとクールダウン、ストレッチングの指導方法に関する資料を読み返し、整理する。</p>
3・4	飯嶋	<p>【授業内容】 動作法の基礎について理解し、指導法を身に着ける。</p> <p>【授業方法】 動作法の基礎について解説し、身体の使い方に関する指導法の実習を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 動作法を取り入れた運動プログラムの考え方や指導法の資料を読み、概要を把握する。</p> <p>(復習：1時間) 動作法を取り入れた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を整理する。</p>
5・6	飯嶋	<p>【授業内容】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方を理解し、指導法を身に着ける。</p> <p>【授業方法】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法を解説し、実習を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を読み、概要を把握する。</p> <p>(復習：1時間) 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を整理する。</p>
7・8	飯嶋	<p>【授業内容】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法を解説し、実習を行う。</p> <p>【授業方法】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法を解説し、実習を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を読み、概要を把握する。</p> <p>(復習：1時間) 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を整理する。</p>
9・10	涌井	<p>【授業内容】 健康の保持と増進のために日常的に多くの人実践できる有酸素運動としてのウォーキングの理論と実践方法を理解する。</p> <p>【授業方法】 ウォーキングの理論と実践方法を解説する。異なる歩行速度でウォーキングを行い、運動強度を算出する。</p>	<p>(予習：1時間) 有酸素運動としてのウォーキングの理論と実践方法に高血圧症予防・治療における運動の意義と、高血圧における運動実施上の留意点についての資料を読んで把握する。</p> <p>(復習：1時間) 有酸素運動としてのウォーキングの理論と実践方法についての資料を整理する。</p>

11・12	涌井	<p>【授業内容】 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）の指導法について理解する。</p> <p>【授業方法】 作成したリズムウォーキングのプログラムの指導を行う。相互評価を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）の指導法についての資料を読んで概要を把握する。</p> <p>（復習：1時間） 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）のプログラムをよりよいものに修正する</p>
13・14	涌井	<p>【授業内容】 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）を発表する。</p> <p>【授業方法】 作成したリズムウォーキングのプログラムの指導を行う。相互評価を行う。</p>	<p>（予習：1時間） プログラムを修正して練習する。</p> <p>（復習：1時間） 評価ポイントについて整理する。</p>
15・16	涌井	<p>【授業内容】 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに効果的なプログラムを作成できる能力を習得する。</p> <p>【授業方法】 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について整理し、健康づくりに効果的なプログラム案を作成して実践する。</p>	<p>（予習：1時間） 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴、健康づくりに効果的なプログラムの資料を読み、把握する。</p> <p>（復習：1時間） 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴、健康づくりに効果的なプログラムの資料を整理する。</p>
17・18	涌井	<p>【授業内容】 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について理解し、必要な知識や技術を身に着ける。</p> <p>【授業方法】 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について解説する。必要な知識や技術を整理し、プログラム試案を作成する。</p>	<p>（予習：1時間） 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について理解し、必要な知識や技術についての資料を読んで把握する</p> <p>（復習：1時間） 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について理解し、必要な知識や技術についての資料を整理する。</p>
19・20	涌井	<p>【授業内容】 運動指導の実際 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p> <p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>（予習：1時間） 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。</p> <p>（復習：1時間） 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>
21・22	涌井	<p>【授業内容】 運動指導の実際 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p> <p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>（予習：1時間） 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。</p> <p>（復習：1時間） 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>

23・24	涌井	<p>【授業内容】 運動指導の実際 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p> <p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>（予習：1時間） 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。</p> <p>（復習：1時間） 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>
25・26	涌井	<p>【授業内容】 運動指導の実際 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p> <p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>（予習：1時間） 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。</p> <p>（復習：1時間） 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>
27・28	涌井	<p>【授業内容】 行動変容を意図したプログラム開発の具体的方策を学び、運動継続強化を目的とした指導計画および個別カウンセリング方法を理解する。健康づくり運動指導についてまとめる。</p> <p>【授業方法】 行動変容を意図したプログラム開発の具体的方策に関する資料をまとめる。運動継続強化を目的とした運動プログラムの作成および個別カウンセリング方法を理解する。健康づくり運動指導についてまとめる。</p>	<p>（予習：2時間） 行動変容を意図したプログラム開発の具体的方策についての資料を読む。</p> <p>（復習：2時間） 行動変容を意図したプログラム開発の具体的方策に関する資料を読み返し、健康づくり運動指導について整理する。</p>
		試験実施しない。	

授業科目名	【新カリ】健康教育学		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	涌井 佐和子			
科目担当者	涌井 佐和子、大久保 菜穂子			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。健康の維持増進、疾病の予防や回復を目的として、個人及び集団に対して生涯を通じて行う健康づくり（教育・管理）の基本事項や各種事例を健康教育及び健康管理の視点から学修し、それらに必要な基礎知識や技術とその計画づくり等についての基本的事項を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式 / 全14回）</p> <p>（35 大久保菜穂子 / 6回）</p> <p>主として健康教育に関わる以下の内容について学修する。 健康づくり政策の変遷、健康教育学の定義及び歴史や概念、行動変容に向けた健康行動理論・保健行動理論及び健康教育との関連、ライフサイクルにおける健康教育、ヘルスリテラシー、健康な生活習慣と感染症予防、健康増進法における健康教育、職場・地域・学校等における健康教育に必要な基礎知識や技術とその計画づくり。</p> <p>（32 涌井佐和子 / 9回）</p> <p>主として健康管理に関わる以下の内容について学修する。 健康づくり政策の変遷、健康づくりの法規、健康日本21（2次）、生活習慣病、その他近年問題となっている疾患の定義、実態と対策、こころの健康増進の現状と課題、食生活等</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自</p>				
成績評価				

【成績評価の基準】

- 1.健康づくりの概念と制度、健康教育の歴史の概要について理解できる（小レポート）。
- 2.健康日本21（2次）の概要について、自身の生活と関連づけて理解することができる（小テスト）。
- 3.生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、虚血性心疾患、がん）の定義・診断基準・リスク・対策等について理解できる（小テスト）。
- 4.介護予防制度による介護予防の内容、ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症）の定義、実態と対策について理解できる（小テスト）。
- 5.こころの健康増進（ストレスの考え方と評価法、ストレスマネジメントとカウンセリング、心理要因の健康行動への影響）の現状と課題、食生活等について理解できる（レポート）。
- 6.自身ならびに重要な他者における健康管理の在り方について考究できる（レポート、平常点）。
- 7.健康教育の定義や概念、健康行動理論について自分の言葉で説明できるか、レポートで評価する。
- 8.生涯を通じた健康教育の取組と、ヘルスリテラシー、健康な生活習慣について授業中に課す提出物やレポートで評価する。
- 9.職場・地域・学校等における健康教育の計画づくりについて理解し、事例をふまえて説明できるかレポートで評価する。
- 10.学習意欲や授業態度については、討議や事例検討等から評価する。

【成績評価の方法】

前半：健康管理分野 小テストと課題レポート（30%）、平常点（20%）を総合し、50点満点で評価する。

履修における留意事項

【履修要件】

公衆衛生学を履修していると望ましい。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。授業中に課したレポートや提出物については講義形式で解説を行う。

【テキスト・参考書等】

適宜紹介します。

連絡先とオフィスアワー

【連絡先】

担当：

健康管理分野担当：涌井 佐和子 E-mail: swakui[at]juntendo.ac.jp

健康教育分野担当：大久保 菜穂子 E-mail: naokoo[at]juntendo.ac.jp

*[at]を@に変更してください。

【オフィスアワー】

涌井 日時：水曜日 12:00～12:50 場所：1号館4階1402室 健康管理学研究室

大久保 日時：水曜日12:00から14:35 場所：1号館4F 1415号室 健康教育学研究室

できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。

備考

【学修時間】

この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

【その他】

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。

健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士

対応領域

- 1-1. 健康の概念と制度（講義90分・1コマ）
- 1-2. 生活習慣病（NCD）概論と特定健診・保健指導（講義90分・1コマ）
- 1-3. 介護予防概論（講義90分・1コマ）
- 14-1. ストレスの考え方と評価法（講義90分・1コマ）
- 14-2. ストレスマネジメントとカウンセリング（実習90分・1コマ）
- 14-3. 運動の健康行動（禁煙など）への影響（講義90分・1コマ）
- 15-1. 食生活と健康運動（講義90分・1コマ）

第一種衛生管理者

授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	涌井・大久保	<p>【授業内容】 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。健康の概念と制度、健康教育学の定義および歴史的背景や概念について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 国内外の健康教育学の歴史について解説し、日本医師会や日本健康教育学会が定義する健康教育について紹介する。健康教育学の歴史的な背景や定義を相手に説明し、理解度確認を行う。</p>	<p>（予習：2時間） シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見直しを持つ。 健康の概念と制度、健康教育学の歴史や定義について書籍、インターネットを利用して調べる。</p> <p>（復習：2時間） シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見直しを再確認する。 健康の概念と制度健康づくり政策の変遷や健康管理にかかわる法規の資料を読み返し、学んだことを整理する。 国内外の健康教育の歴史や定義について復習し、時系列に流れを整理する。</p>
2	涌井	<p>【授業内容】 健康日本21（2次）の概要について理解する。</p> <p>【授業方法】 健康日本21（2次）の概要について解説する。自身の状況や重要な他者について評価する。</p>	<p>（予習：2時間） 健康日本21（2次）の概要についての資料を読み、内容を把握する。</p> <p>（復習：2時間） 健康日本21（2次）の概要についての資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
3	涌井	<p>【授業内容】 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度、および健康運動指導士の役割について理解を深める。生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）の定義・診断基準・リスク・対策等の基本的事項について理解する。</p> <p>【授業方法】 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度について解説する。 生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）の定義・診断基準・リスク・対策等について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>（予習：2時間） 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度についての資料を読み、概要を把握する。生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）の定義・診断基準・リスク・対策等の資料を読み内容を把握する。</p> <p>（復習：2時間） 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度についての資料を整理する。 生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
4	涌井	<p>【授業内容】 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策等の基本的事項について理解する。また、がん対策の現状について理解する。</p> <p>【授業方法】 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策等について解説する。また、がん対策の現状について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>（予習：2時間） 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策、ならびにがん対策についての資料を読み内容を把握する。</p> <p>（復習：2時間） 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策、ならびにがん対策に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>

5	涌井	<p>【授業内容】 介護予防制度による介護予防の内容と運動の重要性を理解し、介護予防における健康運動指導士の役割を理解する。 ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策の基本的事項について理解する。</p> <p>【授業方法】 介護予防制度による介護予防の内容と運動の重要性を理解し、介護予防における健康運動指導士の役割を解説する。 ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) 介護予防制度および介護予防の資料を読み、概要を把握する。ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策の資料を読み内容を把握する。</p> <p>(復習：2時間) 介護予防制度および介護予防の資料を整理する。ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
6	涌井	<p>【授業内容】 ストレスの考え方と評価法の基本的事項(メンタルヘルスの現状、ストレスとその評価や対策、身体活動・運動の精神・心理に及ぼす効果)について理解する。</p> <p>【授業方法】 ストレスの考え方と評価法について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) ストレスの考え方と評価法の資料を読み内容を把握する。</p> <p>(復習：2時間) ストレスの考え方と評価法に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
7	涌井	<p>【授業内容】 ストレスマネジメントとカウンセリングの基本的事項(ストレスモデルに基づくストレスマネジメントの考え方、ストレス評価尺度、ストレス対処としての一次、二次、三次予防、運動実施の心理的効果と社会的効果、運動指導アプローチ)について理解する。</p> <p>【授業方法】 ストレスマネジメントとカウンセリングの基本的事項について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) ストレスマネジメントとカウンセリングの授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p> <p>(復習：2時間) ストレスマネジメントとカウンセリングの授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>

8	涌井	<p>【授業内容】 心理要因の健康行動への影響の基本的事項（心理要因の健康行動への影響モデル、運動行動と他の健康行動との関わり）について理解する。 【授業方法】 心理要因の健康行動への影響について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>（予習：2時間） 心理要因の健康行動への影響の資料を読み内容を把握する。 （復習：2時間） 心理要因の健康行動への影響の基本的事項（心理要因の健康行動への影響モデル、運動行動と他の健康行動との関わり）について理解する。</p>
9	涌井	<p>【授業内容】 食生活と健康運動との関わりに関する基本的事項を理解する。 【授業方法】 食生活と健康運動との関わりに関する基本的事項を解説する。</p>	<p>（予習：1.5時間） 食生活と健康運動との関わりに関する資料を読む。 （復習：2.5時間） 食生活と健康運動との関わりについて学んだことを整理する。</p>
10	大久保	<p>【授業内容】 行動変容に向けた健康行動理論・保健行動理論（KAP model、Health Belief model、行動変容ステージ理論、セルフエフィカシーの向上等）と健康教育の関係について理解する。 【授業方法】 健康行動を形成するモデルを用いた支援方法を紹介し、健診や健康教育に向けて活用できるように解説する。各理論について数名で討議する。</p>	<p>（予習：1.5時間） 行動変容、健康行動理論について文献や書籍を用いて調べる。 （復習：2.5時間） 健康行動理論におけるセルフエフィカシーを高めるポイントについてまとめる。</p>
11	大久保	<p>【授業内容】 生涯を通じた健康教育の取組と、健康を決める力となるヘルスリテラシーについて理解を深める 【授業方法】 母子、妊娠・出産期、壮年期、高齢期といったライフサイクルに応じた健康課題に対する健康教育の概要を紹介し、健康情報を効果的に獲得するために必要なヘルスリテラシーについて解説する。</p>	<p>（予習：1.5時間） ヘルスリテラシー研究について文献やインターネットを利用して調べる。 （復習：2.5時間） ライフサイクルにおける健康教育について内容を整理する。</p>
12	大久保	<p>【授業内容】 健康な生活習慣や、感染症予防のために職場や学校で行われている健康教育を理解する。 【授業方法】 健康な生活習慣（栄養・食生活、身体活動・運動、休養）や、感染症（インフルエンザや食中毒）予防にむけた健康教育の展開方法や視聴覚教材について紹介する。各事例について数名で討議する。</p>	<p>（予習：1.5時間） 職場や学校で行われる健康教育について文献や書籍を利用して調べる。 （復習：2.5時間） 健康な生活習慣や感染症予防に向けた健康教育についてまとめる。</p>

13	大久保	<p>【授業内容】 健康増進法における健康教育（集団・個別）の理解を深める。</p> <p>【授業方法】 地域（保健所・保健センター等）で行われる集団健康教育（一般、歯周疾患、ロコモティブシンドローム、COPD、病態別、薬）と個別健康教育（高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙）の概要を解説する。各事例について数名で討議する。</p>	<p>（予習：1.5時間） 健康増進法の概要について調べ、内容を把握する。</p> <p>（復習：2.5時間） 集団健康教育と個別健康教育の内容を整理する。</p>
14	大久保	<p>【授業内容】 職場・地域・学校における健康教育の計画づくりについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 健康教育の計画づくりに重要なニーズアセスメント、目的・目標、内容、方法、教育媒体、評価について事例をふまえて解説する。身近な事例（肥満予防、腰痛予防、心の健康等）を調べる。</p>	<p>（予習：1.5時間） 健康教育の計画づくりにあたっての要件を書籍、インターネットを利用して調べる。</p> <p>（復習：2.5時間） ニーズアセスメント、目的・目標、内容、方法、教育媒体、評価についてまとめる。</p>

授業科目名	【新カリ】健康学実習		授業形態	実習
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3		単位数	2.0
科目責任者	大久保 菜穂子			
科目担当者	大久保菜穂子、松山毅、中西唯公			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。少子高齢化、情報化等を背景とした生活様式や生活環境の著しい変化は人々の健康に大きな影響を与え、国民の健康づくりは、社会の重要な課題となっており、効果的な健康づくりを行うには学校や地域（職場を含む）等の有機的な連携が必要となっている。学校及び地域における保健活動の現状や課題について理解した上で、実際の進め方について実習を通して理解を深めるとともに健康教育や社会福祉、学校保健、保健行政など幅広く健康支援にかかわる諸技術を習得する。</p> <p>各教員の担当箇所の概要及び担当回数 （オムニバス方式 / 全28回） （35大久保菜穂子 / 12回） 健康教育学的なアプローチの仕方を通して、生涯にわたって健康をつくりあげていくための実践的技術の習得をめざす。まず、ライフステージ別の健康課題に対する効果的な健康教育の計画づくりを解説し、成人期に視点をあて、メンタルヘルスや腰痛予防など職場の健康教育の実践例を学ぶ。また、運動習慣の定着化に向けた健康政策を調べ、現状と課題を分析し発表する。これらを通して望ましい健康教育教材を作成できる技術を習得する。</p> （30松山毅 / 8回） 健康支援の対象者は高齢者や障害者、生活困窮者、子育て世帯なども含まれる。本実習では、対象者理解の方法として視覚、聴覚、肢体不自由などの疑似体験を通して支援される側の立場を追体験し、あわせて相手の立場に立った支援の方法や考え方を学ぶ。その上で高齢者や障害者などに対するレクリエーションプログラムを考案し、実際に施設や学校などでプログラム				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校及び地域保健の各領域で取り組まれている保健活動を効果的に実施するには連携・協力体制づくりが必要であることを理解し説明することができる。 2. 学校及び地域保健における保健活動の現状や課題を理解し説明することができる。 3. 保健活動を進めるための計画の作成方法や実施方法について理解し、企画立案することができる。 4. 健康教育や社会福祉、学校保健、保健行政など幅広く健康支援にかかわる諸技術を習得し実演している。 <p>【成績評価の方法】 到達目標に準じた評価を各担当者が実施したうえで総合評価を行う。</p>				
履修における留意事項				

<p>【履修要件】健康学概論、健康教育学、学校保健学を履修していることが望ましい。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 ワークシートや成果物については、学生の理解度を見て再度授業内で解説を加える。 【テキスト・参考書等】 特定のテキストは使用せず、必要に応じて適宜、担当教員が準備し、配布することとする。</p>			
<p>連絡先とオフィスアワー</p>			
<p>【連絡先】担当：大久保菜穂子（代表） E-mail：naokoo[at]juntendo.ac.jp 左記アドレスの[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 火曜日13:00～14:30、木曜日13:00～14:30（1号館4階1415，健康教育学研究室）</p>			
<p>備考</p>			
<p>【学修時間】 この授業は、講義の実習形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時間）分として示している。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	大久保（松山中西）	<p>【授業内容】オリエンテーション これから行われる実習日程、実習場所、内容などについての概要を説明する。また実習を安全かつ効率よく進められるように指導する 【授業方法】スライドと配布資料を用いて講義を行い、本授業全体の内容や評価法等を把握する</p>	<p>（復習：2時間） シラバスおよび配布されたプリントの内容すべてに目を通し、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。また、履修登録が確実に実行されているか再確認しておく。</p>
2	大久保	<p>【授業内容】健康教育の企画解説及び事例検討 【授業方法】健康教育の計画づくりに重要なニーズアセスメント、目的・目標、内容、方法、教育媒体、評価について解説し、健康教育の身近な事例を調べる</p>	<p>（予習：1時間）健康教育の計画づくりにあたっての要件を書籍、インターネットを用いて調べる （復習：1時間）ニーズアセスメント、目的・目標、内容、方法、教育媒体、評価について整理する。</p>
3	大久保	<p>【授業内容】健康課題（生活習慣病・ロコモティブシンドローム・メタボリックシンドローム等）の健康教育実践例の分析および企画・実施・評価 【授業方法】健康教育実践例について解説し、ライフステージ別の健康課題に向けた望ましい健康教育の企画・実施・評価に取り組み発表する</p>	<p>（予習：1時間）生活習慣病・ロコモティブシンドローム・メタボリックシンドローム等の健康教育実践例を分析するための要件を書籍、インターネットを利用して調べる （復習：1時間）ライフステージ別の健康課題に向けた望ましい健康教育の企画・実施・評価について整理する</p>
4	大久保	<p>【授業内容】心の健康、腰痛予防教育等の教材開発 【授業方法】メンタルヘルスや腰痛予防等、職場の健康教育事例について解説し、事例教材の現状と課題を調べ、分析・発表し、望ましい健康教育教材を作成できる技術を習得する</p>	<p>（予習：1時間）職場の健康教育の事例を分析するための要件を書籍、インターネットを用いて調べる （復習：1時間）各々の健康教育の事例教材の現状と課題をまとめ、分析の観点を整理する</p>
5	大久保	<p>【授業内容】運動習慣の定着化に向けた健康教育を実践する 【授業方法】スポーツ庁が提唱するスポーツ実施率向上に向けた行動計画に基づき、子どもの健康づくりプログラムを企画し学校等で健康教育を展開する</p>	<p>（予習：1時間）インターネット等で、スポーツ庁が提言する健康政策について調べておく。（復習：1時間）効果的な健康教育が展開できたかふりかえり、計画づくりの要件ごとにレポートにまとめる</p>

6	松山	<p>【授業内容】疑似体験 視覚障害や聴覚障害の疑似体験を通して不自由さを体験するとともに、バリアフリーや支援の在り方について考える</p> <p>【授業方法】アイマスクや白杖、イヤーマフなどを使用して障害疑似体験、支援の方法の練習を行う</p>	<p>(予習：1時間)視覚障害や聴覚障害の種類や人数、現状、課題について調べておく</p> <p>(復習：1時間)授業を通して気が付いた様々なバリアについて整理し、改善方法について考察しレポートにまとめる</p>
7	松山	<p>【授業内容】疑似体験 車いす体験を通して日常生活の不自由さやバリアフリーの現状を学ぶ</p> <p>【授業方法】車いすでの疑似体験を通して、車いす使用者の立場を考える、支援方法を学ぶ、学校内のバリアフリーの整備状況を調べる</p>	<p>(予習：1時間)車いすを使用しなければならない人はどのような人か、人数、生活する上での課題は何か、などを調べておく</p> <p>(復習：1時間)授業を通して気が付いた様々なバリアについて整理し、改善方法について考察しレポートにまとめる</p>
8	松山	<p>【授業内容】地域の学校、施設に出向いて福祉教育や運動・スポーツを指導する</p> <p>【授業方法】近隣の学校や福祉施設等で、福祉を教えたり、軽スポーツなどを指導する指導案を作成する。(担当施設を割り当て、それぞれグループごとに話し合う)</p>	<p>(予習：1時間)福祉教育やアダブテッドスポーツなどについて調べておく</p> <p>(復習：1時間)グループで話し合ったことを整理し、指導案を完成させる</p>
9	松山	<p>【授業内容】地域の学校、施設に出向いて福祉教育や運動・スポーツを指導する</p> <p>【授業方法】実際の学校や施設に出向き指導案に基づいて福祉の学習や運動・スポーツ指導を経験する</p>	<p>(予習：1時間)指導案に基づいてグループごとに予行練習をしておく</p> <p>(復習：1時間)実際に指導してみて理解したこと、考えたこと、改善点をレポートにまとめる</p>
10	中西	<p>【授業内容】健康診断の各種検査項目の測定方法や保健調査・問診票、健康診断表の記入を通して、情報収集や活用方法等について理解を深める。</p> <p>【授業方法】健康診断の年間計画、検査項目(身長、体重、視力、聴力、脊柱側弯、四肢の状態等)、保健調査・問診票、健康診断表の記入の実習を行う</p>	<p>(予習：1時間)学校における健康診断の意義、内容、学齢期によくみられる疾病について調べておく</p> <p>(復習：1時間)健康診断の事後措置及び健康教育への活用について実習を踏まえてまとめる</p>
11	中西	<p>【授業内容】応急手当(傷、止血、けが、熱傷、骨折、捻挫、打撲、熱中症等)、搬送法、心肺蘇生法(CPR)、AED等について実習を通して理解を深める</p> <p>【授業方法】学校における救急処置について、包帯、担架、毛布、心肺蘇生モデル、エピペン練習モデル等を用いて実習を行う</p>	<p>(予習：1時間)学校における救急処置の意義、内容、学齢期によくみられるケガについて調べておく</p> <p>(復習：1時間)学校における救急体制のあり方について実習を踏まえてまとめる</p>

12	中西	<p>【授業内容】健康相談（児童生徒、職員）の進め方について事例を通して理解を深める</p> <p>【授業方法】健康相談の支援計画の作成方法およびカウンセリングの基礎技術について解説し、グループに分かれて演習、振り返りを行い、発表する</p>	<p>（予習：1時間）健康相談のプロセスについて調べる</p> <p>（復習：1時間）模擬事例研究を通して理解できたことを整理しまとめる</p>
13	中西	<p>【授業内容】保健教育、安全教育にかかわる啓発活動（保健指導案・安全指導案、ポスター・保健だより作成等）について実習を通して理解を深める</p> <p>【授業方法】指導案、生活習慣病（喫煙、飲酒、肥満等）、災害安全（津波、心のケア等）の啓発資料の作成方法を習得し、成果物を発表し全体で協議を行う</p>	<p>（予習：1時間）テーマの選定と保健指導案、安全指導案、啓発資料の作成に必要な資料を収集しておく</p> <p>（復習：1時間）保健・安全指導案、啓発資料の作成方法、留意点についてまとめる</p>
14	大久保 （松山 中西）	<p>【授業内容】本実習のまとめこれまでの実習内容について、担当教員に質問や相談をし理解を深め、課題対策をする</p> <p>【授業方法】これまで配布された資料を持参し、振り返りを行い、総括の実習レポートを作成する</p>	<p>（予習：1時間）これまでのすべての配布資料を見て、実習を振り返り、疑問点等を整理しておく</p> <p>（復習：1時間）教員からの回答内容等を理解し、配布資料の整理を行う</p>
		定期試験を実施しない	

授業科目名	【新カリ】環境衛生学		授業形態	
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	久保原 禪			
科目担当者	久保原 禪			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。日常生活や健康に影響を及ぼす物理学的、化学的、生物学的要因等について学ぶ。また、体や体を構成する組織と細胞の機能について学びながら、様々な感染症や生活習慣病などの病気に関する理解を深める。さらに、働く人々の安全と健康を守り、快適職場形成のための仕組みや方法について、労働基準法と労働安全衛生法を参照しながら学修する。衛生管理者の役割についても理解を深め、職業性疾病の成因や対策を知り、予防についても考えるなど、広い視野からこれからの産業保健について理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.健康を保持/促進するための具体的方法を理解する。 2.私たちの体の機能と、感染症や生活習慣病などの疾病の仕組みを説明できる。 3.職業性疾病（職業病）について理解する。 4.健康促進のための社会制度などについて理解する。 5.実社会の様々な労働（衛生）環境を理解する。 6.労働基準法と労働安全衛生法の重要部分について理解する。 <p>7.第一種衛生管理者の活動（主に、作業環境</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業への取組み姿勢と出席率を査定する（平常点）。 2.健康を保持/促進するための方法に対する理解度を評価する（定期試験）。 3.代表的な感染症、生活習慣病、職業病についての理解度を評価する（定期試験）。 4.健康促進のための各種社会制度、並びに労働基準法と労働安全衛生法に対する理解度を評価する（定期試験）。 5.第一種衛生管理者の活動・役割に対する理解度を評価する（定期試験）。 <p>【成績評価の方法】 平常点20%、定期試験80%の結果によって評価する。合計60%(60点)以上が合格。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 定期試験の結果は希望者があれば個別に開示し、解説や指導を行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.「衛生管理（上）第一種用」（中央労働災害防止協会 編）を教科書として使用する（必ず購入すること）。 2.「衛生管理（下）第一種用」（中央労働災害防止協会 編）と「21世紀の予防医学・公衆衛生」（杏林書院）を参考書として使用する。 3.その他、授業中に適宜資料を配布する。 				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：久保原 祥 E-mail：ykuboha[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：前期期間中の水曜日12:20から13:10 場所：1号館4階1414号室 *上記の時間帯には、予約なしでも質問・相談に応じるが、パッシングしないようにするため、出来るだけ前日までにe-mailで予約をすること。当日の質問・相談は、予約を優先する。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容で構成されている。</p> <p>【その他】 この授業科目は、第一種衛生管理者免許（国家資格）取得のための必修科目です。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 第一種衛生管理者</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：授業のガイダンスと環境衛生学入門。 授業の進め方や成績評価法を理解する。また、「衛生学・公衆衛生学」と「労働衛生管理」について入門的な知識を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 授業の進め方、成績評価の方法、教科書の予習・復習のやり方等を解説する。また、プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 衛生・公衆衛生、ならびに労働衛生管理とは何か、教科書を読んで予習しておく。</p> <p>（復習：2時間） 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
2	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：健康科学研究法と人口統計/衛生統計。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 人口統計や衛生統計について教科書に載っているデータをチェックしておく。</p> <p>（復習：2時間） 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
3	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：環境と健康1。 各種臓器の特徴と疾病、日常の健康管理について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 各種臓器の特徴と臓器別疾病の特徴、さらに健康管理/健康教育の意義などについて、教科書を中心に予習しておく。</p> <p>（復習：2時間） 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
4	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：環境と健康2。 健康への環境の影響と、環境影響の評価法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 有害物質、有害環境の生体への影響と、有害環境の評価法について、教科書を中心に予習しておく。</p> <p>（復習：2時間） 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>

5	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：ライフサイクルと健康。 ライフサイクルと年齢層別の健康や健康をサポートする公的 制度等について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講 義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>ライフサイクルと健康について、教科書を中心に 予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
6	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：衛生管理者の役割。 衛生管理者の役割と我が国の 労働衛生環境について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講 義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>衛生管理者の役割について、教科書を中心に予習 しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
7	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：労働衛生管理体制。 労働衛生管理体制（安全衛生 管理委員会、リスクアセスメン ト他）について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講 義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>労働衛生管理体制について、教科書を中心に予習 しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
8	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：作業環境要素と作業環 境管理。 一般作業環境と有害作業環境 、作業環境管理の意義と目的等 について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講 義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>作業環境要素と作業環境管理について、教科書を 中心に予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
9	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：職業性疾病 1。 職業と健康、物理的要因・化 学的要因による健康障害につい て学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講 義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>職業性疾病（左記の授業内容）について、教科書 を中心に予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
10	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：職業性疾病 2。 生物学的要因による健康障害 、作業要因（VDT作業、心理的 負荷、夜勤他）による健康障害 等について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講 義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>職業性疾病（左記の授業内容）について、教科書 を中心に予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>

11	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：職業性疾病 3。 ストレスと精神衛生、職場におけるメンタルヘルス、心と体の健康づくりの意義等について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>職業性疾病(左記の授業内容)について、教科書を中心に予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
12	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：作業管理。 作業管理の目的と意義、労働衛生保護具等について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>作業管理について、教科書を中心に予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
13	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：健康管理。 健康管理の意義と目的、様々な医学的検査項目の意味、各種健康診断の内容と関連法律等について解説する。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>健康管理の意義と目的、各種医学的検査、各種健康診断などについて教科書で予習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 教科書や配布プリントの内容を復習する。</p>
14	久保原	<p>【授業内容】 テーマ：これからの環境衛生・労働衛生。 これまで授業で学んだことを整理する。また、今後の環境衛生・労働衛生関連の課題・解決法等について考察する。</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：4時間)</p> <p>我が国の今後の環境衛生・労働衛生に関わる課題について予習、考察しておく。</p> <p>(復習：4時間) これまで授業で学んだことについて、教科書と配布プリントの内容をもう一度復習する。定期試験に備える。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】環境衛生学実習		授業形態	
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	久保原 禪			
科目担当者	久保原 禪、大久保 菜穂子、佐々木 啓			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。生活環境や労働環境における汚染物質の検出や定量、水質検査、騒音の測定等、環境管理に必要な様々な測定法と評価法を学ぶ。また、それら測定/評価結果に基づいた環境改善策を考える内容とする。さらに、学外の複数企業を見学し、現場の専門家による「衛生管理」に関する実習を行う。また、中央労働災害防止協会からゲスト講師を招き、現在労働衛生で問題となっている課題を解決するための取り組みについて学修する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境中の汚染物質やその代謝産物等を評価（測定/定量）するための理論と方法を理解できる。 2. 生活環境や労働環境の改善の重要性を理解できる。 3. 企業や労働環境における安全管理や衛生管理の実態と問題点/課題について理解する。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境中の汚染物質やその代謝産物等を評価（測定/定量）するための理論と方法を理解している。 2. 生活環境や労働環境の改善の重要性を理解している。 3. 企業や労働環境における安全管理や衛生管理の実態と問題点/課題について理解している。 <p>【成績評価の方法】</p> <p>毎回の授業取組み20%、及びレポート提出とその内容完成度を80%として行う。合計60%（60点）以上が合格。なお、止むおえない理由で見学会を欠席する場合には、追加レポートを提出して補う。レポートの作成期間は原則一週間であり、提出の遅延は減点の対象とする。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <p>施設見学では危険な場所や機材等もあるので、現場の担当者や教員の指示に従うこと。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>毎回実習後（一週間以内）に提出するレポートは、採点后、コメント等を付けて返却する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>実習用のテキストは実習開始時に配布する。レポート作成のための参考書としては、「新しい環境衛生」（南江堂）（図書館にある）、「衛生管理（上、下）」（中央労働災害防止協会）を用いる</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当：久保原禪</p> <p>E-mail：ykuboha[at]juntendo.ac.jp</p> <p>*[at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>月曜日14:00~16:00（1号館4階1414、あるいは1409 健康生命科学）</p>				
備考				
<p>【学修時間】</p> <p>この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>この授業科目は、第一種衛生管理者の必修科目です。</p>				
授業計画 【授業内容と準備学修等】				
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）	

1・2	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「衛生管理者」の役割や関連法令を解説し、実習全体の流れや注意事項について理解する</p> <p>【授業方法】 本実習のテキストを配布し、実習全体の流れ、注意事項、レポートの作成法、評価法等を解説する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>社会を取り巻く様々な環境要因から、主に物理的・化学的要因が及ぼす影響を考えておく。</p> <p>(復習：1時間) 実習では様々な器具や試薬を使うので、その仕組み等について予習する。</p>
3・4	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「温熱条件」に関する理解を深め、温熱条件の評価を実施する。</p> <p>【授業方法】 温熱条件とその評価/測定方法について解説する。実際に温熱条件を測定する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて温熱条件について予習する。</p> <p>(復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
5・6	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「空気の汚染」に関する理解を深め、空気汚染の評価を実施する。</p> <p>【授業方法】 空気汚染の指標(有毒ガス等)とその評価/測定法について解説する。実際にいくつかの指標に関して評価/測定する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>空気汚染の指標とその測定法についてテキストと参考書を予習する。</p> <p>(復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
7・8	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「騒音」に関する理解を深め、騒音の評価を実施する。</p> <p>【授業方法】 騒音とその評価/測定法について解説する。実際に複数の場所で騒音を評価/測定する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて騒音について予習する。</p> <p>(復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
9・10	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 身近な細菌について理解を深め、それらの検出を実施する。</p> <p>【授業方法】 食品や体表面などに生息する細菌とそれらの検出法について解説する。実際に環境中の細菌を検出する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて、身近な環境中の細菌について予習する。</p> <p>(復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
11・12	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「水質検査」について理解を深める。(水質検査1)</p> <p>【授業方法】 環境中の水質検査の項目(細菌、残留塩素、窒素化合物等)やそれらの評価/検査方法について解説する。 実際に、プール水と水道水を用いて、それらの水質検査を実施する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて、環境中の水質と健康被害等について予習する。</p> <p>(復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>

13・14	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 前回に続いて、「水質検査」についてさらに理解を深める。(水質検査2)</p> <p>【授業方法】 環境中の水質検査の項目(塩素イオンや有機物等)やそれらの評価/検査方法について解説する。実際に、プール水と水道水を用いて、それらの水質検査を実施する。</p>	<p>(予習：X時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて、環境中の水質と健康被害等について予習する。 (復習：X時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
15・16	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 前回に続いて、「水質検査」についてさらに理解を深める。(水質検査3)</p> <p>【授業方法】 環境中の水質検査の項目(残留塩素濃度の経時変化等)やそれらの評価/検査方法について解説する。実際に、プール水と水道水を用いて、それらの水質検査を実施する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて、環境中の水質と健康被害等について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
17・18	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「照明」の重要性と測定法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日常生活や労働環境における照明(自然照明と人工照明)の意義とそれらの評価/測定法について解説する。実際に屋外と屋内の照明を測定する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて、日常生活や職場における照明の意義と健康との関係について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
19・20	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 「環境中の放射線」について理解を深め、放射線を検出する。</p> <p>【授業方法】 放射線とは何か、放射線による健康被害について解説する。実際に、キャンパス内で放射線量を測定する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>テキストと参考書を用いて、放射線とは何か、放射線による健康被害について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。</p>
21・22	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 外部工場の見学または映像による授業。</p> <p>【授業方法】 現場の担当者から安全衛生管理の説明を受ける。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>製造業の衛生管理/労働災害について調べてくること。 (復習：1時間) 施設見学に関するレポートを作成する。</p>
23・24	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 外部工場の見学または映像による授業。</p> <p>【授業方法】 現場の担当者から安全衛生管理の説明を受ける。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>有機溶媒や暑熱環境での衛生管理/労働災害について調べてくること。 (復習：1時間) 施設見学に関するレポートを作成する。</p>
25・26	久保原・佐々木	<p>【授業内容】 外部工場の見学または映像による授業。</p> <p>【授業方法】 現場の担当者から安全衛生管理の説明を受ける。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>食品産業における労働環境の衛生管理について予習する。 (復習：2時間) 授業中、班ごとに調べ、討議した内容をレポートにする。</p>

27・28	久保原・ 佐々木	<p>【授業内容】 職場における心と体の健康づくりの意義と目的、「産業保健」、「衛生管理」に関する現在の問題と課題について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 現場で指導されている中央労働災害防止協会の先生方から解説して頂く。</p>	<p>(予習：X時間) 職場において問題となるメンタルヘルスケア対策の意義について調べておく。</p> <p>(復習：X時間) 講義終了時にレポート課題を出すので取り組むこと。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】運動処方演習		授業形態	演習
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	河村 剛光			
科目担当者	大西 朋、河村 剛光、染谷 由希			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 健康・体力の維持増進のための運動療法導入を安全かつ効果的に行うために、運動処方の理論と実際を理解し、体得する。インスタントシニアを用いて高齢者体験を行い、高齢者の運動処方に必要な項目について体験を基に検討する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」「対人調整力・コミュニケーション力・スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を応用し表現する能力」「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」という学位授与方針に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 ・インスタントシニアを用いて、高齢者に対する実際の運動処方について必要な知識を体得する。 ・生活習慣病やロコモティブシンドローム、循環器疾患に関する知識を復習する。 ・生活習慣病やメタボリックシンドローム罹患患者に対しても運動処方を作成できる。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 ・課題に対して、適切な運動処方をできているか（課題発表）。 ・わかりやすいプレゼンテーションができているか（課題発表）。 ・現状での問題点について具体的に示すことができ、対応を考察できているか（ディスカッション、課題発表）。</p> <p>【成績評価の方法】 課題に対するレポートおよびプレゼンテーション（80%）、授業態度（20%）</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 運動処方に携わる仕事を目指している人。健康運動指導士を目指している人。 〔履修上の注意（科目独自のルール）〕 課題症例を提示し、その症例に対する運動処方を個人またはチームで話し合い、まとめたものを最終日に発表する。 発表会は数人の講師が採点し、講評する。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>【テキスト・参考書等】 健康運動指導士養成講習会テキスト／財団法人 健康・体づくり事業財団</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】 担当：深尾 宏祐 E-mail：fukao777〔at〕juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 ） 質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 日時：前期期間中の火曜日12:00から17:00、木曜日13:00から17:00 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室 * 授業が無い期間はE-mailで予約すること。</p>				
備考				

【学修時間】
この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業28時間と準備学習32時間の計60時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

[実務経験のある教員による授業]
この科目では、循環器内科医、スポーツドクターとして診療活動の経験を有している教員が、その経験を活かしながら、実践的な知識、技術を用いて講義内容を展開する。

【その他】
健康運動指導士の資格取得には必修です。

授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	深尾、染谷	【授業内容】 オリエンテーション/生活習慣病 1. 運動処方演習の内容とスケジュールの説明 2. 生活習慣病と運動療法 【授業方法】 講義形式	（予習：1時間） 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。生活習慣病についても確認しておく。 （復習：1時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。
2	深尾	【授業内容】 健康運動指導士総論 1. 身体活動について 2. 健康運動指導士とは。 3. 運動処方の実際 【授業方法】 講義形式	（予習：1時間） 健康運動指導士について、調査する。 （復習：1時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。
3	大西	【授業内容】 運動処方概論 1. 予防医学としての運動 2. 年齢、疾患、性別にあった運動処方 【授業方法】 講義形式	（予習：1時間） 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。運動処方の理論を調査する。 （復習：1時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。
4	深尾	【授業内容】 身体活動・運動について 1. 運動の有益性、効果 2. 地域性、対象者のニーズ 【授業方法】 講義形式	（予習：1時間） 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。 （復習：1時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。
5	大西	【授業内容】 高齢者・ロコモティブシンドローム 1. 高齢者の運動 2. ロコモティブシンドローム 【授業方法】 講義形式	（予習：1時間） 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。高齢者の特徴と運動時の注意点について考える。 （復習：1時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。

6	深尾	<p>【授業内容】 循環器疾患・心臓リハビリテーション 1．脳卒中 2．循環器疾患と運動療法 3．心臓リハビリテーション</p> <p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。循環器疾患および心臓リハビリテーションについて調査する。</p> <p>(復習：1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
7	河村	<p>【授業内容】 身体組成 1．体脂肪率 2．医学統計の基礎</p> <p>【授業方法】 講義＋実習形式</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。</p> <p>(復習：1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
8	青木	<p>【授業内容】 体力測定法に関して、概要を説明後、(実習)形式で自ら被検者および検者となり行う。 1．トレーニング場にて体力測定 2．全身持久力、筋力、筋持久力</p> <p>【授業方法】 講義＋実習形式</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>健康運動指導士養成テキストの体力測定法の該当範囲を一読する。</p> <p>(復習：1.5時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
9	深尾	<p>【授業内容】 バイタルサイン測定および心肺運動負荷試験に関して、簡単に説明後、(実習)形式で行う。 1．血圧、脈拍測定 2．運動によるバイタル変化 3．心肺運動負荷試験</p> <p>【授業方法】 講義＋実習形式</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。バイタルサインの重要性を理解する。</p> <p>(復習：1.5時間) 重要ポイント、特に呼気ガス分析に関して復習し、理解を深める。</p>
10	河村	<p>【授業内容】 体力測定法 1．運動能力と健康に関する体力要素 2．測定の正確性、客観性、再現</p> <p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。測定法の基礎について復習する。</p> <p>(復習：1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
11	河村、大西、深尾	<p>【授業内容】 次週からの実習(演習)に関して、講義形式で説明し、準備する。 1．新体カテリスト 2．インスタントシニア</p> <p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習：1.5時間)</p> <p>健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。</p> <p>(復習：1.5時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>

12	深尾、大西、河村、染谷	<p>【授業内容】 新体力テストを（演習）形式で被検者および検者となり体験する。 第2体育館を使用し、ADL、握力、上体起こし、長座体前屈、10m障害物歩行、6分間歩行、インスタントシニアでも行う。</p> <p>【授業方法】 実習</p>	<p>（予習：1.5時間） 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。新体力テストについて復習する。</p> <p>（復習：1.5時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
13	深尾、大西、河村、染谷	<p>【授業内容】 インスタントシニアと題して高齢者を（演習）形式で疑似体験する。 半身麻痺、視力・聴力低下、視野狭窄、難聴、関節障害、筋力低下等を体験する。</p> <p>【授業方法】 実習</p>	<p>（予習：1.5時間） 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。</p> <p>（復習：1.5時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
14	深尾、大西、河村、染谷	<p>【授業内容】 レポート発表会として、それぞれが個人またはチームで討議方式で行う。 指定された症例をもとに適切な運動処方や注意点についてプレゼンテーションする。</p> <p>【授業方法】 実習</p>	<p>（予習：1.5時間） パワーポイント形式で運動処方をまとめて発表する。</p> <p>（復習：1.5時間） 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
		定期試験を実施しない	

授業科目名	【新カリ】教育相談		授業形態	講義・単独
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	村山 憲男			
科目担当者	村山 憲男			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 教育相談の概論を理解するとともに、児童生徒の本質的理解につながる理論や技法を理解することを目的とする。授業では、教育心理学などの知見に基づき、児童生徒の心身のバランスのとれた成長・発達と適応を促し、学校教育現場において児童生徒に起きるさまざまな心の問題や対応していくための実践的な知識と技法を学ぶ。具体的には、前半は児童生徒の不応や問題行動を、後半は主にカウンセリングの基本的な姿勢や技法を取り上げる。また、生徒指導提要のなかでの教育相談の位置づけや、様々な連携についても取り上げる。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 教育相談で用いる理論（不応や問題行動を含む）を理解し説明できる。 2. カウンセリングの理論や技法を理解し実践できる。 3. 教育相談の位置づけや様々な連携について理解し説明できる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 教育相談で用いる理論（不応や問題行動を含む）を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 2. カウンセリングの理論や技法を理解し実践できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 3. 教育相談の位置づけや様々な連携について理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 4. 授業中の発言や予習・復習の取組状況によって受講態度を評価する。（定期試験・授業内試験・レポート）</p> <p>【成績評価の方法】 定期試験（70%）、授業内試験・レポート・平常点（30%）。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 ノートを必ず持参すること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業で解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 生徒指導提要（平成22年 文部科学省） 特にないが、ノートを必ず持参すること。資料等は必要に応じて適宜配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：村山憲男 E-mail：n-murayama@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：月曜日12:10から12:45 場所：授業内で伝達する。 他の学生の相談時間と重複しないようにするため、できるだけ前週までにE-mailで予約すること。</p>			
備考				

【学修時間】
この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。

【実務経験のある教員による授業科目】
臨床心理士・公認心理師として、総合病院や精神科クリニックにて、15年程度の実務経験がある。また、現在は学生相談なども担当している。授業では、これらで得られた生きた知見を紹介する。

【その他】
中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目
科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
（中学校及び高等学校 保健体育）
施行規則に定める科目区分又は事項等：
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	村山	【授業内容】 オリエンテーションとして、授業の目的と概要、成績評価、履修上の注意について説明する。 また、教育相談の全体像について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。	(復習：2時間) 教育相談の全体像について、学んだ知識を整理しておく。
2	村山	【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動として、障害全般の基本的知識や問題、および、統合失調症について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。	(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 障害全般の基本的知識や問題、統合失調症について、学んだ知識を整理しておく。
3	村山	【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動として、自閉スペクトラム症や他の発達障害について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。	(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 自閉スペクトラム症や他の発達障害について、学んだ知識を整理しておく。
4	村山	【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動として、感情障害やパーソナリティ障害について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。	(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 感情障害やパーソナリティ障害について、学んだ知識を整理しておく。
5	村山	【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動として、児童生徒、および、ときに保護者にも関係する他の精神障害について解説する。 【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。	(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 児童生徒、および、ときに保護者にも関係する他の精神障害について、学んだ知識を整理しておく。

6	村山	<p>【授業内容】 授業内試験・レポートにより到達度を確認するとともに、知識をより定着させたものにする。</p> <p>【授業方法】 第1～5回目までの内容に関する授業内試験・レポートを行い、この授業内で解説する。</p>	<p>(予習：4時間)</p> <p>これまでの内容を体系的に整理するとともに、授業内試験・レポートに向けて知識を確実にしておく。</p> <p>(復習：3時間) 間違えた内容を中心に、理解・記憶を確実にする。</p>
7	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの基本的姿勢のほか、心理学に係るこれまでの授業の復習を含めて、必要な理論・概念を整理する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) カウンセリングの基本的姿勢などについて、学んだ知識を整理しておく。</p>
8	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法として、来談者中心療法を中心に、実践で役立つ具体的な技法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 来談者中心療法を中心に、実践で役立つ具体的な技法について、学んだ知識を整理しておく。</p>
9	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法として、来談者中心療法以外（たとえば精神分析など）での具体的な技法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 来談者中心療法以外（たとえば精神分析など）での具体的な技法について、学んだ知識を整理しておく。</p>
10	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法として、保護者等に対する面談にも役立つ具体的な技法（アサーション）について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 保護者等に対する面談にも役立つ具体的な技法（アサーション）について、学んだ知識を整理しておく。</p>
11	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法として、児童生徒の発達に合せた相談について、具体的な進め方や注意点などを含めて解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 児童生徒の発達に合せた相談について、学んだ知識を整理しておく。</p>
12	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要をもとにして、教育相談の学校のなかでの役割や組織作りなどを解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 生徒指導提要をもとにして、教育相談の学校のなかでの役割や組織作りなどについて、学んだ知識を整理しておく。</p>

13	村山	<p>【授業内容】 教育相談はもちろん、生徒指導や、キャリア教育などにおける他職種・他機関などとの連携について、進め方や注意点を含めて解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。</p> <p>(復習：2時間) 他職種・他機関などとの連携について、学んだ知識を整理しておく。</p>
14	村山	<p>【授業内容】 授業内試験・レポートにより到達度を確認するとともに、知識をより定着させたものにする。</p> <p>【授業方法】 第7～13回目までの内容に関する授業内試験・レポートを行い、この授業内で解説する。</p>	<p>(予習：4時間) これまでの内容を体系的に整理するとともに、授業内試験・レポートに向けて知識を確実にしておく。</p> <p>(復習：3時間) 間違えた内容を中心に、理解・記憶を確実にする。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】精神保健学		授業形態	
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	黄田 常嘉			
科目担当者	黄田 常嘉 松山毅			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。保健体育教諭，特別支援学校教諭などを目指す学生にとって，基本的な精神保健，精神医学の知識を獲得することを目標とする。また学生生活を送るために必要な，精神保健の知識と，精神的な問題への具体的な対応方法を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式 / 全14回）</p> <p>（6黄田 常嘉 / 10回）</p> <p>精神保健，精神医学的な知識（生物 - 心理 - 社会的な見方）を理解するとともに，生徒や障害者が悩みを自身の言葉で伝えてくることに対応できるスキル（じっくり聴き，同時に自分自身で整理してまとめ記述する力）の重要性について理解を深める。</p> <p>（30 松山毅 / 4回）</p> <p>学校教育の課題と精神保健（いじめ，不登校，自殺，暴力問題など教育現場における精神保健の課題，教職員のメンタルヘルス支援やスクールソーシャルワーク），社会的ひきこもりと精神保健（ひきこもりの現状，原因の理解と，支援の仕組み，及び精神保健福祉の役割），多様性・共生社会と精神保健（性別違和，更生保護，累犯障害者，ホームレス，外国人など現代社会の問題と精神保健福祉の関係性），災害とソーシャルワーク（災害時における精神保健的課題と支援の仕組み）について理解を深める。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <p>筆記試験においては、講義で学んだ内容をどの程度理解できているか、自身の大学生生活、今後の社会生活に応用できる程度の知識を獲得しているかを評価する。社会における精神保健、精神医学の現状、問題点についても関心を持てる資質のための最低限の精神科医療の知識が身についているのか評価する</p> <p>【成績評価の方法】</p> <p>評価は、筆記試験(90%)と授業態度・取り組む姿勢(10%)で行う。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし</p> <p>[履修上の注意]</p> <p>講義にはスマホなど、インターネットが繋げるツールを持参していただきたい。講義の冒頭に示すキーワード、キーセンテンスを自身の手で調べていただき、関心を高める時間を設ける。講義は「精神保健」について最低限の知識を提供するのみである。最も大切なことは、学んだことを自分なりにまとめなおすことである。講義の最後に、自身がさらに興味・関心を持ってまとめる時間を作る。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>2/3以上の出席ができない場合は、個別にレポート課題を課する</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>これならわかる！精神医学（史上最強図解）</p>				
連絡先とオフィスアワー				

【連絡先】 担当：黄田 常嘉まで E-mail： 【オフィスアワー】 月曜日 4限 木曜日 2限 備考			
【学修時間】 この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する [実務経験のある教員による授業] 科目責任者 黄田 常嘉は、精神科医師として、診療活動、産業医業務の経験を有している。その経験を活かしながら、精神科医療、精神保健における実践的な講義内容を展開する。			
【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 第一種衛生管理者			
授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	黄田 常嘉	【授業内容】 オリエンテーション： 精神科医である教員の自己紹介 精神医学の諸問題の紹介 【授業方法】 スライド提示	（予習：15時間） 最近の事件などで、精神保健、精神医学的な問題を含むものを調べる （復習：1時間）
2	黄田 常嘉	【授業内容】 自殺について理解する 自殺を巡る精神科医療、社会的問題、法律を理解する 【授業方法】 スライド提示	（予習：1時間） キーワードをインターネットなどで興味を持ち、検索する。 （復習：1時間） キーワード：厚生労働省自殺統計、自殺対策基本法、いのちの電話 ゲートキーパー
3	黄田 常嘉	【授業内容】 精神科医療と法律について理解する 精神障害者の処遇と倫理について考える 【授業方法】 スライド提示	（予習：1時間） キーワードをインターネットなどで興味を持ち、検索する。 （復習：1時間） キーワード：精神保健福祉法、医師法、憲法11条

4	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 こころとは何か、健康とは何かを考える。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p> <p>【授業内容】 精神保健の歴史 西洋の精神保健の歴史を通して、人間がこころをどのように捉えてきたかを理解する。 日本の精神保健の歴史を通して、日本人がこころをどのように捉えてきたかを理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>キーワード；WHOの健康の定義、精神保健の定義 キーワード；ヒポクラテス、ピネル、クレペリン、フロイト、 精神保健福祉法、障害者自立支援法（障害者総合支援法）</p>
5	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 ライフサイクルと発達課題： ライフサイクルと発達課題の意味、内容を理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>キーワード；乳児期、幼児期、学童期、基本的信頼感、脳の発達、神経系の発達、運動能力の発達、言葉の発達 思春期、青年期、成人期、老年期、性の概念、自己同一性、職業選択、結婚、老化、死の受容</p>
6	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生活と精神保健（1）： 摂食障害についての理解を深める。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>キーワード；摂食障害、過食症、拒食症</p>
7	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生活と精神保健（2）： アルコールの問題について理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>一気飲み、アルハラ、急性アルコール中毒、アルコール関連疾患、アルコール依存、離脱症状</p>
8	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生活と精神保健（3）： 薬物使用と薬物依存の問題を考える。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>キーワード；依存薬物、依存薬物の種類、依存薬物の作用、大麻、有機溶剤、覚せい剤、麻薬、睡眠薬、危険ドラッグ</p>

9	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生生活と精神保健（４）： 神経症などの問題を理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義</p>	<p>（予習：1時間） キーワードを調べておくこと</p> <p>（復習：1時間） キーワード； パニック障害、強迫症状、心気症状、不安症状</p>
10	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生生活と精神保健（５）： うつ病の問題について理解する。 。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義</p>	<p>（予習：1時間） キーワードを調べておくこと</p> <p>（復習：1時間） キーワード；うつ病の診断基準、うつ病の原因、 予防、経過、治療、メランコリー親和型性格</p>
11	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 アスリートと精神保健（１）： 大学生生活と競技生活の共存が 抱える問題について考える。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義</p>	<p>（予習：1時間） キーワードを調べておくこと</p> <p>（復習：1時間） キーワード；大学生アスリート、学生生活、認知 行動療法</p>
12	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 アスリートと精神保健（２）： アスリート・バーンアウトにつ いて理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による 講義</p>	<p>（予習：1時間） キーワードを調べておくこと</p> <p>（復習：1時間） キーワード；メランコリー親和型、ストレス、バ ーンアウト、コーピング、オーバートレーニング 症候群とうつ病</p>
13	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 1精神科医である教員の雑感に 耳を傾ける 精神障害者の抱える社会的諸問 題を意識する</p> <p>【授業方法】 スライド提示による講義</p>	精神科医療と現代社会の問題について興味を持つ
14	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 総括</p> <p>【授業方法】 テスト対策</p>	<p>授業のまとめ</p> <p>（復習：20時間） 試験対策</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】労働基準法		授業形態	
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	八木 直樹			
科目担当者	八木 直樹			
授業概要				
【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。働く人にとって最も大切な労働基準法を中心とした労働関係法令を学び、専門的知識と具体的課題に的確に対応できる実践的思考力の修得を目標とする。また、誰もが健康で無理なく働ける「一億総活躍社会」の形成に向けた取り組みとして施行される「働き方改革法案」についても学修する。				
【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
【授業の到達目標】 1 労働基準法等の関係法令の目的や基礎的概念及び基本的条文の説明ができる。 2 具体的事案に関し、関係法令に照らした的確な論点整理ができる。 3 労使の立場の相違を理解し、関係法令の基本的な条文等を踏まえた問題解決のため助言ができる。				
成績評価				
【成績評価の基準】 1 労働基準法等の関係法令の目的や基礎的概念及び基本的条文の説明ができる。（定期試験、平常点） 2 具体的事案に関し、関係法令に照らした的確な論点整理ができる。（定期試験、平常点） 3 労使の立場の相違を理解し、関係法令の基本的な条文等を踏まえた問題解決のため助言ができる。（定期試験、平常点）				
【成績評価の方法】 平常点（授業内での発言回数・内容、「振り返り票」の記載内容）（40%）、定期試験（60%）を総合して評価する。				
履修における留意事項				
【履修要件】 特になし				
〔履修上の注意（科目独自のルール）〕 事前に「欠席届」が提出された場合は、成績評価に際して考慮する。事後の「欠席届」は、原則として無効とする。但し、遅延に相当の理由が認められた場合（必ず「欠席届」に遅延理由を記載すること）は考慮する。				
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 任意に提出を求める授業の「振り返り票」に記載された質問等については、次回の授業において、可能な範囲で回答する。「定期試験」については、要望により個別に解説する。				
【テキスト・参考書等】 「やさしい職場の人事労務と安全衛生の基本」公益社団法人 全国労働基準関係団体連合会 発行 指定テキストは各回の授業の予習に使用すること。また授業においては、適宜参照するので必ず持参すること（平成31年3月10日発行のもの）				
連絡先とオフィスアワー				
【連絡先】 担当：八木 直樹 E-mail：yagin@yagiroumukansa.jp [at] を@に置換してください。				
【オフィスアワー】 日時：授業前後の時間 場所：1号館2階 非常勤講師室 （できるだけ事前にメールで予約してください。）				
備考				

【学修時間】
この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

〔実務経験のある教員による授業〕
労働基準監督官・特定社会保険労務士・労働衛生コンサルタント等の業務経験に基づき、労働基準法を始めとする労働法規の要諦を労働現場の実態に即してわかりやすく解説します。

【その他】
この科目は、第1種衛生管理者の資格付与の要件となっています。そのため、衛生管理者の職務遂行に必要な労働安全衛生法等についても体系的に学習します。
この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
第一種衛生管理者

授業計画 【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働基準法の歴史 法律の体系、労働関係法令の目的や特徴について説明し、今日的な課題について検討する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 昨年成立した「働き方改革法案」の概要について調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリントを読んでおくこと。</p>
2	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働契約の成立 求人・求職活動から労働契約の締結までの法的過程を順を追って説明する。「内定」の法的効果について考えてもらう。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントと指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「労働契約」とはどのような契約であるか、どのように成立するのか説明できるよう調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと。</p>
3	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働条件の明示 労働契約上重要な「労働条件」は何かを検討し、労基法上の関係規定を説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントと指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「労働契約」と「労働条件」の関係について、説明できるよう調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
4	八木	<p>【授業内容】 テーマ：就業規則と労働契約 就業規則の必要性と労働条件の管理について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントと指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「就業規則」に関する法的規制について調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>

5	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働時間、休憩、休日 労働時間の基本的な設定方法や労働時間管理の重要性や方法について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>予習：2時間） 「労働時間・休憩・休日」の法的な定義について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
6	八木	<p>【授業内容】 テーマ：変形労働時間制、時間外休日労働 労働時間の具体的な設定方法や時間外手当の計算方法等について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「時間外労働」と「休日労働」の法的要件について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
7	八木	<p>【授業内容】 テーマ：休暇・休業 年次有給休暇を中心に、休暇制度や管理の方法について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「休暇」と「休業」の相違について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
8	八木	<p>【授業内容】 テーマ：賃金 「賃金」と労働時間の関係や支払い原則、計算方法等について説明する。欠勤控除に係る演習を行う。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「賃金」に係る法規制について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
9	八木	<p>【授業内容】 テーマ：退職・解雇 「退職・解雇」に係る法規制の目的や内容について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「退職・解雇」に係る法規制について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
10	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働安全衛生一般 労働災害防止の取り組みの歴史と労働安全衛生法の目的や概要について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） 「労働安全衛生法」では、どのような事項について規制しているかを調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>

11	八木	<p>【授業内容】 テーマ:労働衛生3 管理 産業保健における職場での「衛生3 管理」について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習:2時間) 「衛生3 管理」について調べておくこと。</p> <p>(復習:2時間) 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
12	八木	<p>【授業内容】 テーマ:労働衛生の現状と課題 産業社会における労働衛生上の課題や職場における課題解決の取り組みについて検討する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習:2時間) 「産業関連疾患」について調べておくこと。</p> <p>(復習:2時間) 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
13	八木	<p>【授業内容】 テーマ:労災補償制度 労災保険法の目的や概要及び事業者の民事補償責任について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習:2時間) 「労働者災害補償保険法」では、どのような補償が行われるかを調べておくこと。</p> <p>(復習:2時間) 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
14	八木	<p>【授業内容】 テーマ:雇用機会均等法・非正規労働者対策・紛争解決制度 関係法令の概要やを説明し、今後の取り組みの必要性について検討する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習:2時間) 「雇用機会均等法・非正規労働者問題・紛争解決制度」について調べておくこと。</p> <p>(復習:2時間) 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツマネジメント		授業形態	講義（オムニバス）
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	小笠原 悦子			
科目担当者	小笠原悦子、黒須充、工藤康宏、水野基樹、木藤友規、渡正			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」といった経営資源の側面からマネジメントできる能力を醸成することを目指す。様々なマネジメントの考え方がスポーツに応用されている中、スポーツ特有のマネジメントを行う必要性とその方法について学ぶ。具体的には、スポーツマネジメントと社会との関係について主要なトピックを取り上げ、多彩な観点から学び、実学としてのスポーツマネジメントを学修する。</p> <p>（オムニバス方式 / 全14回）</p> <p>（24 工藤康宏 / 1回） 授業の進め方などについてガイダンスを行うとともに、スポーツマネジメントと社会の関係について理解する。</p> <p>（51 渡正 / 2回） レジャー・レクリエーションがどのように私たちの社会の中で誕生したのかについて検討し、レジャー概念について考える。レジャーを支える消費社会について、「顕示的消費」などの様々な概念を紹介しながら、レジャー・レクリエーションの在り方を考える。</p> <p>（5 黒須充 / 3回） 生涯スポーツ社会を実現するための重点施策の一つである総合型地域スポーツクラブについて、スポーツマネジメントの視座から分析する。また、ヨーロッパ諸国、北米・南米のスポーツ政策を取り上げ、各国の比較考察を行う。</p>				
成績評価				

<p>【成績評価の基準】 1. スポーツマネジメントと社会の関係について理解している。(定期試験) 2. レジャー・レクリエーションと社会の関係について理解している。(定期試験) 3. 総合型地域スポーツクラブや欧米のスポーツ政策について説明できる。(定期試験) 4. 女性スポーツの歴史と課題、国際スポーツ組織の現状と課題について把握している。(定期試験) 5. スポーツ政策についての歴史と現状の課題について把握している。(定期試験) 6. スポーツ組織におけるマネジメントやガバナンス、リーダーシップとの関係について理解している。(定期試験) 7. 授業中の発言、グループワークの取り組みなどによって、受講態度を評価する(平常点)</p> <p>【成績評価の方法】 平常点(30%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。</p>		
履修における留意事項		
<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 授業やレポートにおけるコメントを通してフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は、授業中に、適宜配布します。</p>		
連絡先とオフィスアワー		
<p>【連絡先】 小笠原悦子 E-mail : eogasawa[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 黒須 充 E-mail : mkurosu[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 工藤康宏 E-mail : ykudou[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 水野基樹 E-mail : mtmizuno[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 木藤 友規 E-mail : t.kito[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 渡 正 E-mail : t-watari[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください)</p> <p>【オフィスアワー】 小笠原悦子 日時：火曜日 2限目 場所：1号館3階1329室 黒須 充 日時：前期火曜日12:10～12:50、水曜日13:00～16:00、木曜日12:10～12:50 場所：1号館3階1323室 工藤康宏 日時：前期火曜日 16:30～17:30 前期木曜日 13:00～14:00 後期金曜日 13:00～14:00 場所：1号館3階1322室 水野基樹 日時：月曜日10:00～12:00、火曜日15:00～16:00 場所：1号館3階1320室 木藤 友規 日時：前期月曜日13:00～13:30、後期金曜日12:30～13:00 場所：1号館4階1403室 渡 正 日時：月曜日13:00～14:30 場所：1号館3階1321室</p> <p>上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。</p>		
備考		
<p>【学修時間】 この授業は、講義及びグループディスカッション・オムニバスの授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 現役行政書士及びスポーツマネジメント実務者が、スポーツに関する法律や制度、政策、マネジメント分野において実際に担当した事案等を交えて講義する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0(日本スポーツ協会)公認スポーツ指導者資格 共通科目 . .</p>		
授業計画 【授業内容と準備学修等】		
授業回数	担当	授業内容(授業方法を含む) 準備学修(予習・復習)の内容、必要時間(レ-

1	工藤	<p>[授業内容] 授業の進め方などについてガイダンスを行うとともに、スポーツマネジメントと社会の関係について概説する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) これまでに履修したスポーツマネジメント関連の授業のテキストや資料に目を通しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
2	渡	<p>[授業内容] レジャーの誕生：レジャー・レクリエーションがどのように私達の社会の中で誕生したのかについて、1)近代社会の成立、2)近代社会における生活の変化の視点から検討しレジャー概念について考える。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) レジャー・レクリエーションが果たした役割と影響について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
3	渡	<p>[授業内容] レジャーを支える消費社会：S・ヴェブレンの「顕示的消費」やJ.ボードリヤールの「シミュラクル」概念や「消費社会」における「記号消費」など概念を紹介しながら1980年代以降のレジャーの拡大と現代におけるレジャー・レクリエーションのあり方を考える。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 現代におけるレジャー・レクリエーションのあり方について考えておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
4	黒須	<p>[授業内容] 生涯スポーツ社会を実現するための重点施策の一つである総合型地域スポーツクラブについて、1)財源マネジメント、2)施設マネジメント、3)人財マネジメント、4)事業マネジメント、5)ネットワークマネジメント、6)組織マネジメント、7)ミッションマネジメントなど、スポーツマネジメントの視座から分析する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 総合型地域スポーツクラブについてについて調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>

5	小笠原	<p>[授業内容] 女性とスポーツ：女性スポーツの歴史とその発展の課題について学修する。女性が初めてオリンピック参加した当時からおよそ120年を経て男女同数の参加率に到達するまでの歴史的背景を学修する。女性アスリートを支援するために身体生理的課題、心理社会的課題、組織環境的課題について学修する。スポーツにおける指導者の立場に立つ女性の増加に必要な要因について学修する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 女性とスポーツの関係について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
6	木藤	<p>[授業内容] 「政策とは何か」という基本的な内容から学修を進め、我が国の統治構造の中で体育・スポーツ行政を所掌する行政機関及び体育・スポーツ活動に対する行政活動がどのように変化してきたかについて学ぶ。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) スポーツにおける政策が果たした役割と影響について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
7	木藤	<p>[授業内容] 「政策とは何か」という基本的な内容から学修を進め、我が国の統治構造の中で体育・スポーツ行政を所掌する行政機関及び体育・スポーツ活動に対する行政活動がどのように変化してきたかについて学ぶ。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) スポーツにおける政策が果たした役割と影響について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
8	木藤	<p>[授業内容] 「スポーツの価値」に関する資料をもとに、実際のスポーツ政策と比べてどのような課題があるのかを解説する。また、スポーツに関する現代的課題を取り上げ、実際のスポーツ政策とその背景について学ぶ。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) スポーツの価値について考え、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>

9	木藤	<p>[授業内容] 「スポーツの価値」に関する資料をもとに、実際のスポーツ政策と比べてどのような課題があるのかを解説する。また、スポーツに関する現代的課題を取り上げ、実際のスポーツ政策とその背景について学ぶ。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) スポーツの価値について考え、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
10	黒須	<p>[授業内容] フィンランド、フランス、ドイツ、イギリス等のヨーロッパ諸国のスポーツ政策を取り上げ、各国の1)スポーツ振興体制、2)スポーツクラブ、3)スポーツ振興のための財源、4)スポーツ政策、5)スポーツ参加状況等の比較考察を行う。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 欧州のスポーツ政策について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
11	黒須	<p>[授業内容] アメリカ、カナダ、ブラジル、メキシコ等の北米・南米のスポーツ政策を取り上げ、各国の1)スポーツ振興体制、2)スポーツクラブ、3)スポーツ振興のための財源、4)スポーツ政策、5)スポーツ参加状況等の比較考察を行う。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 北米・南米のスポーツ政策について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
12	小笠原	<p>[授業内容] 国際スポーツ組織：国際スポーツ組織の現状と課題について学修する。大きな国際大会を経験した日本であるが、日本のスポーツ組織はどのような国際的スポーツ組織と連携しているのかを学修する。将来的にどのようなことが日本のスポーツ組織に期待されるのかについても学修する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 国際スポーツ組織が果たした役割と影響について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>

13	水野	<p>[授業内容] スポーツ組織のガバナンスとマネジメント：スポーツ組織には、多種多様なステークホルダー（選手、監督、ファン、スポンサー企業、取引先企業、自治体、地域住民など）が存在する。かつ、スポーツの公共性や公益性を鑑みれば、企業組織と同様にスポーツ組織においてもガバナンス（統治）機能を強化しなければならない。よって、スポーツ組織における体系的なマネジメント活動やガバナンスの重要性および今後の課題について検討する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） スポーツ組織のガバナンスとマネジメントについて調べ、理解を深めておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
14	水野	<p>[授業内容] スポーツチームのマネジメント：スポーツチームにおけるマネジメント活動とリーダーが発揮するリーダーシップの関係について、モチベーションマネジメントの観点も踏まえて解説する。そして、スポーツ選手のスポーツに対する動機と誘因の関係を整理する。また、スポーツチームを対象としたチームビルディングの技法についても具体的事例を用いて紹介する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） スポーツチームのマネジメントについて調べ、理解を深めておく。</p> <p>（復習：6時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。授業全体を通して総まとめを行うこと</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】スポーツマネジメント演習		授業形態	講義および演習
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	工藤 康宏			
科目担当者	工藤 康宏、小笠原 悦子、水野 基樹			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツマネジメントにおけるスポーツサービスや経営資源の配分・管理に関わる学習内容やスポーツビジネスの実際について、模擬的・統合的に実践を通して学ぶ。スポーツマーケティングを始めとするスポーツマネジメントに関する主要な分野において、集中講義により基本的スキルを習得し、スポーツイベントの現場でのフィールドワークを行うなど、目的に応じた様々な形式で演習を行い、知識や技能の習得を目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした教養」、「コミュニケーション力」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は、プロスポーツ観戦者調査とホームゲーム運営を通じて、マーケティングリサーチの手法を体験することを目的としている。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングリサーチ、CS調査の手法の基礎を知っている。 2. スポーツイベント参加者、観戦者などを対象に、質問紙を作成し、調査を実施できる。 3. 得られた調査データから、簡単な報告ができる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツイベント参加者、観戦者などを対象に、質問紙を作成し、調査を実施することができる。（フィールドワークの実施） 2. 実際のプロスポーツのゲーム運営補助を行い、観戦者の観察を行うことができる。（フィールドワーク・報告書の作成） 3. 得られた調査データを集計し、基礎的な分析を行い、簡単な報告書を作成できる。（報告書の作成） <p>【成績評価の方法】 実習への参加（20%）、実習態度（30%）、報告書の作成（50%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 スポーツマーケティング、イベント概論を受講していることが望ましい。フィールドワークを実施してもらうため、5回程度の授業が通常の時間割帯ではなく、プロスポーツリーグの試合が開催される土・日となる。交通費などの費用は、個人負担となる。2日間の実習と1日の調査に参加することが必要となる。一部の授業をコンピュータ実習室で行う。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 1. 学生の講義内容の理解の確認や教員へのフィードバックのために、スマートフォンあるいはタブレット等のQRコードリーダーを使用する場合がありますので、使用できるように準備すること。その回答を参考に、次週、口頭でフィードバックを行います。また、プロスポーツチーム担当者からの実習や報告書に対するフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 随時指示する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】 担当： 工藤康宏 E-mail： ykudou[at]juntendo.ac.jp ： [at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 火曜 16:30-17:30 木曜 13:00-14:00（前期）、金曜 13:00-14:00（後期）</p>				
備考				

<p>【学修時間】 本科目は、講義および演習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 特になし</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	工藤	<p>【授業内容】 オリエンテーションと実習の進め方等の説明。実習や観戦者調査日程等の調整。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>（予習：1時間） シラバスの内容を予めよく読み、実習の概要や目標、履修要件などを確認する。</p> <p>（復習：1時間） 実習、観戦者調査参加スケジュールの調整。他の集中講義日程と後洋服の確認。</p>
2		<p>【授業内容】 マーケティング・リサーチ、マーケティングの全体像、フレームワークなどを学ぶ。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>（予習：2時間） マーケティングリサーチとCS調査について調べる。</p> <p>（復習：2時間） 配布資料などをよく読み返すこと。</p>
3		<p>【授業内容】 プロスポーツチームの環境分析、PEST、SWOT、3C、STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）、マーケティングミックス、4Pなどについて学ぶ。また、観戦者調査項目の選定をグループで検討する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>（予習：2時間） SWOT分析を行ってくること。</p> <p>（復習：3時間） 配布資料をよく読み返す。観戦者調査の質問項目の収集、検討。課題提示。</p>
4		<p>【授業内容】 社会調査について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>（予習：2時間） 社会調査、およびスポーツ観戦者調査について調べてくること。</p> <p>（復習：3時間） 配布資料をよく読み返す。観戦者調査の質問項目の収集、検討。課題提示。</p>
5		<p>【授業内容】 調査テーマ、および質問項目の発表</p> <p>【授業方法】 グループ発表形式</p>	<p>（予習：4時間） 調査テーマの決定、質問項目の検討、先行研究の収集、グループ発表準備</p> <p>（復習：2時間） 配布資料をよく読むこと。質問項目の検討。</p>
6		<p>【授業内容】 質問紙の作成、フィールドワーク準備</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォーム、グループワーク</p>	<p>（予習：4時間）</p> <p>（復習：4時間） 質問紙の作成。課題提示。</p>

7		<p>【授業内容】 フィールドワーク1日目</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
8		<p>【授業内容】 フィールドワーク1日目</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
9		<p>【授業内容】 フィールドワーク2日目</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
10		<p>【授業内容】 フィールドワーク2日目</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
11		<p>【授業内容】 フィールドワーク3日目</p> <p>【授業方法】 観戦者調査</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
12		<p>【授業内容】 データ入力、クリーニング、基礎統計分析</p> <p>【授業方法】 コンピュータ実習室にて、PCへの入力作業を行う。</p>	<p>(予習：3時間) データ入力、クリーニング、基礎統計寮について調べること。</p> <p>(復習：2時間) データ入力を行うこと。課題提示。</p>
13		<p>【授業内容】 統計分析と図表作製、図表の読み取り</p> <p>【授業方法】 コンピュータ実習室にて、PCを使用し図表の作成等を行う。</p>	<p>(予習：4時間) データ入力を行うこと。</p> <p>(復習：4時間) 図表の作成、解釈を行い、文章を作成する。課題提示。</p>
14		<p>【授業内容】 報告書の作成</p> <p>【授業方法】 コンピュータ実習室にて、PCを使用し図表の作成等を行う。</p>	<p>(予習：3時間) 図表、文章の作成を行う。</p> <p>(復習：4時間) 課題提示。</p>
		定期試験は実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツマネジメント		授業形態	講義（オムニバス）
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	4	4	単位数	2.0
科目責任者	小笠原 悦子			
科目担当者				
廣津信義、小笠原悦子、工藤康宏、水野基樹、渡正、山田泰行				
授業概要				
【授業全体の内容】				
本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」といった経営資源の側面からマネジメントできる能力を醸成することを目指し、様々なマネジメントの考え方がスポーツに応用され、スポーツ特有のマネジメントを行う必要性とその方法について学ぶ。具体的には、スポーツマネジメント分野に関する最新の理論や事例を取り上げて、先進的な取り組みについて学修する。テーマの内容に応じてグループワークも行い、学生同士で理解を深める。 （オムニバス方式 / 全14回）				
（24 工藤康宏 / 1回）				
授業の進め方などについてガイダンスを行うとともに、スポーツマネジメントのフロンティアについて理解する。				
（13 廣津信義 / 2回）				
マネジメント・サイエンスの基礎的な知識を学ぶ。組織における管理活動を合理化・効率化するための科学的方法について理解し、合理的な意思決定の方法をグループ討議とシミュレーションを通して考える。スポーツへの最新の応用事例についても理解する。				
（50 山田泰行 / 2回）				
アスリートの競技力向上とスポーツ組織の生産性向上に役立つ情報マネジメントの理論、技術、事例について、アクティブラーニングを通して、理解を深める。さらに、スポーツビジネスに役立つ情報マネジメントの理論、技術、事例についても理解を深める。				
成績評価				

<p>【成績評価の基準】 1. スポーツマネジメントのフロンティアについて理解している。(定期試験) 2. マネジメント・サイエンスの手法について説明できる。(定期試験) 3. アスリートやスポーツビジネスに役立つ情報マネジメントの理論、技術、事例を理解している。(定期試験) 4. スポーツにおけるイノベティブな取り組みやスポーツを通じた国際開発について把握している。(定期試験) 5. スポーツ施設をマネジメントする際に重要な視点となるユニバーサルデザインを理解している。(定期試験) 6. 2000年代以降に登場した情報技術の進展によってスポーツが新たな状況に置かれている様相を説明できる。(定期試験) 7. 授業中の発言、グループワークの取り組みなどによって、受講態度を評価する(平常点)</p> <p>【成績評価の方法】 平常点(30%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。</p>		
履修における留意事項		
<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 授業やレポートにおけるコメントを通してフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は、授業中に、適宜配布します。</p>		
連絡先とオフィスアワー		
<p>【連絡先】 廣津信義 E-mail : nhirotsu[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 工藤康宏 E-mail : ykudou[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 水野基樹 E-mail : mtmizuno[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 渡 正 E-mail : t-watari[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 山田泰行 E-mail : yayamada[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください)</p> <p>【オフィスアワー】 廣津信義 日時：火曜日 3限目 場所：1号館3階1327室 工藤康宏 日時：前期火曜日 16:30～17:30 前期木曜日 13:00～14:00 後期金曜日 13:00～14:00 場所：1号館3階1322室 水野基樹 日時：月曜日10:00～12:00、火曜日15:00～16:00 場所：1号館3階1320室 渡 正 日時：月曜日13:00～14:30 場所：1号館3階1321室 山田泰行 日時：月曜日～木曜日 12:10～13:50 場所：1号館3階1326室</p>		
上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。		
備考		
<p>【学修時間】 この授業は、講義及びグループディスカッション・オムニバスの授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 特になし</p>		
授業計画 【授業内容と準備学修等】		
授業回数	担当	授業内容(授業方法を含む) 準備学修(予習・復習)の内容、必要時間(レポート)

1	工藤	<p>[授業内容] 授業の進め方などについてガイダンスを行うとともに、スポーツマネジメントのフロンティアについて概説する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) これまでに履修したスポーツマネジメント関連の授業のテキストや資料に目を通しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
2	廣津	<p>[授業内容] マネジメント・サイエンス(経営科学)の基礎的な知識を学ぶ。組織的活動全般における種々の管理活動を合理化・効率化するための科学的方法について概観し、具体的な事例を通して、合理的な意思決定の方法をグループ討議とシミュレーションを通して考えてみる。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) マネジメント・サイエンスについて調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
3	廣津	<p>[授業内容] マネジメント・サイエンス(経営科学)の考え方をスポーツに応用した最新の事例を紹介するとともに、その手法の考え方を理解する。手法のエッセンスがわかりやすいものを事例として取り上げる。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) マネジメント・サイエンスのスポーツへの応用について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
4	山田	<p>[授業内容] アスリートの情報マネジメント：アスリートの競技力向上とスポーツ組織の生産性向上に役立つ情報マネジメントの理論、技術、事例の理解を深める。アスリートの競技力をいかにして高め、スポーツ組織の発展に役立っていくかを提言することを目的としたアクティブラーニングを展開する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) アスリートの情報マネジメントについて考え、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
5	山田	<p>[授業内容] スポーツビジネスの情報マネジメント：スポーツビジネスに役立つ情報マネジメントの理論、技術、事例の理解を深める。スポーツのビッグデータをいかにして収集し、安全に管理し、適切に分析し、新たなマーケティング戦略に役立っていくかを提言することを目的としたアクティブラーニングを展開する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) スポーツビジネスの情報マネジメントについて調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>

6	小笠原	<p>[授業内容] スポーツとイノベーション：スポーツにおけるイノベティブな取組について学修する。スポーツが創り出すプロダクトにはソーシャルプラクティス（社会的実践）が存在するが、新しい価値を創造するというイノベーションという考えを用い、スポーツが果たす役割や取組を学修する。 スポーツにおけるイノベーションを他分野とのコラボレーションを交えて、様々な視点から学修する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） スポーツとイノベーションについて考え、理解を深めておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
7	水野	<p>[授業内容] スポーツ施設のマネジメント：人間工学や建築工学の進歩を背景に、多くの総合型地域スポーツクラブや公共・民間のフィットネスクラブにおいてユニバーサルデザインという考え方が浸透しつつある。そこで、スポーツ施設をマネジメントする際に重要な視点となるユニバーサルデザインをヒューマンインターフェース（human interface）という分析視角から具体的事例を用いて解説する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） スポーツ施設のマネジメントについて考え、理解を深めておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
8	水野	<p>[授業内容] 第7回授業に関するグループワークを行う。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） グループワークに備え、授業で提示された課題について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内でのグループワークについて、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
9	渡	<p>[授業内容] スポーツとテクノロジーの発展：「ホークアイ」やVARなどの判定テクノロジー、「e-スポーツ」の登場や、ARやVRなどの現実を超える身体文化の可能性など、2000年代以降に登場した情報技術の進展によってスポーツが新たな状況に置かれている様相を考える。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） ホークアイやVARについて調べ、理解を深めておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
10	渡	<p>[授業内容] 第9回授業に関するグループワークを行う。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） グループワークに備え、授業で提示された課題について調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内でのグループワークについて、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>

11	小笠原	<p>[授業内容] スポーツと国際開発：「スポーツを通じた開発 (Sport for Development:SfD)」について学修する。スポーツが社会に及ぼす正負の影響を認識し、国際課題に対するスポーツの役割について理解を深める。国連、政府開発援助 (ODA)、国際スポーツ競技団体、民間企業のSfDへの関わりや個別課題へのアプローチを事例と理論を紹介しながら理解する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 国際課題について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
12	小笠原	<p>[授業内容] スポーツと国際開発：「スポーツを通じた開発 (Sport for Development:SfD)」について学修する。スポーツが社会に及ぼす正負の影響を認識し、国際課題に対するスポーツの役割について理解を深める。国連、政府開発援助 (ODA)、国際スポーツ競技団体、民間企業のSfDへの関わりや個別課題へのアプローチを事例と理論を紹介しながら理解する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 国際課題に対してスポーツが果たした役割について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
13	小笠原	<p>[授業内容] スポーツと国際開発：「スポーツを通じた開発 (Sport for Development:SfD)」について学修する。スポーツが社会に及ぼす正負の影響を認識し、国際課題に対するスポーツの役割について理解を深める。国連、政府開発援助 (ODA)、国際スポーツ競技団体、民間企業のSfDへの関わりや個別課題へのアプローチを事例と理論を紹介しながら理解する。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) 社会問題を解決することにスポーツが果たした役割について調べ、理解を深めておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
14	小笠原	<p>[授業内容] 第11～13回授業に関するグループワークを行う。</p> <p>[授業方法] スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>(予習：2時間) グループワークに備え、授業で提示された課題について調べておく。</p> <p>(復習：6時間) 授業内でのグループワークについて、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。授業全体を通して総まとめを行うこと</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】スポーツ文化論		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	
対象学年	3	1	単位数	2.0
科目責任者	渡 正			
科目担当者	渡 正			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツは、近代イギリスの産業資本の発展と世界的展開とともに世界中に伝播した。そのため、これは一方では人類共有の資産とも言ふべき普遍的文化であり、一方では西洋文化の進展という文化的な帝国主義の進展でもある。つまり、スポーツは私たちにとってグローバルなものでもあり、ローカルなものでもある。近代スポーツにおける文化的成立と伝播、各地での受容と変容を考えながら「スポーツが文化である」ということがいかなることなのかを考察する。社会学や歴史学の視点から、スポーツという文化現象のダイナミズムについて理解し、新たなスポーツ文化を作っていくための基礎的な知識と思考力を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のスポーツ文化について、その明治期の導入から現代までの流れについて理解することができる。 2. 日本のスポーツ文化について、その具体的なトピックについて説明しその課題を理解することができる。 3. スポーツ文化の現代的特徴について、その概要について具体例をあげて説明することができる。 4. スポーツ文化の現代的特徴について、解決すべき課題について説明し、自分なりの意見を提出することができる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のスポーツ文化について、その明治期の導入から現代までの流れについて理解している。（小レポート・定期試験） 2. 日本のスポーツ文化について、その具体的なトピックについて説明しその課題を理解することができる。（小レポート） 3. スポーツ文化の現代的特徴について、その概要について具体例をあげて説明することができる。（小レポート・定期試験） 4. スポーツ文化の現代的特徴について、解決すべき課題について説明し、自分なりの意見を提出することができる。（定期試験） <p>【成績評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業後に行う小レポートによって授業内容の理解度を評価する。（30%） ・定期試験によって日本のスポーツ文化の流れと、現代的な特徴の概要について理解しているか、現代のスポーツ文化の課題の説明と自分なりの意見について評価する。（60%） ・毎回の授業への取り組みを授業内でのワークの提出状況および内容で評価する。（10%） 				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。</p> <p>本授業では、毎回、ICTを用いてワークの提出などを行う。そのためタブレットPC、ノートPCなどインターネットにアクセスし作業のできる機器を持ち込むことを推奨する。</p> <p>小レポートは、次回の授業内に模範解答やポイントを提示し、解説する。。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>井上俊・菊幸一編著（2020）『新版よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房 日本スポーツ社会学会編集企画委員会 編（2020）『2020 東京オリンピック・パラリンピックを社会学する：日本のスポーツ文化は変わるのか』</p>				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：渡 正（1号館3階1321室） E-mail: t-watari@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：月曜日 13:00～14:30 場所：1号館3階1321室（スポーツ社会学研究室） 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。</p>			
<p>備考</p>			
<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p>			
<p>【その他】</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（J-Pass）
1	渡	<p>【授業内容】 ガイダンス:単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ文化を考えるうえでの基礎となる「文化」の考え方について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（復習：4時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。 履修登録が確実にされているか再確認しておく。 指定した各種WEBサイトの使い方に習熟しておく。</p>
2	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化総論1（日本のスポーツ文化の進展2） 明治期にスポーツはどのような形で輸入され、日本文化や社会のなかに位置づいていったのかについて説明する（明治～昭和初期まで）</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
3	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化総論2（日本のスポーツ文化の進展2） 昭和初期における日本のスポーツ文化について、特に甲子園野球の成立と産業の関連について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

4	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化総論3（戦時期におけるスポーツ文化） 戦時期、日本のスポーツ文化はその独自性が揺らいでいた。総力戦体制のなかでのスポーツのあ利用について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
5	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化総論4（戦後におけるスポーツ文化） 終戦後の復興期におけるスポーツ文化の復興について、国民体育大会、オリンピック、そして1970年代のみんなのスポーツ・コミュニティスポーツの流れを説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
6	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化各論（運動部活動の進展と現代的課題） 日本独特のスポーツ文化としても捉えることのできる運動部活動についてその展開と現代における課題について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
7	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化各論（武道とスポーツ） 日本のスポーツ文化を象徴する「柔道」「剣道」「相撲」についてその特徴と歴史について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

8	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化各論（学校体育文化） 日本のスポーツ文化の基礎を担う学校体育について、その歴史の変遷と現代的課題について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>（復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
9	渡	<p>【授業内容】 日本のスポーツ文化各論 日本のスポーツ組織、行政との関わりとその課題について、主にスポーツ政策の観点から説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>（復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
10	渡	<p>【授業内容】 海外のスポーツ文化 スポーツ文化はグローバルなものであると同時にローカルなものでもある。ここでは、欧米におけるスポーツ文化を取り上げ、その特徴を説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>（復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
11	渡	<p>【授業内容】 スポーツ文化の現代的課題1（スポーツにおける国際協力） 現代社会におけるスポーツは、国際協力を推進するツールでもある。ここでは、日本の取り組みを取り上げ、スポーツによる持続可能な開発の可能性を説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>（復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

12	渡	<p>【授業内容】 スポーツ文化の現代的課題2（ジェンダー・セクシュアリティの多様化とスポーツ） スポーツという近代の枠組みは、ジェンダー・セクシュアリティの多様化という現実とどのように関わっているのかについて説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
13	渡	<p>【授業内容】 スポーツ文化の現代的課題3（民族の多様性とナショナリズム、スポーツ） ルーツや多様な民族的アイデンティティをもつ人々にとってスポーツは抑圧でもあり可能性でもある。スポーツがこうした現象とどのように関わっているのかについて説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
14	渡	<p>【授業内容】 スポーツ文化の現代的課題4（障害者とスポーツ） 障害という個人の身体的・知的・精神的多様性とスポーツはどのように個人を後押しし、抑圧してきたのかについてパラリンピックなどのスポーツイベントを事例に説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツメディア論		授業形態	講義およびグループディ
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	2	単位数	2.0
科目責任者	野口 亜弥			
科目担当者	野口 亜弥			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツとメディアは相互に影響を与えながら発展してきたが、近年ではスポーツは単なる娯楽の域を超え、社会・経済に大きな影響を及ぼしている。スポーツとメディアとの関係について歴史的に概観した後、高度に社会化された今日のスポーツにおける諸問題の解決に向けてメディアが果たすべき役割と現状について考える。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. メディアとは何か理解することが出来る 2. スポーツの発展とメディアの関係性について理解する。 3. メディアがスポーツを通じて社会に与える影響を説明することができる。 4. スポーツコンテンツをメディアの特徴に合わせて制作する知識を備える。 5. 企業やスポーツ競技団体のメディアの活用の仕方を説明することができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. メディアの定義及び情報の伝達過程を説明することが出来る。（レポート） 2. メディアの発展がスポーツの発展にどのように影響を与えてきたのか説明することが出来る（レポート） 3. メディアがどのように人種、ジェンダー、障がい、ナショナリズムを表象しているのか説明することができる（レポート） 4. 各メディアの特徴を用いてスポーツコンテンツをどのように発信することができるのか知識を備えている。（ディスカッション） 5. 組織やスポーツ団体における広告とメディアの関係性について理解している（期末プレゼンテーション） 6. 毎回の授業参加状況と授業へのリフレクション（平常点）</p> <p>【成績評価の方法】 授業参画（授業の出席状況、リフレクション、グループワーク）【30%】、中間レポート2回【40%】、最終プレゼンテーション【30%】、ピアフィードバック【10%】</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 Jundendo Passportや授業を通じて課題に対するフィードバックをする。</p> <p>【参考書等】 1. 橋本純一「現代メディアスポーツ論」、世界思想社、2002. 2. 森田浩之「メディアスポーツ解体：見えない権力をあぶり出す」、日本放送出版協会、2009. 3. 青沼智、池田理知子、平野順也「メディア・レトリック論：文化・政治・コミュニケーション」、ナカニシヤ出版、2018.. 4. 吉見俊哉「メディア文化論：メディアを学ぶ人のための15話」、有斐閣アルマ、2004.</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当： E-mail： 【オフィスアワー】</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 特になし</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1		<p>【授業内容】 ガイダンス、自己紹介 本授業の進め方、評価の仕方の説明</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） シラバスに書かれている参考資料について事前に読んでおく。</p> <p>（復習：3時間） シラバスに書かれている参考資料について事前に読んでおく。</p>
2		<p>【授業内容】 メディアとは。メディアとは何かを理論的な枠組みから理解する。また、メディアの歴史の変遷、スポーツのメディア化についても理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） メディアとは何か。スポーツのメディアとの関係性について自分なりに調べてまとめておく</p> <p>（復習：2時間） 授業で配布した資料を再度読み、メディアとは何かを考える。普段どのようなメディアでなんの情報を得ているのか理解を深める。</p>
3		<p>【授業内容】 多様なメディア。新聞、テレビ、雑誌、デジタルメディアなどの多様なメディアを理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） 新聞、テレビ、雑誌、デジタルメディアなどの昨今の状況を調べる。自身がどのメディアをなぜ好むのかを整理する。</p> <p>（復習：2時間） 授業のスライドやグループディスカッションの内容を再度整理してまとめる。</p>
4		<p>【授業内容】 メディアが発信するメッセージ。メディアと密接に関わるスポーツ大会がどのようなメッセージを発信しているのか分析する。理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） 甲子園野球大会、箱根駅伝といったメディアが主催する大会はどのようなメッセージを伝えようとしているのか自身の考察をまとめる。</p> <p>（復習：2時間） 授業でとりあげた事例を用いて、メディアとスポーツ大会の関係性を整理する。</p>

5		<p>【授業内容】 大規模国際競技大会とメディアの発達 オリンピック・パラリンピック競技大会などの大規模国際競技大会がメディア共にどのように発展し、商業化されてきたのか理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>(予習：2時間) 近年開催された、自身の関心の深い国際競技大会の放映権料、スポンサー企業を調べ、スポンサー企業がその大会にどんなメリットを感じているのか自分なりの意見をまとめる。</p> <p>(復習：2時間) 授業の踏まえて国際競技大会の発展にメディアがどのような後押しをしたのか整理する。</p>
6		<p>【授業内容】 大規模国際競技大会とメディアの発達 オリンピック・パラリンピック競技大会などの大規模国際競技大会の発展におけるメディアの役割と商業化されてきたのか理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>(予習：2時間) 近年開催された、自身の関心の深い国際競技大会の放映権料、スポンサー企業を調べ、スポンサー企業がその大会にどんなメリットを感じているのか自分なりの意見をまとめる。</p> <p>(復習：2時間) 授業の踏まえて国際競技大会の発展にメディアがどのような後押しをしたのか整理する。</p>
7		<p>【授業内容】 グローバル社会とメディアスポーツ。グローバル化におけるメディアとスポーツの影響を理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>(予習：2時間) メディアがグローバル化にどのように影響を与えてきたのか、自分なりに調べる。</p> <p>(復習：2時間) 授業で配布した資料を再度読み込み、グローバル化におけるメディアのメリット・デメリットをまとめる。</p>
8		<p>【授業内容】 スポーツメディアと社会 メディアがスポーツを題材として映し出す社会課題(人種、ジェンダー、障がい、ナショナリズム)について考える。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>(予習：2時間) 最近のスポーツに関するメディアの中で人種、ジェンダー、障がい、ナショナリズムに関して触れている記事を探してまとめておく。</p> <p>(復習：3時間) 授業のポイントを踏まえて、再度事前に探しておいた記事を分析する。</p>

9		<p>【授業内容】 スポーツメディアと社会 メディアがスポーツを題材として映し出す社会課題（人種、ジェンダー、障がい、ナショナリズム）について考える。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） 最近のスポーツに関するメディアの中で人種、ジェンダー、障がい、ナショナリズムに関して触れている記事を探してまとめておく。</p> <p>（復習：3時間） 授業のポイントを踏まえて、再度事前に探しておいた記事を分析する。</p>
10		<p>【授業内容】 スポーツ番組の制作 スポーツに関する番組や報道の中でスポーツコンテンツがどのように制作され発信されているのか理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） 自身がこれまで良く見ていたニュース、情報番組やスポーツ番組、バラエティ番組を整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） スポーツ番組制作における過程をまとめる。</p>
11		<p>【授業内容】 スポーツ番組の制作 スポーツに関する番組や報道の中でスポーツコンテンツがどのように制作され発信されているのか理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） 自身がこれまで良く見ていたニュース、情報番組やスポーツ番組、バラエティ番組を整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） スポーツ番組制作における過程をまとめる。</p>
12		<p>【授業内容】 広告としてのスポーツメディア 広告におけるスポーツ、エンターテインメントコンテンツが果たす役割について学習する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>（予習：2時間） 自らが所属する、もしくは関心の深いスポーツ競技団体、全日本選手権における協賛社と広告機会を把握しておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業で学んだことを活かし、同スポーツ競技団体における広告導入方法とそれを具体化するための課題を取り纏める。</p>

13		<p>【授業内容】 広告としてのスポーツメディア。広告におけるスポーツ、エンターテインメントコンテンツが果たす役割について学習する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>(予習：2時間) 自らが所属する、もしくは関心の深いスポーツ競技団体、全日本選手権における協賛社と広告機会を把握しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業で学んだことを活かし、同スポーツ競技団体における広告導入方法とそれを具体化するための課題を取り纏める。</p>
14		<p>【授業内容】 期末発表。これまでの授業を踏まえて、スポーツメディアに関する課題を実施し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また他の受講生とのディスカッションや授業内で提示されるワークを実施する。授業の最後にはリアクションとして自らの考えを述べる。</p>	<p>(予習：4時間) 最終グループプレゼンテーションに向けて、グループでプレゼンテーション並びに企画を準備する。</p> <p>(復習：1時間) 他グループの発表から印象に残ったことをまとめる。</p>
		定期試験は実施しない	

授業科目名	【新カリ】スポーツファイナンス		授業形態	講義および演習
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	竹内 由利子			
科目担当者	竹内 由利子			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義および演習の授業形態で行う。経営資源の「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を合理的かつ現実的にマネジメントする能力を身に付けるために、企業経営の源泉と言える「カネ」の意味と役割を理解し、スポーツをビジネスとして遂行するために必要なファイナンスの基本を修得することを目標とする。企業の財務戦略や意思決定を、「カネ」の流れを主軸としたケーススタディをもとに、管理会計・財務会計・連結会計による財務のグローバルスタンダードと監査の視点を持って、経営戦略、経営政策等の実態を把握して分析できる力をつけ、スポーツ組織、スポーツ産業におけるファイナンスの発展的理解と活用技術の獲得を目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義した内容について、概念、定義とともに論述することができる。 2. 主要な財務諸表を読み、記載内容を理解することができる。 3. 主要な経営指標を用いて、基本的な経営分析ができる。 4. 今日の資金調達の方法を幅広く理解している。 5. 企業や各種団体のIR情報の活用方法を理解している。 6. 企業や各種団体の財務戦略や意思決定の方法を理解している。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義した内容について、概念、定義とともに論述できる(定期試験・レポート)。 2. 主要な財務諸表を読み、記載内容を理解している(定期試験・演習・取り組む姿勢・レポート)。 3. 主要な経営指標を用いて、基本的な経営分析ができる(定期試験・演習・取り組む姿勢・レポート)。 4. 今日の資金調達の方法を幅広く理解している(定期試験・レポート)。 5. 企業や各種団体のIR情報の活用方法を理解している(授業参加・演習・レポート)。 6. 企業や各種団体の財務戦略や意思決定の方法を理解している(定期試験・演習・レポート)。 <p>【成績評価の方法】</p> <p>演習：10%、取り組む姿勢：10%、課題レポート：30%、定期試験：50%を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>経営学、経営組織論を受講していること、簿記・会計の知識があればなお良いが、いずれも必須ではない。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>課題レポートは、授業中の発表やディスカッションの中で解説する。定期試験後は、要望があれば解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>テキストは指定しない。毎時間レジュメを配付する。 参考書は必要に応じて授業内で指示する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当：竹内由利子（たけうちゆりこ） E-mail：y-takeuchi@juntendo.ac.jp（[@]を半角に変更してください）</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>随時メールで受付。必要に応じて出校日の授業前後の時間で面談もします。</p>				
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 リアルタイムのケーススタディを多用するので、新聞（一般紙で良い）の経済記事に良く目を通し、日常的に企業情報に関心を持つこと。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1		<p>[授業内容] スポーツファイナンスへの招待</p> <p>[授業方法] ガイダンス。講義の目的、内容、評価について説明する。</p>	<p>（予習：1時間） シラバスの内容を良く確認し、ガイダンスに臨む。</p> <p>（復習：1時間） 他のマネジメント系科目の履修状況を良く確認して、履修計画を立てる。</p> <p>（課題レポート） 指示に従い作成し、期限までに提出する。</p>
2		<p>[授業内容] ファイナンスと経営管理との関係</p> <p>[授業方法] ファイナンスの定義と範囲、経営管理との関連を理解する。</p>	<p>（予習：1時間） 履修済みの経営学関連科目の内容を復習しておく。</p> <p>（復習：1時間） 特に定義を良く復習し、理解しておく。</p>
3		<p>[授業内容] 証券市場と今日的な資金調達方法</p> <p>[授業方法] 企業や団体における資金調達のバリエーションと方法、今日的な課題について理解する。</p>	<p>（予習：2時間） 興味のある企業や団体をリストアップする。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 株式市場のトピックスで興味のある会社の周辺情報を収集しておく。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p>
4		<p>[授業内容] 財務諸表の読み方（1）</p> <p>[授業方法] 企業や団体の財務情報の内容と収集方法を理解する。</p>	<p>（予習：2時間） 興味のある企業や団体をリストアップする。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 興味のある企業や団体のウェブページから財務情報へアクセスし、情報収集の方法を復習する。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p>
5		<p>[授業内容] 財務諸表の読み方（2）</p> <p>[授業方法] 貸借対照表の基本的な読み方を学ぶ。作成のプロセスと記載内容の意味を解説し、ケーススタディを用いて演習する。</p>	<p>（予習：2時間） 新聞の経済記事より企業の財務情報に関わるニュースをピックアップし論点をまとめておく。なぜその企業を選んだのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） ケーススタディの復習をする。</p>
6		<p>[授業内容] 財務諸表の読み方（3）</p> <p>[授業方法] 損益計算書基本的な読み方を学ぶ。作成のプロセスと記載内容の意味を解説し、ケーススタディを用いて演習する。</p>	<p>（予習：2時間） 出身地の地元企業ナンバーワンと思われる企業の財務情報をピックアップしておく。なぜその企業を選んだのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） ケーススタディの復習をする。</p>

7		<p>[授業内容] 財務諸表の読み方 (4)</p> <p>[授業方法] キャッシュフロー計算書基本的な読み方を学ぶ。作成のプロセスと記載内容の意味を解説し、ケーススタディーを用いて演習する。</p>	<p>(予習 : 2時間) 新聞の経済記事より企業の財務情報に関わるニュースをピックアップし論点をまとめておく。なぜその企業を選んだのか、その理由も整理しておく。</p> <p>(復習 : 2時間) ケーススタディーの復習をする。</p>
8		<p>[授業内容] 経営分析 (1)</p> <p>[授業方法] 主な経営指標を用いて、企業の安全性、支払能力の分析演習をする。</p>	<p>(予習 : 2時間) 指示された企業や団体の財務情報を収集する。</p> <p>(復習 : 2時間) ケーススタディーを使って、指標による計算の復習をする。</p>
9		<p>[授業内容] 経営分析 (2)</p> <p>[授業方法] 主な経営指標を用いて、企業の収益力の分析実習をする。</p>	<p>(予習 : 2時間) 指示された企業や団体の財務情報を収集する。</p> <p>(復習 : 2時間) 指示のあった企業の財務情報をピックアップしておく。</p>
10		<p>[授業内容] 経営分析 (3)</p> <p>[授業方法] 主な経営指標を用いて、企業の成長性と市場での優位性、投資価値の分析実習をする。</p>	<p>(予習 : 2時間) 指示された企業の財務情報を収集する。</p> <p>(復習 : 2時間) 指示のあった企業の財務情報をピックアップしておく。</p> <p>(課題レポート) 指示に従い作成し、期限までに提出する。</p>
11		<p>[授業内容] 課題レポートの発表</p> <p>[授業方法] 提出した課題レポートについて発表し、ディスカッションする。</p>	<p>(予習 : 5時間) 課題レポートを完成させる。</p> <p>(復習 : 2時間) ミニレポートの作成。ディスカッションした内容と自身のレポートの同意点と異なる点をまとめる。</p>
12		<p>(授業内容) 利益計画と予算管理</p> <p>(授業方法) 損益分岐点分析をもとにした利益計画の手法を学ぶ。ケーススタディーを使って演習する。</p>	<p>(予習 : 2時間) 指示された企業や団体の財務情報を収集する。</p> <p>(復習 : 2時間) 課題のプリントで復習する。</p>
13		<p>(授業内容) スポーツ組織におけるファイナンスの特性と役割</p> <p>(授業方法) 第2 ~ 12講までの振り返りとまとめ。</p>	<p>(予習 : 2時間) 第2 ~ 12講までのレジュメを整理しておく。</p> <p>(復習 : 4時間) 第2 ~ 本講までの課題の復習をしておく。</p>

14		<p>(授業内容) 企業の社会性評価</p> <p>(授業方法) 経営指標による分析結果だけでなく、社会的な貢献、教育的貢献、地域的貢献などの視点を併せた総合的な観点から、企業や団体の実態把握と評価を試みる。</p>	<p>(予習：2時間) 指示した企業や団体の財務関係とCSRについて、資料を収集し揃えておく</p> <p>(復習：5時間) 全講について総復習するとともに、マネジメントに対する自身の着眼点・論点を整理しておく。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ組織マネジメント		授業形態	講義およびグループディ
英語科目名			開講学期	後期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	水野 基樹			
科目担当者	水野 基樹			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。多種多様なスポーツ組織を個別に扱うのではなく、あらゆるスポーツ組織に共通する特性を理解する。オーソドックスな組織論の分析レベルであるミクロ組織論とマクロ組織論の分類を理解した上で、その中間に位置するメゾ組織論すなわち、組織内部のコミュニケーションや意思決定のプロセス及び組織変革とリーダーシップの関係性などについても学ぶ。さらに、スポーツ組織の組織構造や戦略などの視角から、プロスポーツチーム（NPB、Jリーグ、Bリーグ）や競技団体などについて理解する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なスポーツ組織に関する理論を論理的に説明できる。 2. 日本経済新聞やビジネス雑誌を読みこなすことができる。 3. スポーツ組織の事例（Case Study）を理論と結び付けて考えることができる。 				
成績評価				
<p>【評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な経営学理論を論理的に説明できるか定期試験で評価します。 2. 日本経済新聞やビジネス雑誌を読みこなすことができるように、授業の事前・事後の学習を評価します。 3. スポーツ組織の事例（Case Study）を理論と結び付けて考える能力が向上したかレポート課題により評価します。 4. その他、学習意欲や参加態度を講義内の小テストや課題などで評価します。 <p>【評価方法】</p> <p>「スポーツ組織」に関する基本的な知識とノウハウの習得、授業参加、事前・事後学習の態度、レポート、期末試験により総合的に判断します。具体的には、授業態度・取り組む姿勢：10%、事前・事後学習10%、レポート課題：10%、定期試験：70%。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>経営組織論やスポーツマーケティングなどを履修していることが望ましいですが、必ずしも必要条件ではありません。</p> <p>（履修上の注意（科目独自のルール））</p> <p>高い意欲をもって履修してください。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業やレポートにおけるコメントを通してフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>教科書：特になし。毎回の授業で参考資料を配布します。</p> <p>参考書：授業時に適宜、指示します。</p>				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：水野基樹 mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください）</p> <p>【オフィスアワー】 日時：月曜日 10時～12時、火曜日 15時～16時 場所：1号館3階1320室 上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。</p> <p>備考</p> <p>【学習時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 特になし</p>																			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>担当</th> <th>授業内容（授業方法を含む）</th> <th>準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水野</td> <td> <p>【授業内容】 【組織論の学問的位置づけ】 ミクロ組織論とマクロ組織論の学問領域を概観し、組織論における位置づけを解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p> </td> <td> <p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水野</td> <td> <p>【授業内容】 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ】 個人のパーソナリティと組織における人間行動や対人認知、また、パーソナリティについて解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p> </td> <td> <p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>水野</td> <td> <p>【授業内容】 【組織成員の動機づけ（3次元モチベーション理論）】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p> </td> <td> <p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p> </td> </tr> </tbody> </table>				授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）	1	水野	<p>【授業内容】 【組織論の学問的位置づけ】 ミクロ組織論とマクロ組織論の学問領域を概観し、組織論における位置づけを解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>	2	水野	<p>【授業内容】 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ】 個人のパーソナリティと組織における人間行動や対人認知、また、パーソナリティについて解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>	3	水野	<p>【授業内容】 【組織成員の動機づけ（3次元モチベーション理論）】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）																
1	水野	<p>【授業内容】 【組織論の学問的位置づけ】 ミクロ組織論とマクロ組織論の学問領域を概観し、組織論における位置づけを解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>																
2	水野	<p>【授業内容】 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ】 個人のパーソナリティと組織における人間行動や対人認知、また、パーソナリティについて解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>																
3	水野	<p>【授業内容】 【組織成員の動機づけ（3次元モチベーション理論）】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>																

4	水野	<p>【授業内容】 【組織成員の動機づけ（3次元モチベーション理論）】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
5	水野	<p>【授業内容】 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック】 対人的コミュニケーションおよび組織における効果的なコミュニケーション戦略を解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
6	水野	<p>【授業内容】 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック】 対人的コミュニケーションおよび組織における効果的なコミュニケーション戦略を解説する。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
7	水野	<p>【授業内容】 【リーダーシップ理論の俯瞰】 管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>

8	水野	<p>【授業内容】 【リーダーシップ理論の俯瞰】 管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
9	水野	<p>【授業内容】 【組織変革と組織開発】 スポーツ組織の組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
10	水野	<p>【授業内容】 【組織変革と組織開発】 スポーツ組織の組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。</p> <p>【授業方法】 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
11	水野	<p>【授業内容】 【ケースメソッド(1)：箱根駅伝チーム】 駅伝チームの高いモチベーションを引き出すための方策について、グループ討議、ディスカッションを行う。</p> <p>（授業方法） 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>

12	水野	<p>【授業内容】 【ケースメソッド(1)：箱根駅伝チーム】 駅伝チームの高いモチベーションを引き出すための方策について、グループ討議、ディスカッションを行う。</p> <p>【授業方法】 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
13	水野	<p>【授業内容】 【ケースメソッド(2)：MLB オークランドアスレティックス】 貧乏球団を強豪チームに変身させたGMのケースを基に、グループ討議、ディスカッションを行う。</p> <p>【授業方法】 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
14	水野	<p>【授業内容】 【ケースメソッド(2)：MLB オークランドアスレティックス】 貧乏球団を強豪チームに変身させたGMのケースを基に、グループ討議、ディスカッションを行う。</p> <p>【授業方法】 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
	水野	定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツボランティア		授業形態	講義およびグループディ
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	黒須 充			
科目担当者	黒須 充、松山 毅、渋谷 茂樹			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。ボランティア活動の意義や役割、ボランティア活動におけるチームビルディング、ボランティア組織の運営及び安全管理等について学び、スポーツボランティア・リーダーとして活躍できる能力を養成することを目的とする。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 黒須 充, 30 松山先生 / 7回) (共同) スポーツボランティアの定義と分類、スポーツボランティア活動の具体例(大規模スポーツイベントや障害者スポーツを含む)を、映像やデータに基づいて理解する。また、スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルの基礎について、実践をふまえて理解を深める。さらに、ドイツ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドにおけるスポーツボランティアの取り組みについて、映像やデータに基づいて理解する。</p> <p>(87 渋谷茂樹 / 7回) スポーツボランティアの意義、スポーツボランティアの現状と課題、スポーツボランティア・リーダーの役割、心得、求められる資質などについて、活動現場の事例もふまえて理解する。また、スポーツボランティアを束ね、ボランティアが安全かつ有意義に活動できる環境をつくる上で、ボランティア・リーダーに求められるコミュニケーションスキルの実践を通じて習得する。さらにスポーツボランティア参加の促進と定着に向けた課題や工夫などのテーマを設定し、グループで意見交換を行う。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められ</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. スポーツボランティアの理念を説明できる(レポート) 2. スポーツボランティアのタイプと活動パターンを説明できる(レポート) 3. ボランティア活動とNPO(非営利組織)法人の関係を説明できる(レポート) 4. スポーツボランティア活動の実践に必要な初級レベルの知識を備えている(実習) 5. 有効なコミュニケーションスキルを備えている(実習) 6. グループの一員として共同作業ができる(実習) 7. 明確かつ聴衆の興味を維持できるプレゼンテーションが行える(グループワーク) 8. ボランティア活動をめぐる論点を説明できる(レポート)</p> <p>【成績評価の方法】 1 から 8 の能力が身についているかどうか、授業毎のレポート課題(10%)、スポーツボランティア体験報告書(20%)、学期末の最終レポート(40%)、その他、学習意欲や態度についても、授業内で行うグループワーク(10%)やディスカッション(10%)、授業態度・取り組む姿勢(10%)を通して評価する。</p>			
履修における留意事項				

【履修要件】

1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。講義及びスポーツボランティアの実習のセットで単位を認定する。スポーツボランティア実習報告書の未提出者は単位を認めない。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業毎のレポート課題については、翌週の授業の中で評価のポイントを提示し、解説する。最終レポートに関しては、全授業終了後、J-Pass上に模範例を掲示する。

【テキスト・参考書等】

1. スポーツボランティア・リーダー研修会テキスト（特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク編）
 2. 笹川スポーツ財団「スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性」、笹川スポーツ財団、2014.
 3. 長沼豊著「人が集まるボランティア組織をどうつくるのか～双方向の学びを活かしたマネジメント～」、ミネルヴァ書房、2014.
- 1は教科書として使用するので必ず持参すること。2と3は参考書であり、レポート作成の際に参考となる。その他、授業中に、適宜、資料を配付します。

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当：黒須 充

E-mail：mkurosu@juntendo.ac.jp

【オフィスアワー】

日時：前学期中の火曜日12:10～12:50、水曜日13:00～16:00、木曜日12:10～12:50

場所：1号館3階1323室（生涯スポーツゼミナール）

この時間以外の来室は事前にE-mailで予約ください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。

備考**【学修時間】**

この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学修60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

【その他】

特にありません。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	黒須	【授業内容】 1. 授業の進め方、授業計画、成績評価、履修にあたっての留意点など 2. 現代社会におけるボランティアの意義と役割について概説し、課題解決のために自分たちに何ができるかを考えるきっかけとする。 【授業方法】 ボランティアの意義や役割をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。	（予習：3時間） ボランティア活動の定義について事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、ボランティアの意義や役割について復習する。

2	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアの定義と分類、スポーツボランティア活動の具体例などを紹介する。障がい者のスポーツにおけるボランティアの現状についても触れる。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティアの現状と課題をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：3時間) スポーツボランティアの現状や課題について事前に調べ、理解を深める。</p> <p>(復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツボランティアの現状や課題について復習する。</p>
3	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルの基礎について、実践をふまえて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. コミュニケーションスキルをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：3時間) スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルについて事前に調べ、理解を深める。</p> <p>(復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルについて復習する。</p>
4	黒須	<p>【授業内容】 スポーツイベントの分類、イベントの準備から評価までの流れ、イベントの魅力を引き出す方法、企画書の作成、広報・宣伝媒体の選定、イベントの効果、リスクマネジメントを取り上げ、今後のスポーツイベントのあり方を探る。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツイベントやプログラムをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：3時間) 国内外で行われている様々なスポーツイベントについて事前に調べ、理解を深める。</p> <p>(復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、国内外で行われている様々なスポーツイベントについて復習する。</p>
5	黒須	<p>【授業内容】 ドイツ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドにおけるスポーツボランティアの取り組みについて、映像やデータに基づいて理解する。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. 海外のスポーツボランティアをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：4時間) ロンドン五輪の「ゲームズメーカー」について事前に調べ、理解を深める。</p> <p>(復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、海外のスポーツボランティアについて復習する。</p>

6	黒須	<p>【授業内容】 大規模スポーツイベント（東京マラソンなど）におけるボランティアの活動事例を、映像やデータに基づいて理解する。</p> <p>【授業方法】 1．プレゼン資料を使って講義を進める。 2．大規模スポーツイベントをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） 東京マラソンについて事前に調べ、理解を深める。（復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツイベントのボランティア～大規模イベントを事例に～について復習する。</p>
7	黒須	<p>【授業内容】 ふり返り（リフレクション）の場として、ボランティア活動を通して学んだことや感じたことをグループで話し合い、今後の活動につなげるためにどうすればいいかについて、個々にレポートを作成する。</p> <p>【授業方法】 1．グループディスカッションを行う。 2．レポートを作成する。</p>	<p>（予習：4時間） スポーツイベントボランティア活動の体験を通じて、感じたことや考えたこと（レポートの草案）をあらかじめまとめておく。（復習） 特になし</p>
8	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアリーダーの役割、心得、やりがい、ボランティア仲間との付き合い方等について理解を深め、ボランティア活動をリーダーとして実践していくために必要と思われる知識・ノウハウを身につける。</p> <p>【授業方法】 1．プレゼン資料を使って講義を進める。 2．スポーツボランティアリーダーの心得をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） ボランティアリーダーに必要な知識・ノウハウについて事前に調べ、理解を深める。（復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、ボランティアリーダーに必要な知識・ノウハウについて復習する。</p>
9	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティア・リーダーの立場で身につけておくべきスポーツ全般やスポーツボランティアに関する幅広い知識を身につける。</p> <p>【授業方法】 1．プレゼン資料を使って講義を進める。 2．スペシャルオリンピックズをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） パラリンピックやスペシャルオリンピックズについて事前に調べ、理解を深める。（復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、障がい者スポーツのイベントについて復習する。</p>

10	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアを束ね、ボランティアが安全かつ有意義に活動できる環境をつくる上で、ボランティア・リーダーに求められるコミュニケーションスキルを実践を通じて習得する。</p> <p>【授業方法】 1. コミュニケーションスキルの実践を行う。</p>	<p>(予習：4時間) リーダーに求められるコミュニケーションスキルについて事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所について配付資料やノート、参考文献等を読み、リーダーに求められるコミュニケーションスキルについて復習する。</p>
11	黒須	<p>【授業内容】 人が集まるボランティア組織をどうつくるのか、どうすれば多くの人に参加したくなる魅力ある団体となれるのかについて、「双方向の学び」を活かしたマネジメントを中心に概説する。また、現場では様々な状況が想定され、予期せぬ事態に対応することが要求される。その際にリーダーが冷静かつ適切な対応を行うことができるように、リスクマネジメントや事件と事故の応急対応等についても取り上げる。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティア組織の運営及び安全管理をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：4時間) 「双方向の学び」を活かしたマネジメントについて事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツボランティア組織の運営及び安全管理について復習する。</p>
12	黒須	<p>【授業内容】 現地の受入先との交渉・折衝、チームビルディングやコミュニケーションスキル(アイスブレイクの理論と実践)、情報発信など幅広いスキルやノウハウについて学ぶ。また、自己理解・他者理解を深め、相手の考えや感性を知るためのグループワーク(チームワークへの第一歩、グループワークトレーニング、協力・協議・共有に向けてのグループ力)を行う。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティア活動におけるチームビルディングをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：4時間) HRT(Human Relations Training 自己理解・他者理解・コミュニケーション)について事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所について配付資料やノート、参考文献等を読み、スポーツボランティア活動におけるチームビルディングについて復習する。</p>

13	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアの意義、 スポーツボランティアの現状と 課題、スポーツボランティアリ ーダーに求められること、スポ ーツボランティア参加の促進と 定着に向けた課題や工夫などの テーマを設定し、グループで意 見交換を行う。 【授業方法】 1. グループディスカッション を行い、班毎に発表する。</p>	<p>(予習：4時間) ボランティア参加の促進と定着に向けた課題や工 夫について事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) グループ・ディスカッションを通して学んだこと や感じたことを整理し、レポートにまとめる。</p>
14	黒須	<p>【授業内容】 最終レポートの作成</p>	
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ施設マネジメント		授業形態	講義およびグループディ
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3	単位数	2.0
科目責任者	高橋 季絵			
科目担当者	高橋 季絵			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。公共及び民間のスポーツ施設運営にかかわる諸側面、すなわち屋内スポーツ施設、屋外スポーツ施設において行われるイベントや教室、レギュラープログラムの具体的なマネジメントについて理解を深める。また、商業スポーツ施設（民間フィットネスクラブ等）の運営管理、公共スポーツ施設の安全対策、公共スポーツ施設のイベント運営、地域スポーツ施設のマーケティング、学校体育施設の運営等の実践的な事例にふれながらスポーツ施設のマネジメントについて学修する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 スポーツ施設の運営管理について理解を深め、実際のスポーツ施設の利用時や運営に役立つ知識を習得する。科目終了時、受講生は以下の水準に達しているよう期待される。 ・スポーツ活動中およびスポーツ施設の運営管理における安全管理に関する法律、規則を学び、理解を深め、実際の対応時に自ら実践できるようになる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 スポーツ活動中およびスポーツ施設の運営管理における安全管理に関する法律、規則に関して、実際のスポーツ施設の利用時や運営の視点から説明することができるかどうか、授業毎のレポート課題や学期末の定期試験で評価する。その他、学習意欲や態度についても、授業内で行うグループワークやディスカッションを通して評価する。</p> <p>【成績評価の方法】 おさらいテスト（10%）、グループ課題発表（10%）、課題レポート（10%）、中間テスト（20%）、期末テスト（50%）を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 マネジメント総論、スポーツマーケティング論、生涯スポーツ論を受講していることが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業毎のレポート課題については、翌週の授業の中で評価のポイントを提示し、解説する。定期試験に関しては、試験終了後、模範解答をJ-Pass上に掲載する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 1.（テキスト） 「スポーツ施設マネジメント（（公財）日本体育施設協会）」 教科書として使用するので、受講者は必ず購入する必要があります（授業内）。 2.（参考図書等） 月刊体育施設（SF）、ケーススタディ スポーツアクシデント改訂第4版、改訂生涯スポーツ実践論、日本のサッカースタジアム 今日そして明日 その他、授業中に適宜資料を配布します。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：黒須 充 E-mail：mkurosu@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：前期期間中の火曜日12:10～12:50、水曜日13:00～16:00、木曜日12:10～12:50 場所：1号館3階1323室（生涯スポーツゼミナール） この時間以外の来室は事前にE-mailで予約ください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 本授業では、これまでの「場所を貸す」だけの施設運営から、マーケティングやマネジメントの手法を導入した新たな施設経営のあり方について紹介する。こうした実際の現場で活用できる知識やノウハウを身につけたいと考えている意欲的な学生の受講を望む。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	黒須	<p>【授業内容】 オリエンテーション（含：資格の説明） 日本のスポーツ施設の種類、歴史と現状 【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。</p>	<p>授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について説明する。</p>
2	黒須	<p>【授業内容】 「スポーツ施設のマーケティング・マネジメント」について概説し、その手法を学ぶ。 【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 ・スポーツ施設のマーケティングについて、グループディスカッションし、まとめを行う。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設のマーケティング・マネジメントについて調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設のマーケティング・マネジメントの内容について復習する。</p>
3	黒須	<p>【授業内容】 「スポーツ施設の安全管理：事故と対策」について考える。 【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 スポーツにおける事故と対策について、グループディスカッションを行い、まとめを行う。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の安全管理、特に「事故と対策」について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の安全管理（事故と対策）について復習する。</p>
4	黒須	<p>【授業内容】 「屋内スポーツ施設の維持管理と諸規則」について解説する。 【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、屋内スポーツ施設の維持管理と諸規則について調べてくること。 復習（1.5時間）：屋内スポーツ施設の維持管理と諸規則について復習する。</p>
5	黒須	<p>【授業内容】 ド「スポーツ施設の音響と照明の維持管理」について解説し、事例を紹介する。 【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の音響と照明の維持管理について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の音響と照明の維持管理について復習する。</p>
6	黒須	<p>【授業内容】 「スポーツ施設の用器具の維持管理」について諸規則を解説し、用途・管理方法を学ぶ。 【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 用器具の維持管理方法についてグループディスカッションし、まとめる。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の用器具の維持管理について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の用器具の維持管理について復習する。</p>

7	黒須	<p>【授業内容】 「水泳プールの維持管理と諸規則」について解説し、安全・安心な維持管理法について考える。</p> <p>【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 水泳プールの安全・安心な維持管理について、グループディスカッションし、まとめを行う。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、水泳プールの維持管理と諸規則について調べてくること。 復習（1.5時間）：水泳プールの維持管理と諸規則について復習する。</p>
8	黒須	中間テストの実施	<p>予習（2時間）：第1回～7回の授業テキストや資料を通読すること。 復習（2時間）：第1回～7回の授業の中で理解が浅かった部分について復習する。</p>
9	黒須	<p>【授業内容】 課題発表</p> <p>【授業方法】 第1回～第8回までの授業内容（テーマ）に関して各グループ毎で発表する。</p>	<p>予習（3時間）：事例発表の準備をすること 復習（1時間）：事例発表に対する質疑応答の内容について、整理する。</p>
10	黒須	<p>【授業内容】 「スポーツ施設の診断（保全と劣化）」について概説し、スポーツ施設の維持について考える。</p> <p>【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 スポーツ施設の維持管理について、グループディスカッションを行い、発表する。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の診断（保全と劣化）について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の診断（保全と劣化）について復習する。</p>
11	黒須	<p>【授業内容】 「芝生の造成と維持管理（人工芝含む）」について概説し、事例を踏まえて諸規則を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、芝生の造成と維持管理（人工芝含む）について調べてくること。 復習（1.5時間）：芝生の造成と維持管理（人工芝含む）について復習する。</p>
12	黒須	<p>【授業内容】 「屋外スポーツ施設の維持管理と諸規則」について解説し、事例を紹介する。</p> <p>【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、屋外スポーツ施設の維持管理と諸規則について調べてくること。 復習（1.5時間）：屋外スポーツ施設の維持管理と諸規則について復習する。</p>
13	黒須	<p>【授業内容】 「民間フィットネスクラブの経営管理」について解説し、事例を含めて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 民間フィットネスクラブの経営について、グループディスカッションをし、まとめを行う。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、民間スポーツ施設の実例について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の経営管理：民間フィットネスクラブの経営管理について復習する。</p>

14	黒須	<p>【授業内容】 「指定管理者制度・公共スポーツ施設・都市計画」について解説し、事例を踏まえて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 公共スポーツ施設の管理・運営についてグループディスカッションを行い、発表する。</p>	<p>予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、指定管理者制度・公共スポーツ施設・都市計画について調べてくること。</p> <p>復習（1.5時間）：指定管理者制度・公共スポーツ施設・都市計画について復習する。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツイベントマネジメント		授業形態	講義およびグループディ
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	3	3・4	単位数	2.0
科目責任者	工藤 康宏			
科目担当者	工藤 康宏			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。博覧会、展示会、見本市、フェスティバル、会議、文化、スポーツ等のイベント、販売促進イベントなど、地域、企業、団体が催す各種のイベントなど、現代社会において、イベントはコミュニケーションメディアとして重要な役割を担っている。これらのイベント企画運営する場合には、専門的な知識やスキルが必要とされる。イベント産業に従事する人材育成と職務能力の醸成を目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツイベント含む、一般的なイベントに共通する基本的な業務知識を理解している。 2. イベントの業務を現代の社会的、経済的動向を結び付けて説明できる。 3. JACE（社団法人日本イベント産業振興協会）の定めるイベントの歴史や基礎知識、実務について理解する。JACEが行う「イベント業務管理士資格2級」に合格するレベルの知識を身につける。（資格試験、または筆記試験にて確認） 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツイベント含む、一般的なイベントに共通する基本的な業務知識を理解している。（レポート・筆記試験） 2. イベントの業務を現代の社会的、経済的動向を結び付けて説明できる。（レポート・筆記試験） 3. 授業中の発言、グループワークの取り組みなどによって、受講態度を評価する（平常点） 4. JACEが行う「イベント業務管理士資格2級」に合格するレベルの知識を身につける。（資格試験、または筆記試験にて確認） <p>【成績評価の方法】</p> <p>課題レポート2回程度（20%）、グループワーク（10%）、筆記試験または資格試験（50%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>資格試験受験の有無を問わず、テキストの購入が必要である。所属する運動部の試合運営や学内外のイベントの運営経験（資格受験希望者は3年相当程度）を要する（参加は運営に含まない）。講義内容の理解の確認や教員へのフィードバックのために、スマートフォンあるいはタブレット等のQRコードリーダーを使用する場合がある。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートおよび試験の解説を行います。「履修上の注意1」で示した形でフィードバックを行います。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>日本イベント産業振興協会（2019）イベント業務管理士公式テキスト1級・2級共通</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当： 工藤康宏</p> <p>E-mail：ykudou[at]Juntendo.ac.jp [at]を@に変更のこと</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>火曜 16:30-17:30</p> <p>木曜 13:00-14:00（前期）、金曜 13:00-14:00（後期）</p>				
備考				

<p>【学修時間】 本科目は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする 内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 本講座修了者は、(社)日本イベント産業振興協会が行う「イベント業務管理士2級」の受験資格を得ることができ、希望する場合、資格試験を受験することができる。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	工藤 （以下同様）	<p>【授業内容】 オリエンテーション、授業目的及び授業の進め方の解説。シラバスと評価方法の説明。 イベントと社会について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの起源や歴史についてテキストなどを用いて調べること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
2		<p>【授業内容】 イベントの概念・構造・機能、イベントの社会経済的効果</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの定義、効果についてテキストを用いて調べること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
3		<p>【授業内容】 イベントの事業主体や目的等による、様々な分類方法について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの様々な分類方法についてテキストを用いて調べること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
4		<p>【授業内容】 イベント業務全体の管理運営について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの4大管理について、テキストを用いて調べてくること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
5		<p>【授業内容】 イベントの企画と計画に基本的な手法、構造について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの企画と計画の違い、計画の基本構造についてテキストを用いて調べてくること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
6		<p>【授業内容】 イベントの入札、企画書の構成とプレゼンテーション</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。グループディスカッションを行う。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの企画書づくりと効果的なプレゼン方法について、テキストを用いて調べてくること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
7		<p>【授業内容】 イベントにおける告知や集客業務とその方法</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>（予習：2時間） イベントの告知・集客に関する基本的な考え方をテキストを用いて調べてくること</p> <p>（復習：2時間） 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>

8		<p>【授業内容】 イベントのプログラムの制作と演出について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) イベントプログラムの制作とそのポイントについてテキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
9		<p>【授業内容】 イベント会場の設営と施工計画、管理について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) イベント制作から施工までの用語の区別や内容、過程についてテキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
10		<p>【授業内容】 イベントの運営と事務局業務</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) イベント運営の考え方、事務局業務と当日の会場運営について、テキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
11		<p>【授業内容】 イベントの運営と事務局業務</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) イベント運営の考え方、事務局業務と当日の会場運営の特に実務について、テキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
12		<p>【授業内容】 イベントマーケティングの基礎と戦略について</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。グループディスカッションを行う。</p>	<p>(予習：2時間) イベントマーケティングの基礎としての関係性マーケティングについて、テキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
13		<p>【授業内容】 プロジェクトマネジメントとリスクマネジメントについて</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) プロジェクトマネジメントとはどのようなものか、テキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
14		<p>【授業内容】 イベントのコンプライアンスとユニバーサルイベント</p> <p>【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。</p>	<p>(予習：2時間) ユニバーサルイベントについて、テキストを用いて調べてくること</p> <p>(復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>
		<p>定期試験は実施しない(希望者は資格試験受験)</p>	